

「地域と学校の新たな協働体制の構築のための実証研究」
(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の新たな協働体制の構築のための実証研究
実施報告書

令和4年3月

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

<目 次>

I.	実証研究の概要	1
1-1.	事業の趣旨.....	1
1-2.	実証研究の内容.....	1
1-3.	実証研究の全体フロー.....	2
II.	実践検証（2つの地域でのCSポートフォリオ活用実践）	3
1	実施方針	3
1-1.	実証検証の目的.....	3
1-2.	対象地域の選定.....	3
2	実施内容	4
2-1.	事前準備.....	4
2-2.	アンケート調査の実施.....	5
2-3.	令和3年度版CSポートフォリオの作成.....	14
2-4.	研修の実施.....	17
III.	高等学校におけるCSポートフォリオ普及可能性の検討	49
1	調査概要	49
1-1.	検討趣旨.....	49
1-2.	高校におけるCS、地域学校協働活動の普及状況に係る事前仮説.....	49
1-3.	調査方法.....	50
1-4.	調査対象.....	51
2	ヒアリング調査結果	52
2-1.	高等学校の実態から導出されるCSポートフォリオ検討の論点.....	52
2-2.	CSポートフォリオの論点に対応する指標精査に係る意見.....	57
IV.	実施状況調査	59
1	調査概要	59
1-1.	調査方針.....	59
1-2.	調査対象.....	59
1-3.	調査期間.....	59
1-4.	調査方法.....	59
1-5.	調査項目.....	60

2	アンケート調査結果	61
2-1.	調査結果の主なポイント	61
2-2.	公表資料について	62
2-3.	結果詳細	62
V.	CS ポートフォリオの普及・展開に向けた検討	71
1	Google フォーム作成手順の簡略化	71
2	CS ポートフォリオ活用に向けた手引きの更新	72
3	CS フォーラム等における情報発信	74
VI.	実践検証のまとめ	75
1-1.	令和3年度実践検証より得られた示唆	75
1-2.	残された課題	78
VII.	参考資料	80
1	地域集約表の読み取り（詳細）	80

I. 実証研究の概要

1-1. 事業の趣旨

子供たちを取り巻く課題が複雑化、多様化している中、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会全体で子供たちの学びや成長を支え、多様な課題を共に解決するとともに、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の理念を踏まえ、子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることが求められている。

このため、文部科学省では、コミュニティ・スクール（以下、CS）及び地域学校協働活動を一体的に推進しているが、現状では CS の設置率は約 33%、地域学校協働本部の整備率は約 55%にとどまっている。また、CS と地域学校協働活動は、学校や地域をとりまく様々な課題を解決するためのプラットフォームとしての機能・役割を担うことも期待されることから、各地域において、より実効性のある連携・協働体制となることや協議や活動の中で不断の改善を図る仕組みなど、機能の更なる充実を図る必要がある。加えて、エビデンスに基づく政策形成が求められる中で、こうした地域と学校の連携・協働の効果及び現状について、より総合的な調査研究及びケーススタディを行うことで、施策効果を一層高めることが必要である。

本事業では、これまで実施した調査研究や既存の多様な調査結果やデータも踏まえ作成した、学校と地域の連携・協働の効果及び CS の状態の定量的把握・分析を行うための CS ポートフォリオを活用し、CS の導入促進や機能の充実に向けた効果的な推進方策について実践検証等を行った。

1-2. 実証研究の内容

本実証研究では、大きく次の3つの事業に取り組んでいる。

(1) R1～2年度事業の成果を踏まえた実践検証

令和元年度～令和2年度の実証研究において作成された CS ポートフォリオの普及・展開にあたっては、CS 設置者である教育委員会が自身の支援施策の改善に資することを実感することが不可欠であり、この観点から管轄する市区町村（教育委員会）単位で CS ポートフォリオの・導入・活用例をつくっていくことが有効である。

そこで、他の市区町村の参考となるモデル事例の発掘に向け、市区町村レベルにおける実践検証を行った。なお、実践検証は、対象市区町村における CS 導入促進、あるいは CS 運営の改善など、現在対象市区町村（教育委員会）の有するニーズや課題解決に寄与することも同時に目的に位置付けた。

(2) 高等学校における CS ポートフォリオ普及可能性の検討

令和元年度～令和2年度の実証研究においては、義務教育段階を対象とした効果検証指標

の検討及びCSポートフォリオの作成を行った。一方で、高校段階においては義務教育段階よりもCS導入率が低く、現在まさにCS導入推進が期待されているところである。

学区の考え方や「地域」の概念、授業における大人の関わり方等において義務教育段階とは大きな違いがある高校において、開発済みのCSポートフォリオをそのまま用いることは適切ではない。このため、本実証研究では、高等学校段階のCSポートフォリオに求められる考え方や構成を整理し、開発済みのCSポートフォリオを援用する方策を検討した。

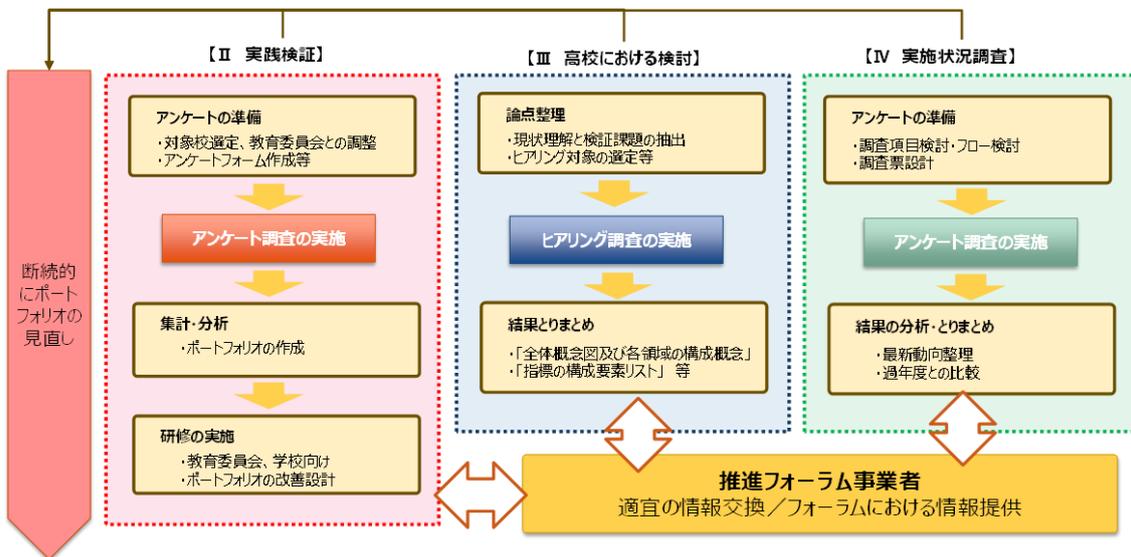
(3) CS・地域学校協働活動の導入状況の把握

毎年文部科学省において実施している「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査」を令和3年度調査を実施し、最新の導入状況について把握を行った。また、来年度以降の継続実施に向けて、効率的・効果的に調査を実施するためのフォーマット等を検討した。

1-3. 実証研究の全体フロー

上記の内容を踏まえた本実証研究の全体フローは以下の通りである。事業遂行にあたっては、同実証研究内の「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」の受託事業者とも適宜情報交換を行った。

図表 I-1 実証研究の実施フロー



II. 実践検証（2つの地域でのCSポートフォリオ活用実践）

1 実施方針

1-1. 実証検証の目的

本事業の目的は、CSポートフォリオ活用の実践検証を通して、実践地域でのCSの導入及び改善を支援するとともに、市区町村（教育委員会）単位でCSポートフォリオを活用するモデル事例を掘り起こし、CSポートフォリオの導入促進・機能充実のための方策を検討することである。R1～R2年度事業にて作成したCSポートフォリオは、小中学校を対象としたものであることから、実践検証にあたっては小中学校を調査対象とし、管轄する市区町村（教育委員会）レベルでモデル地域を設定した。

なお、CSポートフォリオについては過年度報告書において詳しく説明しているほか、その概要については後述の「2-4. (1) 一斉研修の実施」パートでも説明している。

【過年度報告書】

- ・令和元年度「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」実施報告書

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/mitubisiUFJ.pdf>

- ・令和2年度「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」実施報告書 第I部

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/houkokusyolufj.pdf>

1-2. 対象地域の選定

CSの導入時期により、市区町村（教育委員会）が抱えている課題や状況は異なると考えられることから、CSの導入時期を1つの選定軸として地域を選定した。例えば、導入開始から時間の経っている地域の場合は、導入校での現状把握・課題解消が導入促進・機能充実の鍵となる。一方で、導入開始まもない地域では、CSに関する知見がまだ十分に蓄積されていないといえ、CS導入の効果の見える化やより効果的な活動方策などの知見が今後の導入促進の後押しになると考えられる。

これらの状況を分ける時点として平成29年度を位置づける。CS設置が努力義務化されたことに加え、全国のCS導入校の数が同年前後ではほぼ半数ずつとなること、さらにCS導入校の状態（地域学校協働本部等との連携状況等）がこの時点前後で異なる傾向にあることから、CS導入が平成29年より前の地域と後の地域を選定することで、より多くの地域が自地域に近いモデル事例を発掘できると考えられる。

以上の選定の視点を踏まえ、実践検証地域は下記の通りとした。本報告書内では、具体的な地域名及び実践検証に協力いただいた学校名は伏せる形としている。

図表 II-1 対象地域

地域	地域特性	CS 導入・推進の状況
A 市	・人口 2 万人強 ・市内公立小中学校は 8 校	・令和 2 年度に市内全ての小中学校に CS 導入完了
B 市	・人口 20 万人弱 ・市内公立小中学校は 51 校	・平成 24 年度に市内全ての小中学校に CS 導入完了

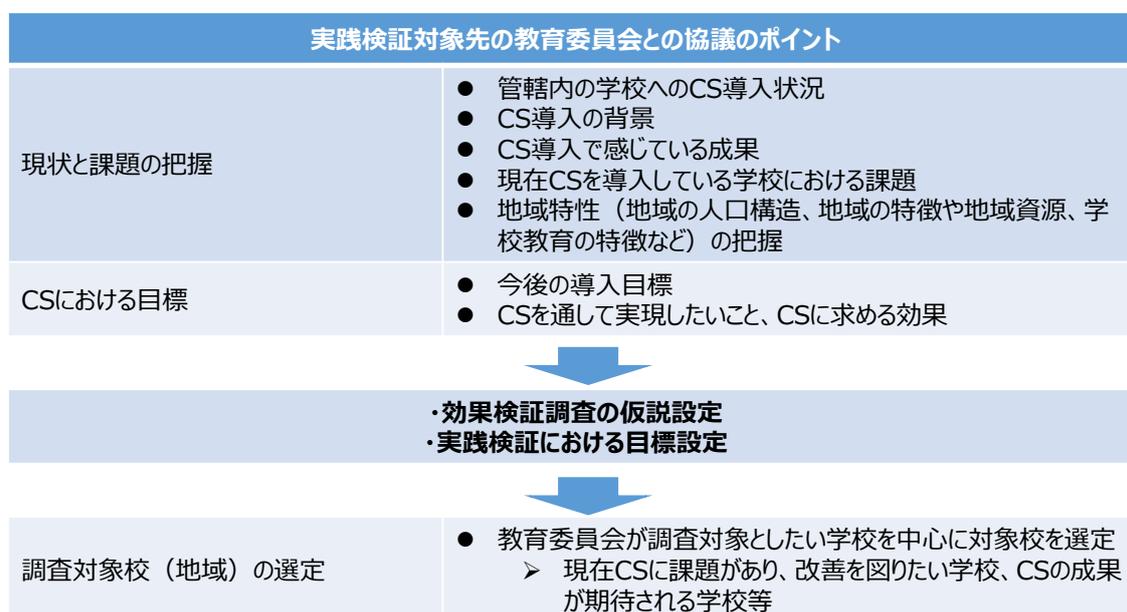
2 実施内容

2-1. 事前準備

CS の導入状況に加え、CS における課題や CS に求める効果は地域によって様々である。そのため、効果的な実践検証の実施のためには、各地域の現状把握、及び教育委員会担当者との目的の共有が不可欠である。本実践検証においては、対象地域の決定後、各教育委員会との協議の場を設け、各地域における CS の導入の目標及び現状と課題を共有した。

対象校（政令市の場合は特定の区など対象地域）の選定については、前述の協議内容を踏まえ、教育委員会によって任意に学校を選定していただいた。

図表 II-2 事前準備の流れ



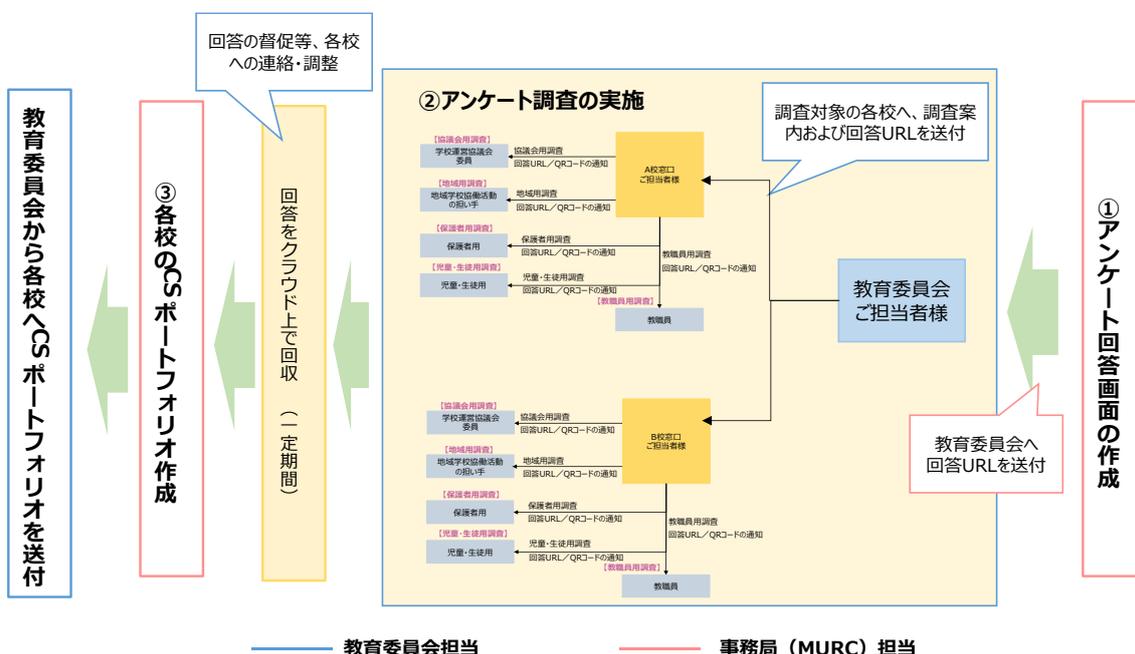
2-2. アンケート調査の実施

(1) 調査方法

各対象校において、R2 年度事業で作成された指標を用いたアンケート調査を実施した。調査の実施方法は、将来的な普及・展開を見据え、フリーツールである Google フォームを用いた WEB 調査としている。Google フォームの作成については、各地域の教育委員会で Google アカウントを作成し、それぞれに紐づく形で Google フォームを用意した。

アンケート調査は、教育委員会担当者より各校へ Google フォームの URL を案内し、各校より各回答者へ転送する形で実施した。具体的なフローは以下の通りである。

図表 II-3 実践検証フロー図



各校とのやり取りや調整については、日ごろよりコミュニケーションをとっている教育委員会が主導している。今後、各地域での自律的な調査継続を見据え、本実践検証においても、各校への回答 URL の送付や連絡調整等の役割を教育委員会が担当した。

各校の回答データ収集後は、各校の CS ポートフォリオを弊社で作成し、教育委員会へ返却ののち、教育委員会より各校へ送付された。

図表 II-4 実践検証における役割分担

調査段階	事務局 (MURC)	教育委員会	各対象校
調査準備	<ul style="list-style-type: none"> 各地域用のアンケート回答画面の作成 各教育委員会へ回答 URL を送付 	<ul style="list-style-type: none"> 各校へ調査案内および回答 URL の送付 	—

調査実施	— (教育委員会からの問い合わせ対応)	・各校からの問い合わせ対応 ・各校への回答の督促	・各校へ調査案内および回答 URL の送付
調査終了後	・各地域のデータ集計 ・各校のポートフォリオ作成 ・各校のポートフォリオを教育委員会へ還元 ・研修の実施	・各校へポートフォリオを還元 ・研修への参加	・研修への参加

(2) 調査対象

本アンケート調査では以下の 5 種類の調査を実施し、以下の配布対象を目安に各校の裁量にて配布を依頼した。

図表 II-5 調査概要及び調査対象

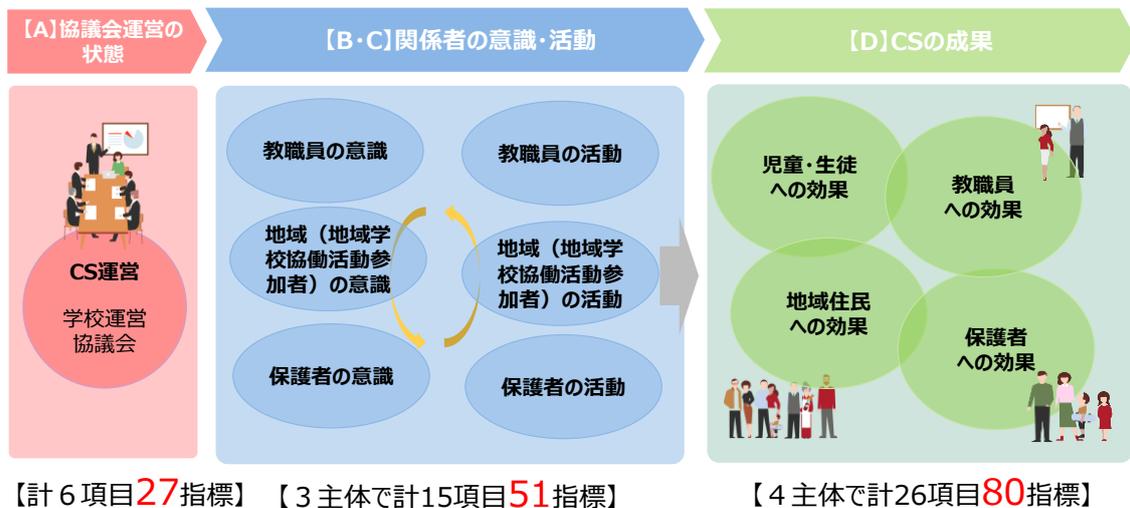
種類	事務局 (MURC)
協議会用	・学校運営協議会の状態や委員の意識、活動を問う調査票 ・学校運営協議会の全委員を対象とする
地域用	・地域学校協働活動に携わっている地域の大人 (協議会委員を含む、保護者を除く) の意識、活動を問う調査票 ・地域の大人 30 名程度を対象とする (依頼できる方が 30 名以下の場合は、その中なるべく多くの人数)
保護者用	・貴校の児童・生徒の保護者の意識、活動を問う調査票 ・下記で対象となる児童・生徒の保護者 (各家庭で 1 票) を対象とする
児童・生徒用	・児童・生徒の意識、活動を問う調査票 ・小学校 6 年または中学 3 年生の全児童・生徒を対象とする
教職員用	・教職員の意識、活動を問う調査票 ・全教職員を対象とする

(3) 調査項目

調査項目は、R2 年度事業にて作成した指標を用いた。これらの指標は、既往学術文献やCSの現場での実践者へのヒアリングから設定すべき指標群を洗い出し、「A: 協議会運営の状態」「B: 関係者の意識」「C: 関係者の活動」「D: CSの成果」のA~Dの領域に落とし込んだものである。

そして、これらの指標の状態を把握するためにCS関係者（協議会委員、教職員、地域住民、保護者、児童・生徒）に対するアンケートを行い、その結果を用いてCSポートフォリオを作成する。次ページ以降では、各領域に含まれる指標を一覧化している。

図表 II-6 CSポートフォリオに含まれる要素



図表 II-7 アンケート対象と内容

	協議会委員	教職員	地域住民	保護者	児童・生徒
CSの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域への愛着の高まり ・貢献・生きがいの実感など 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域への愛着の高まり ・授業負担の減少など 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域への愛着の高まり ・貢献・生きがいの実感など 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域への愛着の高まり ・貢献・生きがいの実感など 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の向上 ・地域への愛着・貢献意識の向上 ・学校・教職員・地域との関係性
関係者の意識・活動	<ul style="list-style-type: none"> 意識 ・「地域とともにある学校」という認識 など 活動 ・学校の教育活動への参画 など 	<ul style="list-style-type: none"> 意識 ・「地域とともにある学校」という認識 など 活動 ・授業における地域・保護者との連携 など 	<ul style="list-style-type: none"> 意識 ・「地域とともにある学校」という認識 など 活動 ・学校の教育活動への参画 など 	<ul style="list-style-type: none"> 意識 ・「地域とともにある学校」という意識 など 活動 ・家庭教育活動の実践 など 	—
協議会運営の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自律性 ・対等性 ・持続性 ・熟議度 ・実行性 ・共有性 	—	—	—	—

① 協議会運営の状態（A領域）

CS導入の効果を検証するためには、CS導入の有無だけでなく、CS導入を特徴づける状態を指標化する必要がある。CSが学校運営のガバナンス改善を意図した政策であることに注目し、CS導入が「どのような側面のガバナンスを改善するのか」をいくつかの側面から指標群を設定している。

図表 II-8 A領域指標

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
自律性	法定3権限の有無	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う
		学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある
		教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある
	法定3権限の適切な運用	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている 教職員だけでなく、協議会やその構成メンバーに、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある
対等性	関係主体の対等性	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある 子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある
	議論の対等性	議論は、特定の人意見に左右されることはない 協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある
持続性	協議会の目的・目標の共有	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている 学校、家庭、地域全体で地域で育てたい子ども像が共有されている
	持続的な議論体制	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある
		学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある
熟議度	企画段階からの協議	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある
	見直しが許容される協議	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある
		当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある
	内省・評価の実施・反映	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある 学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている
実行性	学校長の主導的役割	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと実感することがある 協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている
	実行を見据えた役割分担	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきことが明確になっている 協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある
	教職員との協力・連携	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている
共有性	多様な主体の巻き込み	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている
	情報の共有	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している
		学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている
協議会からの情報発信	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	

② 関係者の意識（B領域）

CS運営の主たる関係者となる教職員、地域の大人（学校運営協議会委員）に担い手としての認識を訊ねる。それぞれの主体に認識、相互の信頼や理解に関する認識を訊ねる指標を設定している。

図表 II-9 B領域指標（教職員）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
「地域とともにある学校」という認識	「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ
		地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう
		より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある
協議会の意義の理解	協議会への関心	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している
		協議会での協議・決定事項に関心がある
		学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある
	協議会への効力感	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ
協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい		

図表 II-10 B領域指標（地域）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
「地域とともにある学校」という認識	「地域とともにある学校」という認識	地域の子どもの成長のためには、自分にも役割がある
		保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要なことだ
		参加する活動は子どもや学校にとって意義のあるものだ
地域ぐるみの教育活動への理解	ビジョンの共有	学校の教育目標も意識して、学校支援などの各活動に取り組んでいる
		学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている
	活動全体像の理解	活動（学校支援活動・地域学校協働活動）の参加者同士で、活動目的や内容を話し合う機会がある
		自分の参加する活動以外に、どのような活動があるか知っている

図表 II-11 B領域指標（保護者）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
「地域とともにある学校」という認識	「地域とともにある学校」という認識	子どもは、学校や保護者、地域住民と一緒に育てていくものだ
		保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要なことだ
		参加する学校行事や活動は、意義のあるものだ
地域ぐるみの教育活動への理解	ビジョンの共有	子どもの通う学校の定める、学校教育目標の内容を概ね理解している
		学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている
	協働活動の理解	子どもの通う学校において、地域住民が学校の教育活動（授業等）の一翼を担っていることを知っている
		学校外でも、地域住民が子どもの学びを支援していることを知っている

③ 関係者の活動（C領域）

CS運営における主たる教育活動の担い手となる教職員、地域の大人（含む学校運営協議会委員）、保護者の活動（及びその背景にある意思）について、各自が提供している教育活動の機会について把握する指標を設定している。

図表 II-12 C領域指標（教職員）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
授業における地域住民・保護者との連携	授業における地域との連携	地域との協働だからできる授業がある
		授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする
		授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある
		教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う
生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	生徒指導・生活指導における地域との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする
		地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある
地域住民・保護者との交流	地域の大人との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる
		学校での活動について、保護者や地域住民に相談する

図表 II-13 C領域指標（地域）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
学校の教育活動への参画	継続的な参画	複数年次にわたり参画している活動がある
	学校への協力	心配な子どもがいた時、その情報を教職員に提供する 自分にできる範囲で、授業や学校での活動に協力する
教職員・地域住民・保護者との交流	教職員や地域住民との交流	子どものことについて、教職員や地域住民・保護者と一緒に協議したり、考えたりする 学校内で教職員や地域住民等と気軽に話をする機会・場（コミュニティルーム等）に足を運ぶ
地域教育活動の実践	地域の子どもの接触	地域で子どもを見かけたら、挨拶する
		地域の子どもを褒める
	地域教育活動の充実	授業や学校行事の中で、子どもと一緒に活動する
		地域行事やイベントの中で、子どもと一緒に活動する 地域行事やイベントでは、子どもに企画段階からの参加を促している

図表 II-14 C領域指標（保護者）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
学校の教育活動への参画	継続的な参画	学級懇談会やPTAの集まりにはできるだけ参加する
	学校への協力	心配な子どもがいた時、その情報を教職員に提供する 自分にできる範囲で、授業や学校での活動に協力する
教職員・地域住民・保護者との交流	教職員や保護者との交流	学校や子どものことについて、教職員や地域住民・保護者と一緒に協議したり、考えたりする 学校内で教職員や地域住民等と気軽に話をする機会・場（コミュニティルーム等）に足を運ぶ 自分の子どもの友達の親と交流する
家庭教育活動の実践	地域の子どもの接触	自分の子どもの友達を褒める
		自分の子どもの友達が悪いことをしたら、注意する
	家庭教育活動の充実	子どもと一緒に、地域の文化に触れたり、学んだりする
		学校や地域での学びも意識して、家庭教育を行う 自分の子どもを、地域行事や地域での活動に参加するよう促す

④ 子どもへの効果（D領域）

関係者の活動の裏返しとして、これらの教育活動を享受している子どもが認識している機会の変化について把握する指標を設定している。

図表 II-15 D領域指標（子ども：享受する機会の変化）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
学校での地域との関わり	学校での地域との関わり	授業の中で、住んでいる地域のことについて学ぶ
		授業や学校行事の中で、地域の人と一緒に活動する
地域における大人との関わり	地域の大人との接触機会（の増加）	学校の中で、先生以外の大人を見かける
		地域の人に褒めてもらう
	地域のお祭りなど地域の行事やイベントに参加する	
地域における異年齢の関わり	地域の大人と共に活動する機会（の増加）	地域の人と一緒に、地域の行事の企画や準備に取り組む
		学校や家の近所で、地域の人のお手伝いをする
地域における異年齢の関わり	ナナメの関係の接触機会（の増加）	地域のほかの学校の子ともと交流する
		地域の、違う学年の人と交流する
保護者との関わり	保護者との関わり	自分の親が、授業参観や学校行事で学校に来る
		自分の親が、家で勉強を教えてくれる
		自分の親と一緒に、地域の文化や風習に触れたり、学んだりする
		自分の親が、学校での話を聞いてくれる

図表 II-16 D領域指標（子ども：学校・教職員、地域との関係性）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
教職員への関心・信頼の向上	教職員への関心・信頼	自分のよいところを認めてくれる先生がいる
		何でも話したり、相談したりしたい先生がいる
学校への愛着・誇りの高まり	学校への愛着・誇り	学校生活は楽しい
		自分の学校はすばらしい学校だ
地域の大人への関心・信頼の向上	地域の大人への関心・信頼	地域の大人は、自分を見守ってくれている
		地域の人と、もっと関わりたい

CS 運営による教育活動の享受者である子どもに、資質・能力に関する認識、地域への関心・生活の質に関する認識を訊ねる指標を設定している。

図表 II-17 D領域指標（子ども：資質・能力の向上）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
自己肯定感	自己受容	今の自分を気に入っている
	自信	自分はやればできる人間だと思う 学校の勉強は、よく分かる
規範意識・行動	規範意識	みんなで決めたことは守るべきだと思う
		先生に注意されたことはきちんと守る
		友達から誘われても、やってはいけないことはやらない
		友だちがいじめをしていたら注意する
		人を傷つけることをわざとと言う（反転項目） 人が困っているときは進んで助けている
やり抜く力	意欲の向上	学校や地域でふれあう大人の活動や様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある
	挑戦する姿勢	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している
	レジリエンス	やると決めたことは、粘り強く、最後まであきらめずにやり通す 困ったことがおきても、どうにかできると思う
ソーシャルスキル	あいさつ	近所や知り合いの人にあいさつする
	聞く姿勢	先生や友達が話している時に、最後まで聞くことができる
	自己表現	他の人と異なる意見でも、自分の意見を言える
	協働性	誰とでも協力をしてグループ活動をする
学習意欲	知的好奇心	学校で習ったことや地域の人に教えてもらったことについて、もっと詳しく知りたいし、調べたい
	学習意欲	新しいことをつぎつぎ学びたい
キャリア意識	将来の夢・目標	将来の夢や目標を持っている
	自分の将来を自分で考える力	親や先生の意見を聞くだけでなく、自分で自分が何をしたいのか考えることができる

図表 II-18 D領域指標（子ども：地域への愛着・貢献意識の向上）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
地域への愛着の高まり	地域への関心	地域の歴史や行事、地域で起きた問題に興味がある 地域の中での活動や、地域の人と交流することは楽しい
	地域への愛着	いま住んでいる地域が好きである 将来も今住んでいる地域に住み続けたい
地域への帰属意識の高まり	地域への帰属意識	自分は今住んでいる地域の一員だと感じる この地域で起こっている問題は、自分にも関係がある
地域貢献意識の高まり	地域への貢献意識	自分も地域の人役に立ちたい 地域のために自分には何が出来るか考えることがある

⑤ 大人への効果（D領域）

CS運営による教育活動の担い手自身である教職員、地域の大人、保護者が実感している波及効果に関する認識を訊ねる指標を設定している。

図表 II-19 D領域指標（大人：教職員）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
学校・地域への愛着の高まり	学校・職業への愛着	教師という仕事にやりがいを感じる
	地域への愛着	学校のある地域に愛着を感じる 今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい
保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている
		保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる
授業力の向上	教職員の資質・能力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している 授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる
	授業の質向上の実感	授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる 地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある 地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる
生徒指導・生活指導の負担の減少	生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる
		地域の人が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている 地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている
保護者対応の負担の減少	保護者対応の負担の減少	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない
		保護者や地域住民対応の負担は大きくない

図表 II-20 D領域指標（大人：地域、保護者）

小分類	細分類（参考）	見直し後指標
学校・地域への愛着の高まり	学校への愛着	地域の学校に愛着を感じる
	地域への愛着	いま住んでいる地域が好きである 今後も今住んでいる地域に住み続けたい
学校への信頼の高まり	学校への信頼の高まり	今後も何らかのかたちで、学校や子どもに関する活動に関わり続けたい 学校には、子どもたちを安心して任せられる
貢献・生きがいの実感	貢献・生きがいの実感	地域に貢献している実感がある
		学校や地域での活動への参加を通して、充実感を感じる 地域の子どもの成長に貢献している実感がある
生涯学習意識の高まり	生涯学習意識の高まり	どのような年齢になっても学び、学び直しをしたい
		地域活動やボランティアに参加したい
地域内でのソーシャルキャピタルの醸成	つながりの醸成	地域の中に信頼できる仲間がいると感じる 学校での活動を通して新たなコミュニティやつながりを得られている
	互惠性の醸成	生活の中で、地域の大人や子どもに助けられることがある 自分も、地域の大人や子どもの力になりたい
地域の担い手意識の高まり	地域への所属感	自分は今住んでいる地域の一員だと感じる
	地域の担い手意識	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある 地域の良さを次世代に受け継ぎたい この地域の将来は、自分たちにかかっていると思う

2-3. 令和3年度版CSポートフォリオの作成

学校・教育委員会等においてより使いやすいCSポートフォリオとすることを目的に、令和2年度に作成したR2版CSポートフォリオをベースとして、R3版CSポートフォリオを作成した。変更点は以下の通りである。

(1) 詳細表の内容精査

2ページ以降の詳細表について、R2版CSポートフォリオでは、自校・比較対象地域について肯定的割合(%)と平均値を並列していたが、平均値については差が出にくく、傾向の読み取りに使い辛いため、R3版CSポートフォリオでは割愛した。ただし、CSポートフォリオファイルを構成するローデータシートにおいては、各設問の平均値も確認できるようになっている。

また、R2版CSポートフォリオの「比較対象校・地域」における「特徴」では、各小分類(「自律性」「対等性」など)の指標の中で、最も高い肯定的割合を示すものと最も低い区艇的回答割合を示すものに「★」印をつけていた。しかし、本項目も読み取りにおいてほとんど使用しないため、R3版CSポートフォリオでは割愛とした。

図表 11-21 R2版CSポートフォリオ (A: 協議会の運営)

A 協議会の運営	自校の結果			比較対象校・地域				過去調査結果との比較			推移のグラフ	
	割合(%)	前回比	全体	割合(%)	差(pt)	平均値	特徴	前回	今回			
			平均値			最高値	最低値					
自律性	76.7%	-8.1pt	3.15	84.8%	-8.1pt	3.37			84.8%	84.8%	76.7%	自律性
協 2 学校運営の基本方針の承認にあり、協議会委員による議論を行う	100.0%	5.5pt	3.50	94.5%	5.5pt	3.63			94.5%	94.5%	100.0%	
協 3 学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	100.0%	4.7pt	3.58	95.3%	4.7pt	3.70			95.3%	95.3%	100.0%	
協 4 教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	0.0%	-44.9pt	1.42	44.9%	-44.9pt	2.35	★		44.9%	44.9%	0.0%	
協 5 教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	83.3%	-7.3pt	3.50	90.7%	-7.3pt	3.44			90.7%	90.7%	83.3%	
協 6 協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	100.0%	1.5pt	3.75	98.5%	1.5pt	3.72	★		98.5%	98.5%	100.0%	
対等性	89.6%	4.6pt	3.38	85.0%	4.6pt	3.32			85.0%	85.0%	89.6%	対等性
協 7 地域住民からの意見や提案が持ち込まれることがある	83.3%	1.1pt	3.25	82.2%	1.1pt	3.25			82.2%	82.2%	83.3%	
協 8 子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	91.7%	17.3pt	3.33	74.3%	17.3pt	3.04	★		74.3%	74.3%	91.7%	
協 9 議論は、特定の人の意見に左右されることはない	91.7%	3.3pt	3.58	88.3%	3.3pt	3.38			88.3%	88.3%	91.7%	
協 10 協議会内は、忌憚ない意見を出し合える雰囲気がある	91.7%	-3.4pt	3.33	95.0%	-3.4pt	3.61	★		95.0%	95.0%	91.7%	
持続性	94.4%	3.9pt	3.53	90.6%	3.9pt	3.42			90.6%	90.6%	94.4%	持続性
協 11 学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている	75.0%	-15.4pt	3.17	90.4%	-15.4pt	3.43			90.4%	90.4%	75.0%	
協 12 学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	91.7%	0.7pt	3.50	91.0%	0.7pt	3.43			91.0%	91.0%	91.7%	
協 13 校長等、教職員の賛同に関わらず、継続して議論ができる体制がある	100.0%	7.3pt	3.67	92.7%	7.3pt	3.50	★		92.7%	92.7%	100.0%	
協 14 学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	91.7%	3.6pt	3.42	88.0%	3.6pt	3.34	★		88.0%	88.0%	91.7%	
熟慮度	91.7%	7.5pt	3.37	84.2%	7.5pt	3.22			84.2%	84.2%	91.7%	熟慮度
協 15 協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある	83.3%	10.2pt	3.08	73.2%	10.2pt	2.99	★		73.2%	73.2%	83.3%	
協 16 学校側の提議事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	91.7%	-2.2pt	3.33	93.9%	-2.2pt	3.46	★		93.9%	93.9%	91.7%	
協 17 当初の提案が、議論によって変更・改善されることがある	100.0%	20.7pt	3.50	79.3%	20.7pt	3.08			79.3%	79.3%	100.0%	
協 18 協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	91.7%	6.2pt	3.42	85.4%	6.2pt	3.25			85.4%	85.4%	91.7%	
協 19 学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	91.7%	2.5pt	3.50	89.2%	2.5pt	3.34			89.2%	89.2%	91.7%	
実行性	90.0%	-0.5pt	3.40	90.5%	-0.5pt	3.36			90.5%	90.5%	90.0%	実行性
協 20 校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	75.0%	-11.0pt	3.33	86.0%	-11.0pt	3.25			86.0%	86.0%	75.0%	
協 21 協議された事項の実行にあり、学校長は期待される役割を果たしている	91.7%	-4.3pt	3.67	95.9%	-4.3pt	3.51	★		95.9%	95.9%	91.7%	
協 22 協議の結果、各主体(学校・保護者・地域の大人等)が実行すべきこと・役割分担が明確になる	83.3%	-2.4pt	3.08	85.7%	-2.4pt	3.19	★		85.7%	85.7%	83.3%	
協 23 協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	100.0%	7.9pt	3.33	92.1%	7.9pt	3.49			92.1%	92.1%	100.0%	
協 24 協議された事項の実行にあり、教職員は期待される役割を果たしている	100.0%	7.3pt	3.58	92.7%	7.3pt	3.36			92.7%	92.7%	100.0%	
共有性	81.3%	4.7pt	3.25	76.5%	4.7pt	3.05			76.5%	76.5%	81.3%	共有性
協 25 地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	75.0%	24.0pt	3.08	51.0%	24.0pt	2.54			51.0%	51.0%	75.0%	
協 26 学校教育目標や学校運営の基本方針が幅広い層で共有されており、内容は理解している	100.0%	7.9pt	3.50	92.1%	7.9pt	3.37	★		92.1%	92.1%	100.0%	
協 27 学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	66.7%	-15.3pt	3.08	81.9%	-15.3pt	3.18			81.9%	81.9%	66.7%	
協 28 協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	83.3%	2.3pt	3.33	81.0%	2.3pt	3.10			81.0%	81.0%	83.3%	

R3版CSポートフォリオでは、「自校の結果」の「今回」の列に今回調査の肯定的回答割合を示したうえで、「前回比」「地域比」においては前回調査結果及び地域平均値との比較ができるようになっている。また、補足情報として、「地域の結果」で地域平均値を、「自校の結果の推移」で最大3年間(前々回・前回・今回)の結果の推移が確認できるようになっている。

図表 II-22 R3版CSポートフォリオ (A: 協議会の運営)

A	協議会の運営	自校の結果										地域の結果		自校の結果の推移				推移のグラフ
		今年		前年度		増減比		地域平均		前々回		前年		今年		割合(%)の推移		
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)			
自律性																		
協2	学校運営の基本方針の承認にあり、協議会委員による議論を行う	100.0%	5.5pt	5.5pt	94.5%	94.5%	94.5%	94.5%	94.5%	94.5%	94.5%	94.5%	100.0%	100.0%				
協3	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	100.0%	4.7pt	4.7pt	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	100.0%	100.0%				
協4	教職員に任用について提案や意見を述べる機会がある	46.2%	1.3pt	1.3pt	44.9%	44.9%	44.9%	44.9%	44.9%	44.9%	44.9%	44.9%	46.2%	46.2%				
協5	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをまなした学校運営を行っている	84.6%	-1.1pt	-1.1pt	90.7%	90.7%	90.7%	90.7%	90.7%	90.7%	90.7%	90.7%	84.6%	84.6%				
協6	協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくをする自覚がある	100.0%	1.5pt	1.5pt	98.5%	98.5%	98.5%	98.5%	98.5%	98.5%	98.5%	98.5%	100.0%	100.0%				
対等性																		
協7	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	80.8%	-1.4pt	-1.4pt	82.2%	82.2%	82.2%	82.2%	82.2%	82.2%	82.2%	82.2%	80.8%	80.8%				
協8	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	92.3%	18.0pt	18.0pt	74.3%	74.3%	74.3%	74.3%	74.3%	74.3%	74.3%	74.3%	92.3%	92.3%				
協9	議論は、特定の人の意見に左右されない	92.3%	4.0pt	4.0pt	88.3%	88.3%	88.3%	88.3%	88.3%	88.3%	88.3%	88.3%	92.3%	92.3%				
協10	協議会内は、多様な意見を話し合える雰囲気がある	92.3%	-2.7pt	-2.7pt	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	92.3%	92.3%				
持続性																		
協11	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている	76.9%	-13.5pt	-13.5pt	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	90.4%	76.9%	76.9%				
協12	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	92.3%	1.3pt	1.3pt	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	92.3%	92.3%				
協13	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	100.0%	7.3pt	7.3pt	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	100.0%	100.0%				
協14	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	92.3%	4.3pt	4.3pt	88.0%	88.0%	88.0%	88.0%	88.0%	88.0%	88.0%	88.0%	92.3%	92.3%				
熟慮度																		
協15	協議会で議論する課題の選定、議論の企画段階から関与することがある	84.6%	11.4pt	11.4pt	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	73.2%	84.6%	84.6%				
協16	学校の授業計画を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	92.3%	-1.6pt	-1.6pt	93.9%	93.9%	93.9%	93.9%	93.9%	93.9%	93.9%	93.9%	92.3%	92.3%				
協17	当初の議題が、議論によって変更・改題されることある	100.0%	20.7pt	20.7pt	79.3%	79.3%	79.3%	79.3%	79.3%	79.3%	79.3%	79.3%	100.0%	100.0%				
協18	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内容を評価する機会がある	92.3%	6.9pt	6.9pt	85.4%	85.4%	85.4%	85.4%	85.4%	85.4%	85.4%	85.4%	92.3%	92.3%				
協19	学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	92.3%	3.1pt	3.1pt	89.2%	89.2%	89.2%	89.2%	89.2%	89.2%	89.2%	89.2%	92.3%	92.3%				
実行性																		
協20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義なものと感じることがある	73.1%	-12.9pt	-12.9pt	86.0%	86.0%	86.0%	86.0%	86.0%	86.0%	86.0%	86.0%	73.1%	73.1%				
協21	協議会での議論・決定事項にあり、学校は期待される役割を果たしている	92.3%	-3.6pt	-3.6pt	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	92.3%	92.3%				
協22	協議会の結果、各主体(学校・保護者・地域の大人等)が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	84.6%	-1.1pt	-1.1pt	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	85.7%	84.6%	84.6%				
協23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	100.0%	7.9pt	7.9pt	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	100.0%	100.0%				
協24	協議会での議論の実行にあり、教職員は期待される役割を果たしている	100.0%	7.3pt	7.3pt	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	100.0%	100.0%				
共有性																		
協25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	76.9%	6.2pt	6.2pt	76.5%	76.5%	76.5%	76.5%	76.5%	76.5%	76.5%	76.5%	76.9%	76.9%				
協26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認し易い形で共有されており、内容は理解している	100.0%	7.9pt	7.9pt	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	92.1%	100.0%	100.0%				
協27	学校の組織や協力は、協議会委員の中で共有されている	69.2%	-12.7pt	-12.7pt	81.9%	81.9%	81.9%	81.9%	81.9%	81.9%	81.9%	81.9%	69.2%	69.2%				
協28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	84.6%	3.6pt	3.6pt	81.0%	81.0%	81.0%	81.0%	81.0%	81.0%	81.0%	81.0%	84.6%	84.6%				

(2) グループ化機能の追加

R3版ポートフォリオでは、エクセルの「グループ化」機能を使用して、不要な行を折りたたみ、必要な部分のみ表示させることができるように更新した。図表 II-23 は、R3版CSポートフォリオ2ページ目目の「関係者の意識」部分である。赤い矢印の先に「-」マークが見えるが、これをクリックすることで、「B 教育員の意識」「B 協働活動参加者の意識」「B 保護者の意識」それぞれが折りたたむようになっている。

図表 II-23 R3版CSポートフォリオ (B: 関係者の意識)

B	関係者の意識	自校の結果										地域の結果		自校の結果の推移				推移のグラフ
		今年		前年度		増減比		地域平均		前々回		前年		今年		割合(%)の推移		
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)			
B 教育員の意識																		
協2	「地域とともある学校」という認識	89.2%	-0.6pt	-0.6pt	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	89.2%	89.2%				
協3	保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要とこだ	90.3%	-2.9pt	-2.9pt	93.2%	93.2%	93.2%	93.2%	93.2%	93.2%	93.2%	93.2%	90.3%	90.3%				
協4	地域の人が関わり、学校運営が活況している(反転項目)	77.4%	-1.2pt	-1.2pt	78.6%	78.6%	78.6%	78.6%	78.6%	78.6%	78.6%	78.6%	77.4%	77.4%				
協5	より良い学校づくりのためは、地域の人も学校の様子を知ってもらう必要がある	100.0%	2.2pt	2.2pt	97.8%	97.8%	97.8%	97.8%	97.8%	97.8%	97.8%	97.8%	100.0%	100.0%				
協6	協議会の意義の理解	78.7%	6.8pt	6.8pt	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	78.7%	78.7%				
協7	協議会での協議・決定内容の情報は、定期的に確認している	80.8%	7.8pt	7.8pt	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	80.8%	80.8%				
協8	協議会での協議・決定事項に関する情報がある	71.0%	-7.2pt	-7.2pt	78.1%	78.1%	78.1%	78.1%	78.1%	78.1%	78.1%	78.1%	71.0%	71.0%				
協9	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	61.3%	20.2pt	20.2pt	41.1%	41.1%	41.1%	41.1%	41.1%	41.1%	41.1%	41.1%	61.3%	61.3%				
協10	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	90.3%	0.5pt	0.5pt	89.8%	89.8%	89.8%	89.8%	89.8%	89.8%	89.8%	89.8%	90.3%	90.3%				
協11	協議会での協議によって、何か役割が与えられたらうれしい	90.3%	12.6pt	12.6pt	77.7%	77.7%	77.7%	77.7%	77.7%	77.7%	77.7%	77.7%	90.3%	90.3%				
B 協働活動参加者の意識																		
協12	「地域とともある学校」という認識	93.3%	-1.4pt	-1.4pt	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	93.3%	93.3%				
協13	地域の子どもたちの成長のためには、自分にも役割がある	91.4%	-1.2pt	-1.2pt	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	92.7%	91.4%	91.4%				
協14	保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要とこだ	94.3%	-1.6pt	-1.6pt	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	95.9%	94.3%	94.3%				
協15	参加する活動は子どもや学校にとって意義のあるものだ	94.3%	-1.4pt	-1.4pt	95.7%	95.7%	95.7%	95.7%	95.7%	95.7%	95.7%	95.7%	94.3%	94.3%				
協16	地域ぐるみの教育活動への理解	66.4%	-3.6pt	-3.6pt	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	66.4%	66.4%				
協17	学校の教育目標を認識して、学校支援などの各活動に取り組んでいる	68.6%	-9.2pt	-9.2pt	77.8%	77.8%	77.8%	77.8%	77.8%	77.8%	77.8%	77.8%	68.6%	68.6%				
協18	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	77.1%	4.8pt	4.8pt	72.3%	72.3%	72.3%	72.3%	72.3%	72.3%	72.3%	72.3%	77.1%	77.1%				
協19	活動(学校支援活動・地域学校協働活動)の参加者同士で、活動目的や内容を話し合う機会がある	62.9%	-3.0pt	-3.0pt	65.9%	65.9%	65.9%	65.9%	65.9%	65.9%	65.9%	65.9%	62.9%	62.9%				
協20	自分の参加する活動以外に、どのような活動があるか知っている	57.1%	-6.9pt	-6.9pt	64.1%	64.1%	64.1%	64.1%	64.1%	64.1%	64.1%	64.1%	57.1%	57.1%				
B 保護者の意識																		
協21	「地域とともある学校」という認識	92.3%	2.0pt	2.0pt	90.3%	90.3%	90.3%	90.3%	90.3%	90.3%	90.3%	90.3%	92.3%	92.3%				
協22	子どもは、学校や保護者、地域住民と一緒に育てていくものだ	100.0%	6.4pt	6.4pt	93.6%	93.6%	93.6%	93.6%	93.6%	93.6%	93.6%	93.6%	100.0%	100.0%				
協23	保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要とこだ	84.6%	0.1pt	0.1pt	84.6%	84.6%	84.6%	84.6%	84.6%	84.6%	84.6%	84.6%	84.6%	84.6%				
協24	参加する学校行事や活動は、意義のあるものだ	92.3%	-0.3pt	-0.3pt	92.6%	92.6%	92.6%	92.6%	92.6%	92.6%	92.6%	92.6%	92.3%	92.3%				
協25	地域ぐるみの教育活動への理解	74.4%	-0.3pt	-0.3pt	74.7%	74.7%	74.7%	74.7%	74.7%	74.7%	74.7%	74.7%	74.4%	74.4%				
協26	子どもの進捗や学校の進め、学校教育目標の内容を概ね理解している	79.5%	3.4pt	3.4pt	76.1%	76.1%	76.1%	76.1%	76.1%	76.1%	76.1%	76.1%	79.5%	79.5%				
協27	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	53.8%	-10.4pt	-10.4pt	64.3%	64.3%	64.3%	64.3%	64.3%	64.3%	64.3%	64.3%	53.8%	53.8%				
協28	子どもの進捗や学校の進め、学校教育目標の内容を概ね理解している	84.6%	3.9pt	3.9pt	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	84.6%	84.6%				
協29	学校外でも、地域住民が子どもの学びを支えていることを知っている	79.5%	1.9pt	1.9pt	77.6%	77.6%	77.6%	77.6%	77.6%	77.6%	77.6%	77.6%	79.5%	79.5%				
B 教職員の活動(の変化)																		

例えば、この機能を使用して「B 協働活動参加者の意識」及び「B 保護者の意識」を折りたたんだものが、図表 II-24 である。このように、「B 教職員の意識」と「C 教職員の活動（の変化）」を並べることで、同じ主体の中での意識や活動、成果実感の指標が確認しやすい形へと更新した。

図表 II-24 R3版CSポートフォリオ（B～C：関係者の意識・活動）

教職員の意識		自校の結果				地域の結果		自校の結果の推移				推移のグラフ
		今回	前回比	地域比	地域平均	前々回	前回	今回	前々回	前回		
【地域とともにある学校という認識】		割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)の推移	「地域とともにある学校」という認識
教 2	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	89.2%	-0.5pt	-0.5pt	89.9%	89.9%	89.9%	89.9%	89.2%	89.2%		
教 3	地域の人が変わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目）	77.4%	-1.2pt	-1.2pt	78.6%	78.6%	78.6%	78.6%	77.4%	77.4%		
教 4	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	100.0%	2.2pt	2.2pt	97.8%	97.8%	97.8%	97.8%	100.0%	100.0%		
【協議会の意義の理解】		78.7%	6.8pt	6.8pt	71.9%	71.9%	71.9%	71.9%	78.7%	78.7%	協議会の意義の理解	協議会の意義の理解
教 5	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	80.6%	7.8pt	7.8pt	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%	80.6%	80.6%		
教 6	協議会での協議・決定事項に賛同がある	71.0%	-7.2pt	-7.2pt	78.1%	78.1%	78.1%	78.1%	71.0%	71.0%		
教 7	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	61.3%	20.2pt	20.2pt	41.1%	41.1%	41.1%	41.1%	61.3%	61.3%		
教 8	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	90.3%	0.5pt	0.5pt	89.8%	89.8%	89.8%	89.8%	90.3%	90.3%		
教 9	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら嬉しい	90.3%	12.6pt	12.6pt	77.7%	77.7%	77.7%	77.7%	90.3%	90.3%		
協働活動参加者の意識												
保護者の意識												
教職員の活動（の変化）												
【授業における地域住民・保護者との連携】		自校の結果				地域の結果		自校の結果の推移				推移のグラフ
		今回	前回比	地域比	地域平均	前々回	前回	今回	前々回	前回		
【授業における地域住民・保護者との連携】		割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)の推移	授業における地域住民・保護者との連携
教 10	地域との協働だからできる授業がある	90.3%	0.5pt	0.5pt	89.8%	89.8%	89.8%	89.8%	90.3%	90.3%		
教 11	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲスト・ティーチャーをお願いする	90.3%	13.5pt	13.5pt	76.8%	76.8%	76.8%	76.8%	90.3%	90.3%		
教 12	授業づくり、保護者や地域住民が参加・支援することがある	71.0%	8.6pt	8.6pt	62.3%	62.3%	62.3%	62.3%	71.0%	71.0%		
教 13	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	90.3%	12.6pt	12.6pt	77.7%	77.7%	77.7%	77.7%	90.3%	90.3%		
教 14	生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	71.0%	8.9pt	8.9pt	62.0%	62.0%	62.0%	62.0%	71.0%	71.0%	生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	
教 15	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	71.0%	3.5pt	3.5pt	67.5%	67.5%	67.5%	67.5%	71.0%	71.0%		
【地域住民・保護者との対話】		自校の結果				地域の結果		自校の結果の推移				推移のグラフ
		今回	前回比	地域比	地域平均	前々回	前回	今回	前々回	前回		
【地域住民・保護者との対話】		割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)の推移	
教 15	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	75.8%	10.7pt	10.7pt	65.1%	65.1%	65.1%	65.1%	75.8%	75.8%	地域住民・保護者との対話	
教 16	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	80.6%	-0.2pt	-0.2pt	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	80.6%	80.6%		
教 17	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する	71.0%	21.6pt	21.6pt	49.3%	49.3%	49.3%	49.3%	71.0%	71.0%		

なお、R3 版 CS ポートフォリオの詳細な構造及び作成方法については、別添資料「CS ポートフォリオ作成の手引き」をご参照いただきたい。

2-4. 研修の実施

作成したCSポートフォリオを用いて、以下の3種の研修を実施した。

図表 II-25 3種の研修の内容

研修種別	目的
(1) 一斉研修	<ul style="list-style-type: none"> ・CSポートフォリオの概要を理解し、今年度のCSポートフォリオ（アンケート結果）から「自校の状態」を読み取ることができるようになる ・読み取ったことを関係者と共有・対話することで、よりよいCS（学校運営協議会）に向けた「次なる一手」を見出すことができるようになる <p>※特に1点目を重視</p>
(2) 学校個別研修	<ul style="list-style-type: none"> ・CSポートフォリオの概要を理解し、今年度のCSポートフォリオ（アンケート結果）から「自校の状態」を読み取ることができるようになる ・読み取ったことを関係者と共有・対話することで、よりよいCS（学校運営協議会）に向けた「次なる一手」を見出すことができるようになる <p>※特に2点目を重視</p>
(3) 教育委員会研修	<ul style="list-style-type: none"> ・集計した調査対象校（CS導入校）のCSポートフォリオデータを概観することで、各校及び市区町村全体の特徴を把握する。 ・CSの効果発現に向けて教育委員会が果たす役割の大きさを認識し、その支援・資源を効果的に投入していく「次なる一手」を検討する。

図表 II-26 A市の研修実施状況について

種別	実施日時	実施方法
一斉研修	2022年1月11日（火）19:00～21:00	オンライン会議形式で実施
個別研修（1校目）	2022年2月1日（火）16:00～17:00	オンライン会議形式で実施
個別研修（2校目）	2022年2月2日（水）9:30～10:30	オンライン会議形式で実施
個別研修（3校目）	2022年2月2日（水）13:30～14:30	オンライン会議形式で実施
個別研修（4校目）	2022年2月2日（水）15:00～16:00	オンライン会議形式で実施
教育委員会研修	2022年2月2日（水）10:30～12:00	オンライン会議形式で実施

図表 II-27 B市の研修実施状況について

種別	実施日時	実施方法
一斉研修	2022年2月4日（金）15:00～16:30	オンライン会議形式で実施
個別研修（1校目）	2022年2月9日（水）13:15～14:30	オンライン会議形式で実施
個別研修（2校目）	2022年2月9日（水）15:00～16:30	オンライン会議形式で実施
個別研修（3校目）	2022年2月15日（水）9:00～10:30	オンライン会議形式で実施
個別研修（4校目）	2022年2月15日（水）10:30～12:00	オンライン会議形式で実施
教育委員会研修	2022年2月9日（水）10:00～12:00	オンライン会議形式で実施

(1) 一斉研修の実施

CS ポートフォリオの概要を理解し、今年度の CS ポートフォリオ（アンケート結果）から「自校の状態」を読み取ることができるようになることを主な目的として、実践検証参加者に対する一斉研修を実施した。

研修内容は以下の通りである。以降に、実際の一斉研修資料の内容を抜粋して掲載している。なお、完全版は別添資料「CS ポートフォリオ活用の手引き」を参照いただきたい。

図表 II-28 一斉研修の内容

見出し	内容
I. CS ポートフォリオとは何か？	CS ポートフォリオの概略の説明
II. CS ポートフォリオの成り立ち	CS ポートフォリオ作成時の考え方について
III. 結果の読み取り方（基本）	基本の読み取り方法（各要素の読み取り）
IV. 読み取りのワーク	CS の目標に関連した指標の読み取りのワーク
V. 結果の読み取り方（応用）	応用の読み取り方法（要素をつながり意識した読み取り）

① CS ポートフォリオとは何か？

CS ポートフォリオとは、CS に取り組む学校の「自己診断ツール」である。ここで「≒健康診断」と言っているのは、CS ポートフォリオは優劣や順位をつけるためのツールではないという考え方によるものである。CS を導入しているといっても、その教育活動や地域性は各校で大きく異なり、単純に他地域・他校と比較できるものではない。あくまで自校の状態の把握・可視化のために使うツールであると認識いただきたい。

図表 II-29 ページ抜粋：CSポートフォリオとは？



CSポートフォリオとは？

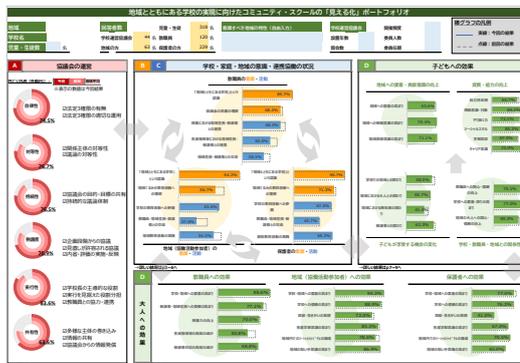
CSに取り組んでいる（取り組もうとしている）学校の

★CSの運営状態やCSの生み出す成果を可視化し、

★今後の学校運営や協働活動の改善に向けた「次なる一手」の検討

につなげていくための

**自己診断
ツール
(≒健康診断)**



CS ポートフォリオでは、各校におけるCSの運営状態、関係者の意識・活動・成果実感の状態を「データ」で示すが、必ずしもデータが全てを説明するわけではない。ここに関係者の現場での実感・気づきをプラスして「対話」を行うことで初めて、「データ」で示される数値の意味が見えてきて、「次なる一手」のヒントになっていく。

図表 II-30 ページ抜粋：「データ」と「対話」が両輪



「データ」と「対話」が両輪 ～CSポートフォリオを使って、こう変わる～

◆ポートフォリオを使って「次なる一手」に気付くためには、

データ (客観的情報) と **対話** (主観的解釈) のセットが重要です。



→紹介した事例はいずれも、
データに基づき
対話を行ったことで、
「次なる一手」を見出していました。

ポートフォリオの活用において重要な点として、本研修では以下2点を抽出し、これらについて研修の中でトライアルした。

図表 II-31 ページ抜粋：CSポートフォリオを使う上での2つのポイント！



CSポートフォリオを使う上での2つのポイント！

CSポートフォリオから「自校の状態」を読み取ったり、読み取ったことから「次なる一手」を見出すためには、

- 1 **関係者間でCSの状態を共有する対話の実施**
～現場の実感と指標とを照らしあわせて解釈～
- 2 **CS (各校) の目標や大切にしていることの明確化**
～数多くの指標から注目したい指標を選別～

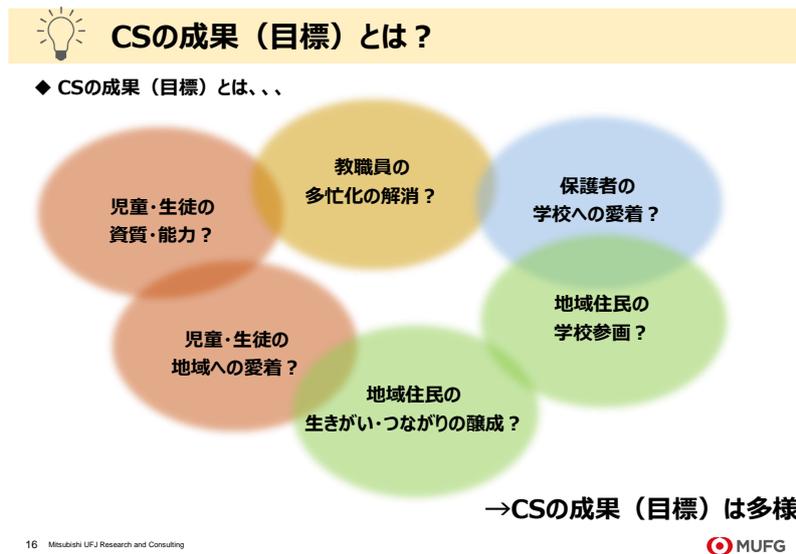


これらについて、本研修の中で試行していきます

② CSポートフォリオの成り立ち

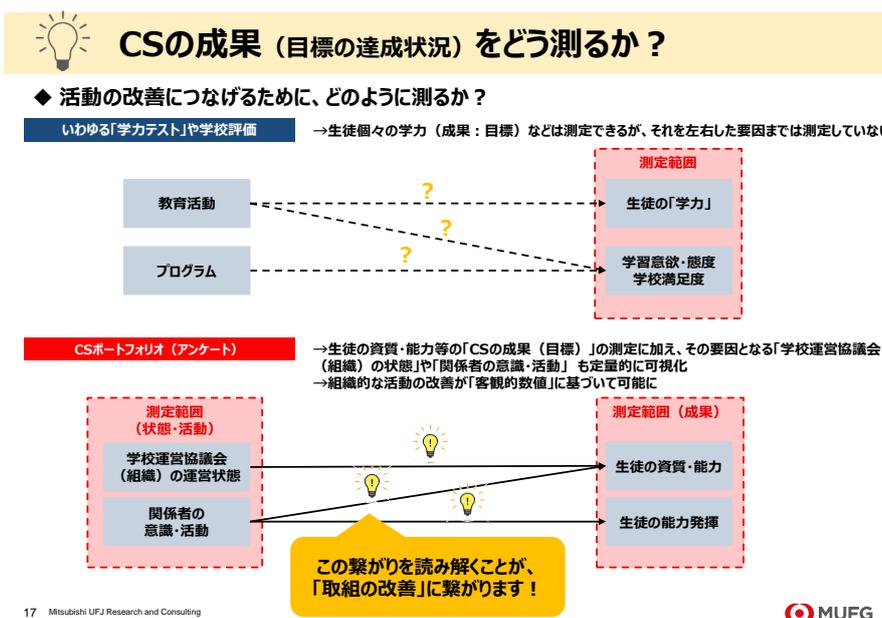
各地・各校でCSによって目指す効果は様々であるため、CSポートフォリオでは非常に多様な成果指標を取り揃えている。実際に活用する際には、その中から自地域・自校にて目指す目標と近い指標を選ぶことが重要である。

図表 II-32 ページ抜粋：CSの成果（目標）とは？



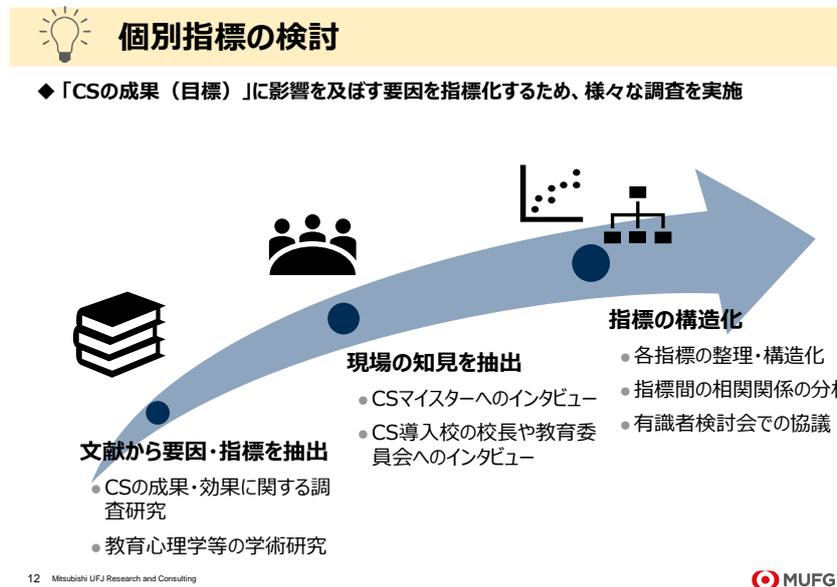
CSポートフォリオでは、成果が出た要因を把握し、成果発現に向けた改善のアクションにつなげることができるよう、成果を出すためのインプット要素といえる「学校運営協議会の運営状態」「関係者の意識・活動」についても指標化した。

図表 II-33 ページ抜粋：CSの成果（目標の達成状況）をどう測るか？



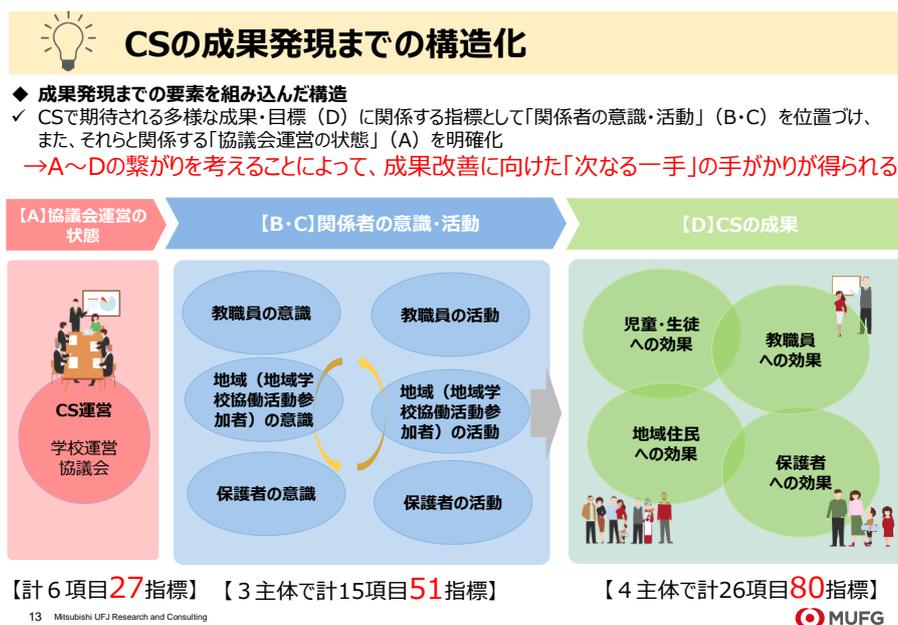
CS ポートフォリオの指標は、学術研究によって CS 運営上重要とされている項目を抽出したのち、現場関係者や有識者へのインタビューを通して精査・分類された。

図表 II-34 ページ抜粋：個別指標の検討



CS ポートフォリオは、前述してきた考え方にに基づき構造化された。「CSの成果」として複数主体の成果指標を設定したほか、成果発現までに必要な要素として、「関係者の意識」「協議会の運営」指標を設定している。

図表 II-35 ページ抜粋：CSの成果発現までの構造化

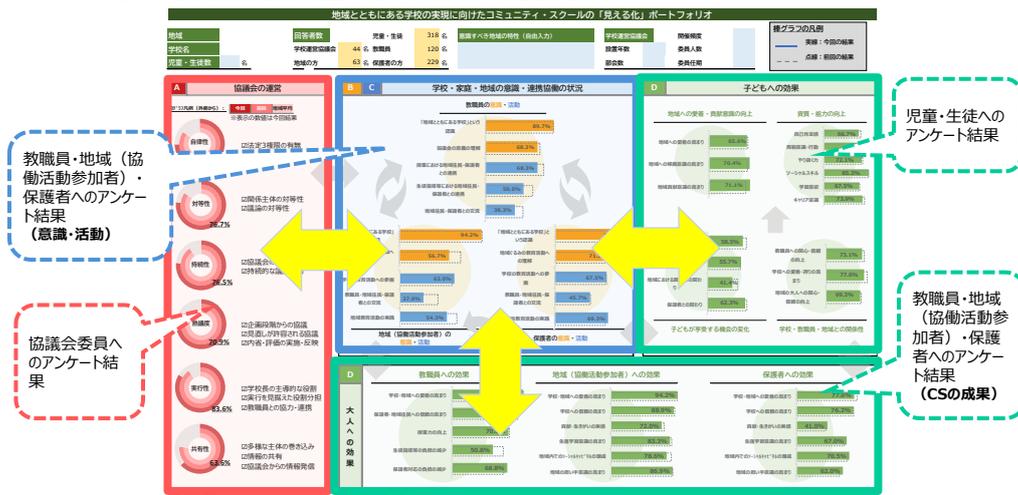


CS ポートフォリオは、各指標について、CS 関係者に対しアンケート調査を行うことで作成する。なお、成果発現までの要素間には、相互に関係することが検証されている（「A：協議会の運営」指標が高まると「B：関係者の意識」指標が高まる等）。

図表 II-36 ページ抜粋：CSの評価ツール

💡 CSの評価ツール：CSポートフォリオ

◆ それぞれのアンケート結果をとりまとめたものが「CSポートフォリオ」
→ 成果発現までの要素間には、相互に関係することが検証されています



③ 結果の読み取り方（基本）

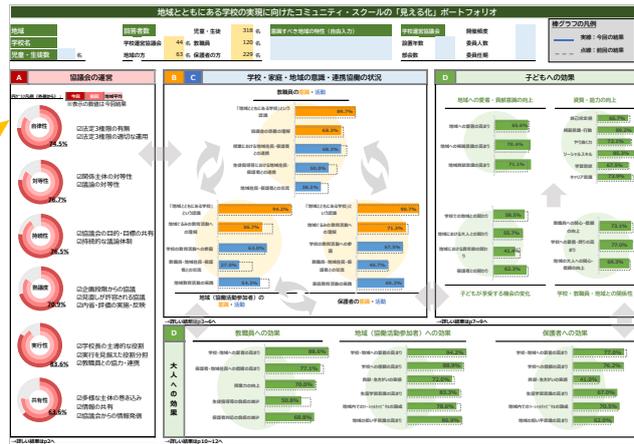
総括表及び詳細表について、読み取り方法を記載している。

図表 II-37 ページ抜粋：CSポートフォリオの構造（総括表）

CSポートフォリオの構造（総括表）

- ✓ CSポートフォリオの1ページ目は総括表となっており、全体傾向を把握できます。
- ✓ 表示されているパーセンテージは、**各質問（指標）についてアンケートで肯定的な回答をした者の割合**です。
(例：「4.あてはまる」「3.どちらかといえばあてはまる」「2.どちらかといえばあてはまらない」「1.あてはまらない」の4択のうち、肯定的回答である「4」「3」を選択肢した者の割合)
- ✓ 総括表では、個別の質問（指標）への回答ではなく、**いくつかの指標をまとめた概念ごとの結果**が示されています。

例えば、この「自律性」は、5つの指標をまとめた1つの概念となっています。



図表 II-38 ページ抜粋：CSポートフォリオの構造（詳細表）

CSポートフォリオの構造（詳細表）

- ✓ ポートフォリオの2ページ目以降では、アンケート設問ごとの詳細な回答結果をお示ししています。

	今年	前年度	地域比	地域平均	前々年	前年	今年	推移のグラフ
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)の推移
自律性	74.5%	-10.4pt	-10.3pt	84.5%	84.8%	84.8%	74.5%	自律性
設1 学校運営の基本方針の承認にあり、協議会委員による議論を行う	84.1%	-10.4pt	-10.4pt	94.5%	94.5%	94.5%	84.1%	
設2 学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	95.5%	0.2pt	0.2pt	95.3%	95.3%	95.3%	95.5%	
設3 協議会の役員について提案や意見を述べる機会がある	20.5%	-24.4pt	-24.4pt	44.9%	44.9%	44.9%	20.5%	
設4 協議会委員は、協議会からの意見を重視し、それをまた学校運営を行っている	79.5%	-11.2pt	-11.2pt	90.7%	90.7%	90.7%	79.5%	
設5 協議会やその構成メンバーにも、より良い学校づくりをすすめる自覚がある	92.2%	-5.3pt	-5.3pt	96.5%	96.5%	96.5%	92.2%	
対等性	76.7%	-8.3pt	-8.3pt	86.0%	86.0%	86.0%	76.7%	対等性
設16 学校長の主権が、協議会の内容に有意義に果たさるべきである	68.2%	-14.0pt	-14.0pt	82.2%	82.2%	82.2%	68.2%	
設17 当初の協議会が、議論によって変更・改善されるべきである	72.7%	-1.6pt	-1.6pt	79.3%	79.3%	79.3%	72.7%	
設18 協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内容を再行・再考している	81.8%	-6.5pt	-6.5pt	88.3%	88.3%	88.3%	81.8%	
設19 学校評議などの各種の評価結果を基にした改善について、議論が行われている	84.1%	-10.9pt	-10.9pt	95.0%	95.0%	95.0%	84.1%	
実現性	76.5%	-14.1pt	-14.1pt	90.6%	90.6%	90.6%	76.5%	実現性
設20 学校長の主導で、協議会の内容が有意義に果たさるべきである	79.5%	-10.9pt	-10.9pt	90.4%	90.4%	90.4%	79.5%	
設21 協議会の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	79.5%	-11.5pt	-11.5pt	91.0%	91.0%	91.0%	79.5%	
設22 協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりしている	79.5%	-13.2pt	-13.2pt	92.7%	92.7%	92.7%	79.5%	
設23 協議会で議論した事項の実行にあり、協議会委員は期待される役割を果たしている	70.5%	-17.5pt	-17.5pt	88.0%	88.0%	88.0%	70.5%	
共有性	70.9%	-13.3pt	-13.3pt	84.2%	84.2%	84.2%	70.9%	共有性
設24 地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	66.2%	-5.0pt	-5.0pt	73.2%	73.2%	73.2%	66.2%	
設25 学校教育目標や学校運営の基本方針が随時見直し形で共有されており、内容は増補されている	86.4%	0.4pt	0.4pt	86.0%	86.0%	86.0%	86.4%	
設26 学校教育目標や学校運営の基本方針が随時見直し形で共有されており、内容は増補されている	88.6%	-7.3pt	-7.3pt	95.9%	95.9%	95.9%	88.6%	
設27 学校の組織や協会は、協議会委員の中で共有されている	70.5%	-15.2pt	-15.2pt	85.7%	85.7%	85.7%	70.5%	
設28 協議会で議論した事項の実行にあり、協議会委員は期待される役割を果たしている	84.1%	-8.0pt	-8.0pt	92.1%	92.1%	92.1%	84.1%	
設29 協議会で議論した事項の実行にあり、協議会委員は期待される役割を果たしている	88.6%	-4.1pt	-4.1pt	92.7%	92.7%	92.7%	88.6%	
設30 協議会委員は、協議会からの意見を重視し、それをまた学校運営を行っている	63.8%	-12.9pt	-12.9pt	76.5%	76.5%	76.5%	63.8%	
設31 協議会委員は、協議会からの意見を重視し、それをまた学校運営を行っている	45.5%	-5.5pt	-5.5pt	51.0%	51.0%	51.0%	45.5%	
設32 協議会委員は、協議会からの意見を重視し、それをまた学校運営を行っている	86.4%	-5.7pt	-5.7pt	92.1%	92.1%	92.1%	86.4%	
設33 協議会委員は、協議会からの意見を重視し、それをまた学校運営を行っている	65.9%	-16.0pt	-16.0pt	81.9%	81.9%	81.9%	65.9%	
設34 協議会委員は、協議会からの意見を重視し、それをまた学校運営を行っている	56.8%	-24.2pt	-24.2pt	81.0%	81.0%	81.0%	56.8%	

設問ごとの詳しい回答結果（2ページ目以降）

冒頭のグラフから気になった点は、2ページ目以降、アンケート設問ごとの回答結果一覧を参照することで、より詳しく、各項目・各主体の実態を把握することができます

※初めてCSポートフォリオを作成した学校の場合、自校前回・前々回データがありませんので、該当箇所は表示されません。

評価結果を読み解く視点として、3つのポイントを整理した。

1点目は「注目したい指標を選択する」ことである。前述の通り、CSポートフォリオには多数の指標が含まれるため、これら全てを追っていくことは難しい。各校の目標に応じて、必要な指標を選び取って着目することが重要である。2点目は、「実感と結び付けて考える」ことである。数値を「高い」「低い」といった結果として受け入れるだけでなく、「何故この値になっているのか」を現場の実感と結び付けて考えることで、より実態を把握することにつながる。3点目は、「組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりを捉える」ことである。成果指標だけではなく、その成果発現の過程にある「協議会の運営」や「関係者の意識・活動」の指標に着目することで、より成果を出していくための「次なる一手」のヒントとなる。

図表 II-39 ページ抜粋：評価結果を読み解く視点

 評価結果を読み解く視点

1. 注目したい**指標を選択**する



- すべての指標で改善・100%を目指さなくてよい。
- 自校で目指す目標、大切にしていることに近い指標はどれか？

2. **実感と結び付けて**考える



- 数値を「結果」として単に受け入れるだけではもったいない
- なぜその結果が出ているのか？などを実際の取組や現場の実感と結び付けて解釈する

34 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



 評価結果を読み解く視点

3. **組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりを捉える**



関連性は？
成果の出やすい組織や関係者の在り方になっているか？

35 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



④ 読み取りのワーク

研修では、CS ポートフォリオの概要を理解してもらったうえで、以下のワークに取り組んだ。CS ポートフォリオの活用において重要なポイントの1つである「CS（各校）の目標や大切にしていることの明確化～数多くの指標から注目したい指標を選別～」のトライアルとし、参加者に自地域・自校で掲げるCSと目標に近い指標を抽出してもらった。

図表 II-40 ページ抜粋：ワーク1

 **ワーク1：CSで期待する成果とは？**

ワーク1-1（想定所要時間5分）

1ページ目総括表のD：「子どもへの効果」「大人への効果」
→詳細の指標は5～8ページ

- あなたが関わる学校や地域では、CSを導入することで、どのような成果を期待していますか（どのような目標を掲げていますか）？それを踏まえて、ポートフォリオのCSの成果に関する指標を見たときに、特に着目したい指標はありますか？

（例：「児童・生徒の地域への愛着を高めたいと思っている。それに関連する指標は……。」など）

34 Mitsubishi UFJ Research and Consulting

 **ワーク1：CSで期待する成果とは？**

ワーク1-2（想定所要時間5分）

- 選択した指標について、次の観点から、結果の振り返りを行ってみましょう。また、2～3人で、結果を見て気づいた点を共有してみてください。

観点①：肯定的回答の「割合（％）」は、あなたにとって、「高い」と感じますか？「低い」と感じますか？

観点②：その「割合（％）」を、あなたはどこまで「高めたい」と感じますか？

観点③：「前回調査との差」や「他地域との差」（プラスなら自校・今回が高い）はどうですか？

（例：「生徒の自己肯定感を重要な指標だと考えているが、意外と%が低い（前回調査から伸びていない）」など）

35 Mitsubishi UFJ Research and Consulting

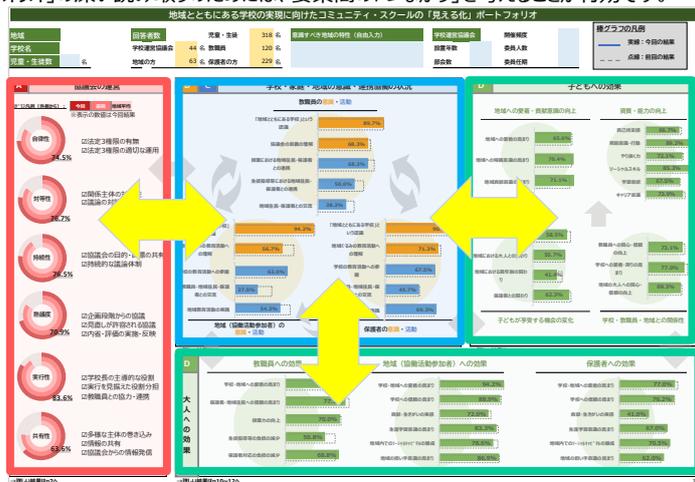
⑤ 結果の読み取り方（応用）

結果の読み取り方（応用）として、各要素のつながりを意識した読み取りについて、その方法を簡単に紹介した。

図表 II-41 ページ抜粋：各要素のつながりを考えてみる

💡 各要素のつながりを考えてみる

- ◆ 成果と、組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりを捉える
- ✓ 成果発現までの要素間は、相互に関係することが検証されています。
- ✓ 「CSポートフォリオ」の深い読み取りのためには、要素間の「つながり」を考えることが有効です。



(2) 学校個別研修の実施

今年度のCSポートフォリオ（アンケート結果）から読み取ったことを関係者と共有・対話することで、よりよいCSに向けた「次なる一手」を見出すことができるようになることを主な目的として、学校個別研修を実施した。

研修内容は以下の通りである。研修内容は、一斉研修資料「CSポートフォリオ活用の手引き」をベースとして使用しており、前半の説明は同様の内容となっている。ただし、学校個別研修においては自校のCSポートフォリオから読み取ったことを「関係者と共有・対話」することと、それを通し「次なる一手」を見出すことを主な目的としているため、Ⅲ、Ⅴにおいて対象校の実際のCSポートフォリオを用いた読み取り例を加えており、それを材料として参加者に対話を促した。

図表 II-42 一斉研修の内容

見出し	内容
I. CSポートフォリオとは何か？	CSポートフォリオの概略の説明
II. CSポートフォリオの成り立ち	CSポートフォリオ作成時の考え方について
III. 結果の読み取り方（基本）	基本の読み取り方法（各要素の読み取り）
IV. 読み取りのワーク	CSの目標に関連した指標の読み取りのワーク
V. 結果の読み取り方（応用）	応用の読み取り方法（要素をつながり意識した読み取り）

① 結果の読み取り方（基本）

「Ⅲ. 結果の読み取り方（基本）」では、本研修において設定した「CSポートフォリオを使う上での2つのポイント」の「2 CS（各校）の目標や大切にしていることの明確化」を目的に、学校目標と関連するCSポートフォリオの指標・項目を抽出する読み取りワークを行った。

CSポートフォリオを使う上での2つのポイント！ (再掲)

CSポートフォリオから「自校の状態」を読み取ったり、
読み取ったことから「次なる一手」を見出すためには、

1  **関係者間でCSの状態を共有する対話の実施**
～現場の実感と指標とを照らしあわせて解釈～

2  **CS (各校) の目標や大切にしていることの明確化**
～数多くの指標から注目したい指標を選別～



これらについて、本研修の中で試行していきます

36 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



CSポートフォリオは、CSにおいて目標とされうる指標を幅広く設定しており、主にCSの成果となる指標を位置付けているD領域においては80指標を用意している。

そのため、各学校がポートフォリオを用いる際には、自校（CS）さらには教育委員会（設置者または立地する都道府県）の育てたい子ども像や教育目標に照らして、注目したい指標を選別し、その指標に着目して読み取りを進めることが効果的である。

そこで学校個別研修では、図表 II-43 のような形で予め研修実施校や教育委員会の目標とこれに近いCSポートフォリオの指標を提示するようにした¹。この例ではポートフォリオD領域にある80指標のうち15指標が注目したい指標として選別されている。

図表 II-43 自校及び設置者の目標とこれに近いCSポートフォリオの指標・項目の整理表

設置者（市）の目標	自校の目標	CSポートフォリオの指標・項目
自己有用感・自己肯定感	自己有用感・自己肯定感	自己肯定感（子 22-24）
しなやかに挑み続ける	安心して思いを伝え合い、志高く努力する力	やり抜く力（子 31-34）
相手に関心を持って聴く 願いを持って相手に伝える	納得するまで対話し、自分の学びを実感する力	ソーシャルスキル（子 35-38）
探究する心	納得するまで対話し、自分の学びを実感する力	学習意欲（子 39-40）
志を語り合い	安心して思いを伝え合い、志高く努力する力	キャリア意識（子 41-42）

注釈）設置者（市）の目標は、表現を一般化している。（最終的に措置の予定）

¹ 本来であれば、各学校（CS）において選別するのが望ましいが、限られた時間での研修の効果を高める観点から、予め研修実施者側において準備した。

② 結果の読み取り方（応用）

「Ⅴ. 結果の読み取り方（応用）」では、「Ⅲ. 結果の読み取り方（基本）」にて抽出したCSの成果指標について、「A 協議会運営」「B 関係者の意識」「C 関係者の活動」指標との関係性について検討した。

また、これらの読み取りについては、「CSポートフォリオを使う上での2つのポイント」の「1 関係者間でCSの状態を共有する対話の実施」を目的に、参加者同士で読み取ったこと、気が付いたことを共有する時間を設けた。



CSポートフォリオを使う上での2つのポイント！（再掲）

CSポートフォリオから「自校の状態」を読み取ったり、読み取ったことから「次なる一手」を見出すためには、



1 関係者間でCSの状態を共有する対話の実施

～現場の実感と指標とを照らしあわせて解釈～



2 CS（各校）の目標や大切にしていることの明確化

～数多くの指標から注目したい指標を選別～



これらについて、本研修の中で試行していきます

③ 対話を通した「次なる一手」の検討

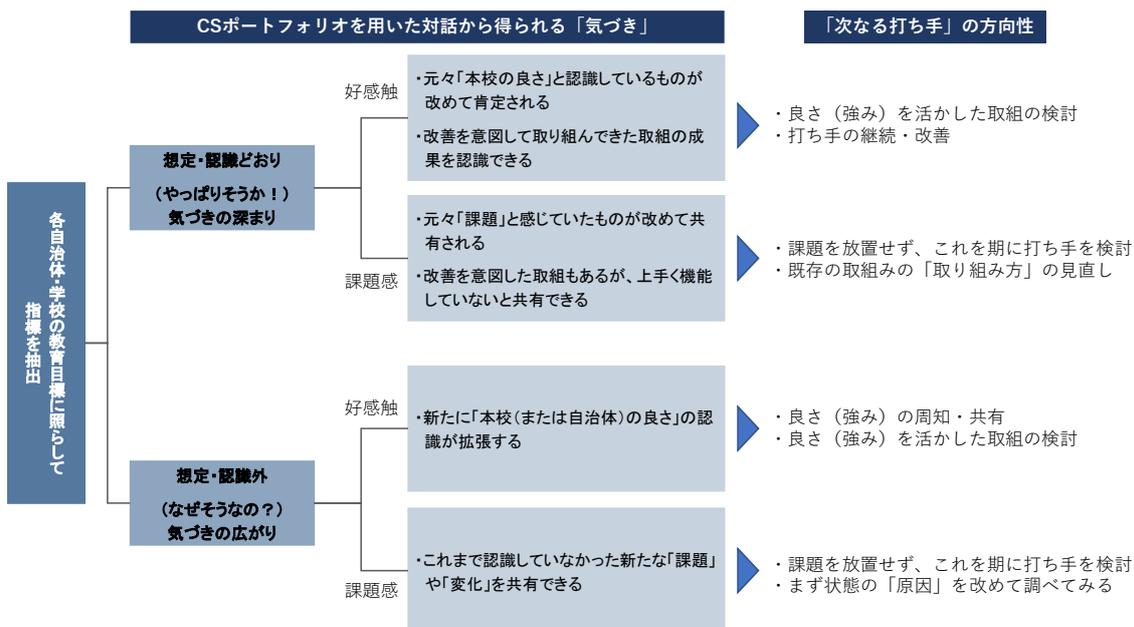
本実証研修では2市8校において学校個別研修を実施したが、研修中の対話の時間においてされた内容と、その対話から生み出された「次なる一手」に関する発言を踏まえると、CSポートフォリオを用いた「次なる一手」は図表 II-44 のようなプロセスとパターンがあることの示唆が得られた。

自校（CS）さらには教育委員会の育てたい子ども像や教育目標に照らして注目した指標を教職員や学校運営委員会委員等が確認すると、現場の実感・経験から生まれる「想定」と比較した気づきがまず得られる。

これは経験的に感じていたことが数値として示されることによる気づきの深まり（想定・認識どおり：やっぱりそうか！）と、これまで視野に入っていなかったことが指標・数値として示されることによる気づきの広がり（想定・認識外：なぜそうなの？）があり、いずれもデータをを用いた対話によって得られる特徴的な気づきである。

なお、本研修参加者からは「協議会や保護者と情報共有できたことが有難いと感じた。」
 「ポートフォリオを全職員、協議会委員など集めて議論してもらえると良い。」
 「CS 始まって8年がたち、マンネリ化があり、毎年同じ課題を言っている印象があった。教職員と一緒に考える良い機会になった。」といった声が得られており、CSに関わる多様な主体間での現状認識や対話に向けたツールとして一定の評価が得られている。

図表 II-44 CSポートフォリオを用いた対話から得られる「次なる一手」の発想プロセス



■想定・認識どおり (好感触) の例

昨年度に続いて実証検証を実施したある学校では、昨年度のCSポートフォリオの結果において、学校目標に近い指標の中で相対的に課題感のあった「やり抜く力」(子31-34: 肯定的回答割合 77.9%)に着目し、本年度の改善項目と位置付けていた。

本年度は「自分で考え自分で動く」を重視した地場産商品の販売体験などをカリキュラムに取り入れてきたが、本年度のポートフォリオでは「やり抜く力」(子31-34: 肯定的回答割合 83.8%)と大きな変化はないが、「困ったことがおきても、どうにかできると思う」は70.6%から88.2%に上昇し、本年度の取組の成果(手ごたえ)が得られた。

また、ある学校では、本年度から地域との協働による地元学に注力して取り組んできた。ポートフォリオでは、教職員の「学校・地域への愛着の高まり(教18-20)」「保護者・地域住民への信頼の高まり(教21-22)はいずれも肯定的回答割合が100%、「授業力の向上(教23-27)」も84.3%と高い水準であった。また、子どもでは「キャリア意識(子41-42)」は肯定的回答割合が81.4%と高水準であった

対話の中では「教員の意識が高いのは、地域と協働した地元学の成果がしっかりでている

ように感じる。また、生徒が将来の夢や希望を語るができるようになってきていること、一方でやり抜くところがいまひとつ感じていたため、今回の結果は非常に合点が行く」との声が聞かれた。

一方、生徒の「子ども：地域への愛着・貢献意識の向上」にかかる指標が総じて低いことを踏まえ、「愛着が高まっていないところはやりかたの問題かもしれない。同地域の特長で、もともと流動性の高い地域（流出する）なので、愛着は低く出るかもしれない。改善には、地域と出会いがあるが、大人同士がつながって育てていこうとする想いやこの地域で想いをもちながら暮らしている姿を生徒にも語っていくところが大事かもしれない。」と地元学の実施方法においてさらなる改善を図ることが見いだされた。

■想定・認識どおり（課題感）の例

学校個別研修を実施した学校の多くで「自己肯定感」（子 22-24）の低さについて、想定・認識どおりであるが、改めて大きな課題であるとの声が聞かれた。この際、CS ポートフォリオを用いた対話の特徴として、「自己肯定感」を高めていくための次の一手の検討は、各校に違いがみられた。

昨年度に続いて実証検証を実施したある学校では、昨年度の CS ポートフォリオの結果において、「自己肯定感」の肯定的回答割合が 85.8%から 74.7%に減少し、特に「自分はやればできる人間だと思う」の指標は同 86.3%から 72.7%へ減少した。

同校の対話では同指標に影響する項目として「子ども：子どもが享受する機会の変化」における「学校での地域との関わり」（13.3pt 減）「地域における大人との関わり」（4.6pt 減）「地域における異年齢の関わり」（19.7pt 減）が総じて減少していることに着目された。

その中で「地域の大人と生徒の関わりで直接褒められたりする場面はあると思う。祭りなどで活躍して褒められるなどの話が学校の中に入ってきていない。こうした情報が入り学校側・教職員からも子どもに伝えることができると自己肯定感や自己有用感をもっと増幅できると思う。学校運営協議会において、地域の大人に褒められたという事実を学校側から生徒にも伝えてあげるといった関わりを持ってもらえるような働きかけをしていきたい」と次の一手が参加者から発せられた。

また、ある学校では、「自己肯定感」の肯定的回答割合が 55.6%（うち、子 22「今の自分を気に入っている」は 29.2%）と同校の目標に近い指標の中では特筆して低い傾向であることで注目された。

同校の対話では同指標に影響する項目として「子ども：教職員への関心・信頼の向上（子 16-17）」の肯定的回答割合が 47.9%と市で実証検証に参加した各校の平均と比較しても 30.3pt 低い点に着目された。特に「子 17：何でも話したり、相談したりしたい先生がいる」は肯定的回答割合が 16.7%にとどまっている。

同学年の子どもたちが直近で経験した個別事由などが影響しているおそれもあるが、対話

の中では「教員は頑張っているが、子どもや教職員からの信頼が低いという結果が出ている。教員側が「子どもたちはここができています」と思っていることが、子どもや保護者に伝わっていないのかもしれない。まずは、なぜ自己肯定感を持っていないのかということについて、現状を分析していかなければならないのだろうと思う」と引き続き検討を深めることになった。

■想定・認識外（課題感）の例

ある学校では、子どもの「地域貢献意識の高まり（子 49-50）」において、「子 49：自分も地域の人役に立ちたい」が肯定的回答割合が 100%であるのに対し、「子 50：地域のために自分には何ができるか考えることがある」が 64.7%に留まることに着目された。

同校の対話では「学校行事で地域の方が入ってきて色んな活動をしているが、その分子どもたちが自分たちで何かやるという機会があまりなくなってしまう面があったのかもしれない。教師の立場からも、大人でやってしまうのではなくて、子どもに任せることも必要で、できたらそれをほめてあげることが重要かも」と次なる一手の気づきが得られていた。

また、他の学校でも同指標において同じような傾向がみられる中で、参加した教員からは「前任は小規模校だったが、そこでは子どもの地域との交流も密で、地域での当事者意識も高かった印象があった。都市部の中規模校に移って、子どもたちの地域での当事者意識を高めたり、それを支える教職員の意識を高めたりするためにはどのようにすればよいかなど感じていたところだった。」との声も聞かれ、今回のポートフォリオにより潜在的に持っていた課題感が顕在化する例も見られた。

(3) 教育委員会研修の実施

CS の成果を高めるためには、教育委員会の主体的な関わりや支援が不可欠な要素である。一方で、教育委員会においても人員や予算に限りがある中、総花的な支援には限界があり、各校の状況・特徴を把握してそれに応じた「重点的・効果的」な支援策を講じる必要がある。

そこで、管轄する CS 導入校の CS ポートフォリオを概観することで、市区町村全体及び各校の特徴を把握し、その後の効果的な支援実施につなげることを目的とし、教育委員会研修を実施した。

研修内容は以下の通りである。以降で詳細な内容について説明する。

図表 II-45 教育委員会研修の内容

見出し	内容
I. CS (各校) と教育委員会の連携の重要性	R2 基礎的調査の結果より、教育委員会の支援の重要性に関するデータを紹介
II. 結果の読み取り方と仮説構築	教育委員会用に作成した地域集約表を用い、地域全体の傾向や各校の特徴を把握
III. 「次なる一手」に向けた対話	II. の分析データをもとに、参加者で対話

① CS (各校) と教育委員会の連携の重要性

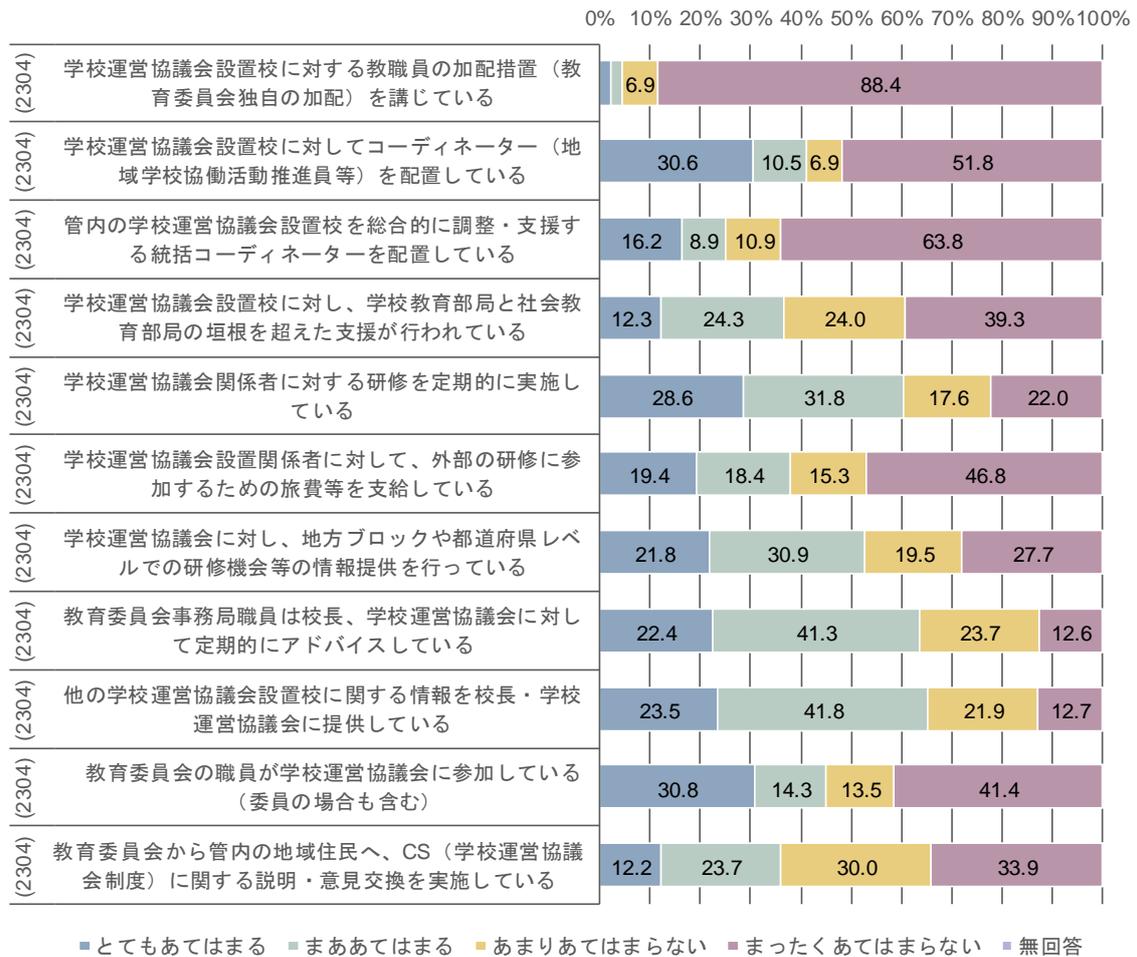
本パートにおいては、各校における CS の効果発現に向けて教育委員会が果たす役割の大きさを再確認するため、文部科学省委託調査「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」(令和 2 年度)において実施した「CS の運営・意識・取組等に関する基礎的調査」から、以下のポイントを抜粋して紹介した。

なお、紹介しているグラフは、CS を導入している学校の校長向けアンケート調査の結果である。

i. 教育委員会の支援内容

コーディネーターの配置、研修の実施、情報提供、適的なアドバイス、教育委員会職員の学校運営協議会への参加、管内の地域住民への説明・意見交換等、教育委員会はこれまでも、様々な形で各校の CS を継続的に支援してきた。

図表 II-46 教育委員会による学校運営協議会への支援施策・事業



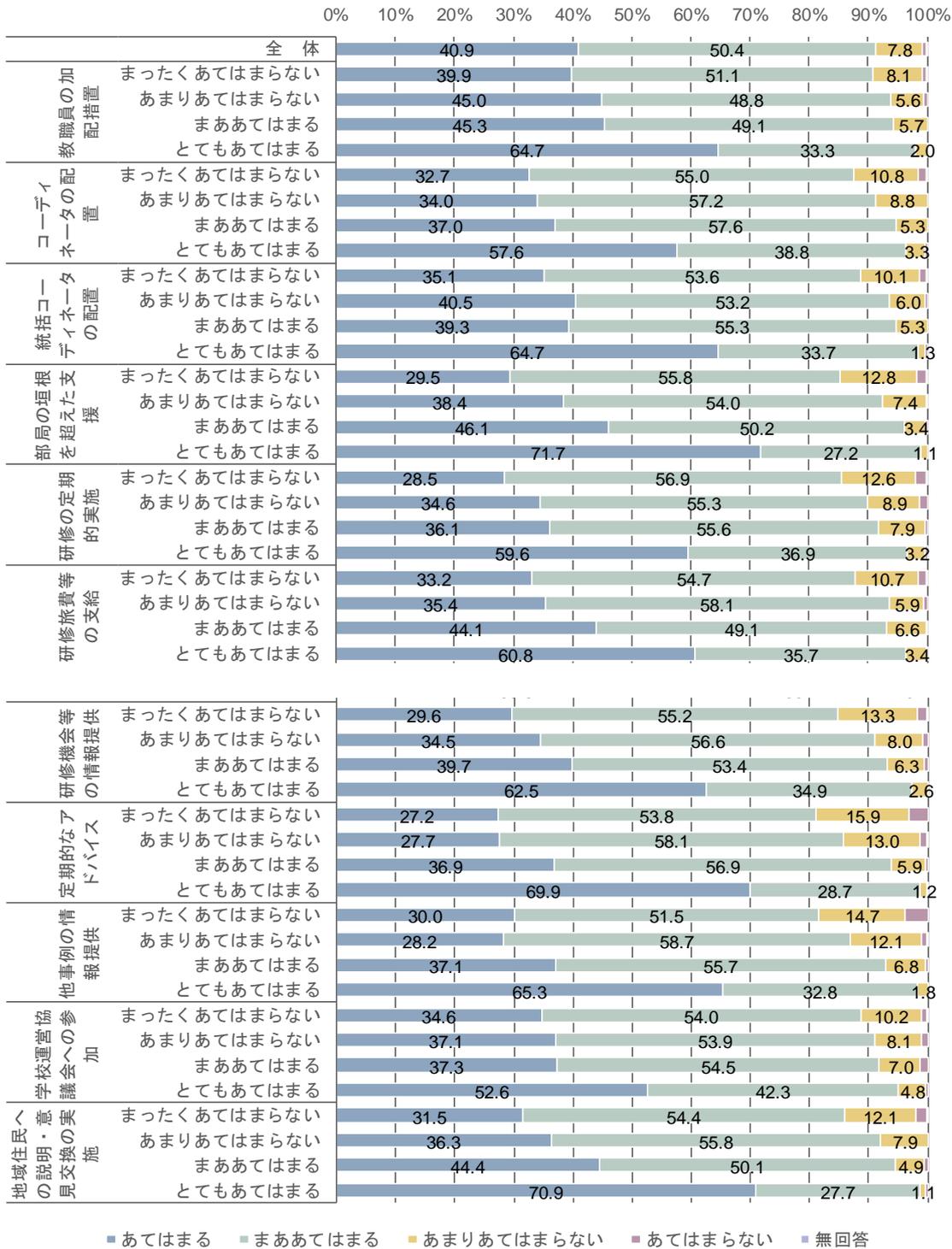
資料) 令和2年度学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究報告書

ii. 教育委員会の施策と校長の成果認識

次のグラフは、CSの成果認識といえる「学校運営協議会の活動は学校運営に有益な成果を及ぼしている」という設問に対する回答を、教育委員会の各施策実施状況によってクロス集計を行ったものである。

グラフを見ると、教育委員会の各施策が積極的に行われていると感じている学校（校長）では、CSの成果認識が高いという傾向があった。例えば、教育委員会が「コーディネーターの配置」を実施しているのかについて「とてもあてはまる」と回答した学校において、「学校運営協議会の活動は学校経営に有益な成果を及ぼしている」という成果認識でも「あてはまる」と回答した割合が高い。

図表 II-47 学校運営協議会の活動は学校経営に有益な成果を及ぼしている

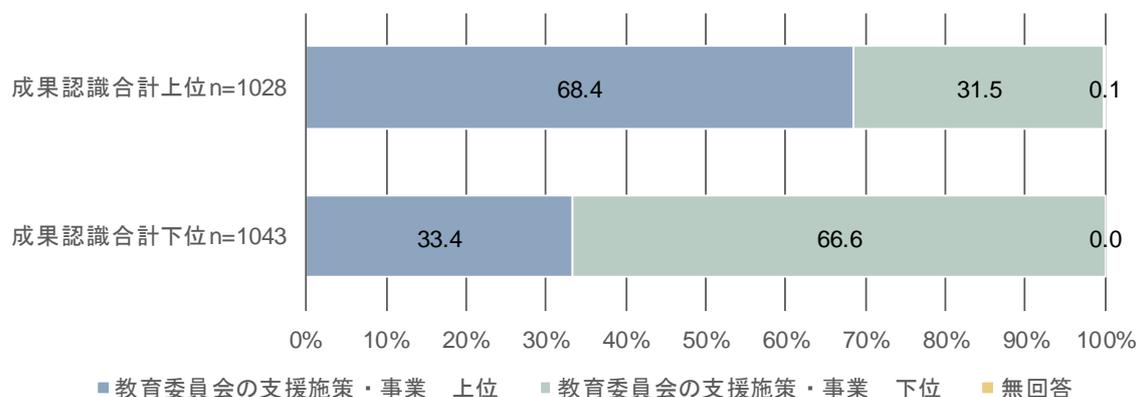


資料) 令和2年度学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究報告書

iii. 教育委員会施策と成果認識まとめ

校長のCS成果認識が高い学校では、教育委員会の支援施策・事業が良く実施されていると評価している割合が（成果認識が低い学校と比較して）高い。

図表 II-48 教育委員会による学校運営協議会への支援施策・事業



注) 教育委員会の支援施策・事業は、教育委員会の支援施策・事業の設問（設問 16）の 11 の設問について、それぞれ「とてもあてはまる＝4」「まああてはまる＝3」「あまりあてはまらない＝2」「まったくあてはまらない＝1」と得点化し、各設問の得点の合計値を算出の上、中央値を挟む形で上位と下位に区分資料) 令和2年度学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究報告書

② 結果の読み取り

i. 地域集約表

教育委員会研修では、各校CSポートフォリオデータを集約した地域集約表を作成した。地域集約表では市全体の平均値及び各校のパーセンテージが横並びで確認できるようになっており、地域全体の傾向及び各校の特徴の把握の一助となる。ここでは、A市教育委員会研修にて使用した資料を、学校名を伏せた形で紹介する。

図表 II-49 教育委員会研修用 地域集約表 (A領域)

地域とともにある学校の実現に向けたコミュニティ・スクールの「見える化」ポートフォリオ (A市実施校集約表)

A	協議会の運営	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
		a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
		5	6	7	9	5	5	7	7	44	-	(%)	(pt)	(%)
自律性		76.0%	56.7%	77.1%	75.6%	76.0%	72.0%	85.7%	85.7%	74.5%	0.08	74.2%	-10.6%	84.8%
協 2	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う	80.0%	66.7%	85.7%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	84.1%	0.14	85.6%	-8.9%	94.5%
協 3	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	100.0%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.5%	0.12	95.2%	-0.1%	95.3%
協 4	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	20.0%	0.0%	28.6%	33.3%	20.0%	0.0%	28.6%	28.6%	20.5%	0.13	18.6%	-26.3%	44.9%
協 5	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	80.0%	66.7%	71.4%	77.8%	60.0%	100.0%	100.0%	100.0%	79.5%	0.14	79.4%	-11.3%	90.7%
協 6	協議会やその構成員にも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	100.0%	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	60.0%	100.0%	100.0%	93.2%	0.14	91.9%	-6.6%	98.5%
対等性		85.0%	62.5%	78.6%	86.1%	80.0%	60.0%	78.6%	78.6%	76.7%	0.10	75.8%	-9.2%	85.0%
協 7	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	80.0%	50.0%	71.4%	88.9%	60.0%	60.0%	57.1%	57.1%	68.2%	0.13	66.8%	-15.4%	82.2%
協 8	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	80.0%	66.7%	85.7%	55.6%	80.0%	100.0%	57.1%	57.1%	72.7%	0.15	75.0%	0.7%	74.3%
協 9	議論は、特定の人の意見に左右されることはない	80.0%	66.7%	71.4%	100.0%	100.0%	40.0%	100.0%	100.0%	81.8%	0.21	79.7%	-8.6%	88.3%
協 10	協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	80.0%	40.0%	100.0%	100.0%	84.1%	0.21	81.8%	-13.3%	95.0%
持続性		85.0%	58.3%	75.0%	91.7%	75.0%	55.0%	89.3%	89.3%	77.3%	0.13	75.6%	-14.9%	90.5%
協 11	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている	80.0%	66.7%	85.7%	100.0%	80.0%	40.0%	85.7%	85.7%	79.5%	0.18	76.9%	-13.5%	90.4%
協 12	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	80.0%	50.0%	85.7%	88.9%	80.0%	80.0%	85.7%	85.7%	79.5%	0.12	78.6%	-12.3%	91.0%
協 13	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	100.0%	66.7%	57.1%	100.0%	80.0%	60.0%	85.7%	85.7%	79.5%	0.17	78.5%	-14.2%	92.7%
協 14	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	80.0%	50.0%	71.4%	77.8%	60.0%	40.0%	100.0%	100.0%	70.5%	0.19	68.5%	-19.6%	88.0%
熟議度		92.0%	56.7%	82.9%	75.6%	68.0%	40.0%	74.3%	74.3%	70.9%	0.16	69.9%	-14.3%	84.2%
協 15	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある	100.0%	50.0%	85.7%	66.7%	60.0%	40.0%	71.4%	71.4%	68.2%	0.19	67.7%	-5.5%	73.2%
協 16	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	80.0%	40.0%	85.7%	85.7%	81.8%	0.19	79.7%	-14.1%	93.9%
協 17	当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	80.0%	50.0%	100.0%	44.4%	60.0%	20.0%	42.9%	42.9%	56.8%	0.24	56.8%	-22.5%	79.3%
協 18	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	100.0%	66.7%	71.4%	88.9%	80.0%	40.0%	100.0%	100.0%	79.5%	0.20	78.1%	-7.3%	85.4%
協 19	学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	80.0%	50.0%	71.4%	77.8%	60.0%	60.0%	71.4%	71.4%	68.2%	0.10	67.2%	-22.0%	89.2%
実行性		96.0%	66.7%	85.7%	88.9%	88.0%	76.0%	82.9%	82.9%	83.6%	0.09	83.4%	-7.0%	90.5%
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	71.4%	71.4%	86.4%	0.13	86.3%	0.3%	86.0%
協 21	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	85.7%	85.7%	88.6%	0.12	88.3%	-7.6%	95.9%
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	80.0%	50.0%	71.4%	66.7%	80.0%	60.0%	85.7%	85.7%	70.5%	0.12	70.5%	-15.2%	85.7%
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	100.0%	83.3%	100.0%	77.8%	60.0%	80.0%	85.7%	85.7%	84.1%	0.13	83.8%	-8.3%	92.1%
協 24	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	85.7%	85.7%	88.6%	0.12	88.3%	-4.4%	92.7%
共有性		75.0%	58.3%	78.6%	75.0%	50.0%	45.0%	53.6%	53.6%	63.6%	0.13	62.2%	-14.3%	76.5%
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	80.0%	50.0%	57.1%	66.7%	0.0%	40.0%	14.3%	14.3%	45.5%	0.26	44.0%	-7.0%	51.0%
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	80.0%	66.7%	100.0%	100.0%	80.0%	60.0%	100.0%	100.0%	86.4%	0.15	83.8%	-8.3%	92.1%
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	80.0%	50.0%	85.7%	66.7%	80.0%	40.0%	57.1%	57.1%	65.9%	0.16	65.6%	-16.3%	81.9%
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	60.0%	66.7%	71.4%	66.7%	40.0%	40.0%	42.9%	42.9%	56.8%	0.13	55.4%	-25.7%	81.0%

図表 II-50 教育委員会研修用 地域集約表 (B領域)

B 教職員の意識

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	8	3	26	19	27	8	15	14	120	-	(%)	(pt)	(%)
教職員：「地域とともにある学校」という認識	95.8%	88.9%	93.6%	93.0%	82.7%	87.5%	86.7%	92.9%	89.7%	0.04	90.1%	0.3%	89.9%
教 2 保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	100.0%	100.0%	100.0%	94.7%	88.9%	100.0%	93.3%	100.0%	95.8%	0.04	97.1%	3.9%	93.2%
教 3 地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目）	87.5%	66.7%	80.8%	84.2%	59.3%	62.5%	73.3%	78.6%	74.2%	0.10	74.1%	-4.5%	78.6%
教 4 より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	93.3%	100.0%	99.2%	0.02	99.2%	1.4%	97.8%
教職員：協議会の意義の理解	95.0%	93.3%	66.2%	74.7%	57.8%	60.0%	48.0%	90.0%	68.3%	0.17	73.1%	1.2%	71.9%
教 5 協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	87.5%	66.7%	61.5%	68.4%	37.0%	37.5%	26.7%	92.9%	56.7%	0.23	59.8%	-13.0%	72.8%
教 6 協議会での協議・決定事項に関心がある	100.0%	100.0%	73.1%	89.5%	59.3%	62.5%	53.3%	100.0%	75.0%	0.19	79.7%	1.6%	78.1%
教 7 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	87.5%	100.0%	30.8%	47.4%	48.1%	37.5%	33.3%	64.3%	47.5%	0.24	56.1%	15.0%	41.1%
教 8 協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	100.0%	100.0%	92.3%	94.7%	81.5%	87.5%	66.7%	100.0%	88.3%	0.11	90.3%	0.5%	89.8%
教 9 協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	100.0%	100.0%	73.1%	73.7%	63.0%	75.0%	60.0%	92.9%	74.2%	0.15	79.7%	2.0%	77.7%

B 協働活動参加者の意識

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	7	3	20	10	11	4	2	6	63	-	(%)	(pt)	(%)
地域：「地域とともにある学校」という認識	100.0%	100.0%	90.0%	90.0%	97.0%	100.0%	83.3%	100.0%	94.2%	0.06	95.0%	0.3%	94.7%
地 3 地域の子どもの成長のためには、自分にも役割がある	100.0%	100.0%	90.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.2%	0.04	97.5%	4.8%	92.7%
地 4 保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要なことだ	100.0%	100.0%	85.0%	80.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	90.5%	0.17	89.4%	-6.5%	95.9%
地 5 参加する活動は子どもや学校にとって意義のあるものだ	100.0%	100.0%	95.0%	100.0%	90.9%	100.0%	100.0%	100.0%	96.8%	0.03	98.2%	2.6%	95.7%
地域：地域ぐるみの教育活動への理解	82.1%	75.0%	56.3%	55.0%	36.4%	81.3%	12.5%	58.3%	56.7%	0.22	57.1%	-12.9%	70.0%
地 6 学校の教育目標も意識して、学校支援などの各活動に取り組んでいる	71.4%	66.7%	60.0%	80.0%	81.8%	100.0%	0.0%	83.3%	71.4%	0.28	67.9%	-9.9%	77.8%
地 7 学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	100.0%	66.7%	85.0%	70.0%	36.4%	50.0%	0.0%	50.0%	66.7%	0.29	57.3%	-15.1%	72.3%
地 8 活動（学校支援活動・地域学校協働活動）の参加者同士で、活動目的や内容を話し合う機会がある	71.4%	66.7%	25.0%	40.0%	18.2%	75.0%	50.0%	50.0%	39.7%	0.20	49.5%	-16.4%	65.9%
地 9 自分の参加する活動以外に、どのような活動があるか知っている	85.7%	100.0%	55.0%	30.0%	9.1%	100.0%	0.0%	50.0%	49.2%	0.37	53.7%	-10.3%	64.1%

B 保護者の意識

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	9	1	54	47	67	3	19	29	229	-	(%)	(pt)	(%)
保護者：「地域とともにある学校」という認識	100.0%	100.0%	90.1%	92.9%	89.1%	100.0%	89.5%	88.5%	90.7%	0.05	93.8%	3.5%	90.3%
保 3 子どもは、学校や保護者、地域住民と一緒に育てていくものだ	100.0%	100.0%	94.4%	95.7%	94.0%	100.0%	78.9%	93.1%	93.4%	0.06	94.5%	0.9%	93.6%
保 4 保護者や地域住民が学校運営に関わることは必要なことだ	100.0%	100.0%	87.0%	93.6%	85.1%	100.0%	94.7%	82.8%	88.6%	0.07	92.9%	8.3%	84.6%
保 5 参加する学校行事や活動は、意義のあるものだ	100.0%	100.0%	88.9%	89.4%	88.1%	100.0%	94.7%	89.7%	90.0%	0.05	93.8%	1.2%	92.6%
保護者：地域ぐるみの教育活動への理解	91.7%	100.0%	67.1%	77.7%	72.8%	58.3%	55.3%	69.8%	71.3%	0.14	74.1%	-0.6%	74.7%
保 6 子どもの通う学校の定める、学校教育目標の内容を概ね理解している	88.9%	100.0%	64.8%	80.9%	77.6%	100.0%	57.9%	72.4%	73.8%	0.14	80.3%	4.3%	76.1%
保 7 学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	88.9%	100.0%	57.4%	68.1%	71.6%	66.7%	57.9%	65.5%	66.4%	0.14	72.0%	7.7%	64.3%
保 8 子どもの通う学校において、地域住民が学校の教育活動（授業等）の一翼を担っていることを知っている	100.0%	100.0%	70.4%	80.9%	70.1%	33.3%	52.6%	75.9%	72.5%	0.21	72.9%	-7.9%	80.8%
保 9 学校外でも、地域住民が子どもの学びを支援していることを知っている	88.9%	100.0%	75.9%	80.9%	71.6%	33.3%	52.6%	65.5%	72.5%	0.20	71.1%	-6.5%	77.6%

図表 II-51 教育委員会研修用 地域集約表 (C領域)

C 教職員の活動 (の変化)

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	8	3	26	19	27	8	15	14	120	-	(%)	(pt)	(%)
教職員：授業における地域住民・保護者との連携	93.8%	100.0%	71.2%	72.4%	51.9%	71.9%	58.3%	76.8%	68.3%	0.15	74.5%	-2.1%	76.7%
教 10 地域との協働だからできる授業がある	100.0%	100.0%	88.5%	94.7%	77.8%	100.0%	86.7%	92.9%	89.2%	0.07	92.6%	2.8%	89.8%
教 11 授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	100.0%	100.0%	65.4%	73.7%	40.7%	37.5%	53.3%	78.6%	62.5%	0.23	68.7%	-8.2%	76.8%
教 12 授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	87.5%	100.0%	61.5%	36.8%	22.2%	50.0%	26.7%	57.1%	45.8%	0.26	55.2%	-7.1%	62.3%
教 13 教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	87.5%	100.0%	69.2%	84.2%	66.7%	100.0%	66.7%	78.6%	75.8%	0.13	81.6%	3.9%	77.7%
教職員：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	31.3%	50.0%	61.5%	63.2%	37.0%	50.0%	26.7%	71.4%	50.0%	0.15	48.9%	-13.2%	62.0%
教 14 子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	50.0%	66.7%	73.1%	68.4%	37.0%	62.5%	40.0%	78.6%	58.3%	0.14	59.5%	-8.0%	67.5%
教 15 地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	12.5%	33.3%	50.0%	57.9%	37.0%	37.5%	13.3%	64.3%	41.7%	0.18	38.2%	-18.3%	56.6%
教職員：地域住民・保護者との交流	81.3%	83.3%	46.2%	60.5%	55.6%	62.5%	36.7%	75.0%	57.1%	0.16	62.6%	-2.4%	65.1%
教 16 保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	100.0%	100.0%	69.2%	89.5%	77.8%	62.5%	53.3%	78.6%	75.8%	0.16	78.9%	-1.9%	80.8%
教 17 学校での活動について、保護者や地域住民に相談する	62.5%	66.7%	23.1%	31.6%	33.3%	62.5%	20.0%	71.4%	38.3%	0.20	46.4%	-2.9%	49.3%

C 地域の活動 (の変化)

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	7	3	20	10	11	4	2	6	63	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)
地域：学校の教育活動への参画	85.7%	66.7%	61.7%	60.0%	51.5%	91.7%	33.3%	55.6%	63.0%	-	(%)	(pt)	(%)
地 10 複数年次にわたり参画している活動がある	85.7%	100.0%	75.0%	90.0%	36.4%	100.0%	0.0%	50.0%	69.8%	0.33	67.1%	-2.7%	69.8%
地 11 心配な子どもがいた時、その情報を教職員に提供する	85.7%	0.0%	35.0%	10.0%	36.4%	75.0%	0.0%	16.7%	34.9%	0.31	32.3%	-7.7%	40.0%
地 12 自分にできる範囲で、授業や学校での活動に協力する	85.7%	100.0%	75.0%	80.0%	81.8%	100.0%	100.0%	100.0%	84.1%	0.10	90.3%	19.1%	71.2%
地域：教職員・地域住民・保護者との交流	57.1%	66.7%	17.5%	25.0%	9.1%	75.0%	0.0%	16.7%	27.0%	0.27	33.4%	-10.7%	44.1%
地 13 子どものことについて、教職員や地域住民・保護者と一緒に協議したり、考えたりする	71.4%	66.7%	30.0%	30.0%	18.2%	75.0%	0.0%	16.7%	34.9%	0.27	38.5%	-12.1%	50.6%
地 14 学校内で教職員や地域住民等と気軽に話をする機会・場（コミュニケーション等）に足を運ぶ	42.9%	66.7%	5.0%	20.0%	0.0%	75.0%	0.0%	16.7%	19.0%	0.28	28.3%	-9.3%	37.5%
地域：地域教育活動の実践	71.4%	83.3%	85.0%	85.0%	50.0%	87.5%	0.0%	66.7%	74.6%	0.28	66.1%	0.2%	65.9%
地 15 地域で子どもを見かけたら、挨拶する	100.0%	100.0%	95.0%	100.0%	72.7%	100.0%	0.0%	83.3%	88.9%	0.32	81.4%	-12.2%	93.6%
地 16 地域の子どもの褒める	71.4%	66.7%	75.0%	70.0%	27.3%	75.0%	0.0%	50.0%	60.3%	0.26	54.4%	-21.1%	75.5%
地 17 授業や学校行事の中で、子どもと一緒に活動する	57.1%	100.0%	40.0%	60.0%	9.1%	100.0%	100.0%	33.3%	47.6%	0.33	62.4%	9.6%	52.9%
地 18 地域行事やイベントの中で、子どもと一緒に活動する	71.4%	66.7%	35.0%	60.0%	9.1%	100.0%	100.0%	66.7%	49.2%	0.29	63.6%	-4.8%	68.4%
地 19 地域行事やイベントでは、子どもに企画段階からの参加を促している	57.1%	33.3%	5.0%	10.0%	45.5%	50.0%	0.0%	33.3%	25.4%	0.20	29.3%	-9.8%	39.1%

C 保護者の活動 (の変化)

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	9	1	54	47	67	3	19	29	229	-	(%)	(pt)	(%)
保護者：学校の教育活動への参画	81.5%	100.0%	61.7%	62.4%	67.2%	88.9%	71.9%	77.0%	67.5%	0.13	76.3%	9.3%	67.0%
保 10 学級懇談会やPTAの集まりにはできるだけ参加する	100.0%	100.0%	68.5%	72.3%	77.6%	100.0%	68.4%	93.1%	76.9%	0.14	85.0%	8.5%	76.5%
保 11 心配な子どもがいた時、その情報を教職員に提供する	55.6%	100.0%	40.7%	38.3%	43.3%	66.7%	52.6%	48.3%	44.1%	0.19	55.7%	11.1%	44.6%
保 12 自分にできる範囲で、授業や学校での活動に協力する	88.9%	100.0%	75.9%	76.6%	80.6%	100.0%	94.7%	89.7%	81.7%	0.09	88.3%	8.3%	80.0%
保護者：教職員・地域住民・保護者との交流	48.1%	100.0%	40.7%	37.6%	42.3%	100.0%	57.9%	59.8%	45.7%	0.24	60.8%	14.2%	46.6%
保 13 学校や子どものことについて、教職員や地域住民・保護者と一緒に協議したり、考えたりする	66.7%	100.0%	38.9%	40.4%	44.8%	100.0%	52.6%	69.0%	48.0%	0.23	64.0%	15.3%	48.7%
保 14 学校内で教職員や地域住民等と気軽に話をする機会・場（コミュニケーション等）に足を運ぶ	22.2%	100.0%	25.9%	10.6%	17.9%	100.0%	36.8%	34.5%	23.6%	0.34	43.5%	18.0%	25.5%
保 15 自分の子どもの友達の親と交流する	55.6%	100.0%	57.4%	61.7%	64.2%	100.0%	84.2%	75.9%	65.5%	0.17	74.9%	9.2%	65.7%
保護者：家庭教育活動の実践	71.1%	100.0%	70.4%	66.0%	73.9%	66.7%	84.2%	65.5%	71.6%	0.11	74.7%	9.1%	65.6%
保 16 自分の子どもの友達の褒める	100.0%	100.0%	85.2%	78.7%	88.1%	66.7%	84.2%	82.8%	84.7%	0.10	85.7%	1.2%	84.5%
保 17 自分の子どもの友達が悪いことをしたら、注意する	66.7%	100.0%	55.6%	53.2%	59.7%	66.7%	84.2%	48.3%	58.5%	0.16	66.8%	5.7%	61.1%
保 18 子どもと一緒に、地域の文化に触れたり、学んだりする	55.6%	100.0%	61.1%	59.6%	59.7%	66.7%	57.9%	55.2%	59.4%	0.14	64.5%	13.3%	51.1%
保 19 学校や地域での学びも意識して、家庭教育を行う	55.6%	100.0%	57.4%	55.3%	61.2%	100.0%	63.2%	48.3%	58.1%	0.19	67.6%	5.9%	61.8%
保 20 自分の子どもを、地域行事や地域での活動に参加するよう促す	77.8%	100.0%	90.7%	78.7%	94.0%	66.7%	78.9%	79.3%	86.0%	0.10	83.3%	13.8%	69.5%

図表 II-52 教育委員会研修用 地域集約表 (D領域：子ども 機会・関係性)

D 子どもが享受する機会の変化

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	17	6	33	50	127	8	34	43	318	-	(%)	(pt)	(%)
学校での地域との関わり	79.4%	100.0%	56.1%	44.0%	49.6%	100.0%	60.3%	80.2%	58.5%	0.21	71.2%	6.3%	64.9%
子 3 授業の中で、住んでいる地域のことについて学ぶ	94.1%	100.0%	63.6%	60.0%	70.9%	100.0%	91.2%	95.3%	76.4%	0.16	84.4%	15.0%	69.4%
子 4 授業や学校行事の中で、地域の人と一緒に活動する	64.7%	100.0%	48.5%	28.0%	28.3%	100.0%	29.4%	65.1%	40.6%	0.28	58.0%	-2.3%	60.3%
地域における大人との関わり	62.4%	96.7%	63.6%	55.2%	53.2%	67.5%	38.2%	60.5%	55.7%	0.16	62.2%	7.3%	54.8%
子 5 学校の中で、先生以外の大人を見かける	82.4%	100.0%	60.6%	72.0%	52.8%	87.5%	41.2%	79.1%	62.3%	0.18	71.9%	0.3%	71.6%
子 6 地域の人に褒めてもらう	88.2%	100.0%	60.6%	48.0%	37.8%	62.5%	50.0%	46.5%	48.7%	0.20	61.7%	10.0%	51.7%
子 7 地域のお祭りなど地域の行事やイベントに参加する	76.5%	100.0%	90.9%	86.0%	81.9%	100.0%	67.6%	79.1%	82.1%	0.11	85.2%	14.5%	70.8%
子 8 地域の人と一緒に、地域の行事の企画や準備に取り組む	35.3%	100.0%	51.5%	34.0%	53.5%	75.0%	14.7%	48.8%	45.9%	0.25	51.6%	11.0%	40.6%
子 9 学校や家の近所で、地域の人のお手伝いをする	29.4%	83.3%	54.5%	36.0%	40.2%	12.5%	17.6%	48.8%	39.3%	0.21	40.3%	0.9%	39.4%
地域における異年齢の関わり	55.9%	100.0%	51.5%	63.0%	29.9%	50.0%	35.3%	31.4%	41.4%	0.21	52.1%	1.6%	50.5%
子 10 地域のほかの学校の子ともと交流する	47.1%	100.0%	39.4%	56.0%	23.6%	37.5%	26.5%	30.2%	34.6%	0.23	45.0%	-0.2%	45.3%
子 11 地域の、違う学年の人と交流する	64.7%	100.0%	63.6%	70.0%	36.2%	62.5%	44.1%	32.6%	48.1%	0.20	59.2%	3.5%	55.7%
保護者との関わり	69.1%	91.7%	70.5%	68.5%	59.3%	71.9%	64.0%	47.7%	62.3%	0.12	67.8%	2.8%	65.1%
子 12 自分の親が、授業参観や学校行事で学校に来る	94.1%	100.0%	90.9%	82.0%	85.0%	100.0%	85.3%	55.8%	82.4%	0.13	86.6%	3.9%	82.8%
子 13 自分の親が、家で勉強を教えてくれる	52.9%	66.7%	60.6%	60.0%	34.6%	37.5%	61.8%	30.2%	45.3%	0.13	50.5%	-5.8%	56.3%
子 14 自分の親と一緒に、地域の文化や風習に触れたり、学んだりする	35.3%	100.0%	45.5%	42.0%	33.1%	62.5%	23.5%	27.9%	36.2%	0.23	46.2%	11.5%	34.7%
子 15 自分の親が、学校での話を聞いてくれる	94.1%	100.0%	84.8%	90.0%	84.3%	87.5%	85.3%	76.7%	85.2%	0.07	87.8%	1.4%	86.4%

D 子ども：学校・教職員・地域との関係性

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	17	6	33	50	127	8	34	43	318	-	(%)	(pt)	(%)
教職員への関心・信頼の向上	91.2%	100.0%	66.7%	75.0%	70.9%	93.8%	57.4%	80.2%	73.1%	0.14	79.4%	1.9%	77.5%
子 16 自分のよいところを認めてくれる先生がいる	100.0%	100.0%	75.8%	82.0%	82.7%	100.0%	82.4%	83.7%	83.6%	0.09	88.3%	0.2%	88.1%
子 17 何でも話したり、相談したりしたい先生がいる	82.4%	100.0%	57.6%	68.0%	59.1%	87.5%	32.4%	76.7%	62.6%	0.20	70.4%	3.6%	66.8%
学校への愛着・誇りの高まり	100.0%	100.0%	77.3%	85.0%	72.0%	62.5%	79.4%	70.9%	77.0%	0.13	80.9%	-2.9%	83.8%
子 18 学校生活は楽しい	100.0%	100.0%	63.6%	82.0%	76.4%	50.0%	82.4%	76.7%	77.7%	0.16	78.9%	-6.8%	85.7%
子 19 自分の学校はすばらしい学校だ	100.0%	100.0%	90.9%	88.0%	67.7%	75.0%	76.5%	65.1%	76.4%	0.13	82.9%	1.0%	81.9%
地域の大人への関心・信頼の向上	97.1%	100.0%	75.8%	72.0%	65.0%	93.8%	67.6%	55.8%	69.3%	0.15	78.4%	6.9%	71.4%
子 20 地域の大人は、自分を見守ってくれている	100.0%	100.0%	84.8%	88.0%	79.5%	100.0%	79.4%	67.4%	81.8%	0.11	87.4%	5.9%	81.5%
子 21 地域の人と、もっと関わりたい	94.1%	100.0%	66.7%	56.0%	50.4%	87.5%	55.9%	44.2%	56.9%	0.20	69.3%	8.0%	61.4%

図表 II-53 教育委員会研修用 地域集約表 (D領域：子ども 資質・能力)

D 子ども：資質・能力の向上

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	17	6	33	50	127	8	34	43	318	-	(%)	(pt)	(%)
自己肯定感	72.5%	100.0%	74.7%	74.7%	60.4%	66.7%	68.6%	61.2%	66.7%	0.12	72.4%	1.7%	70.7%
子 22 今の自分を気に入っている	52.9%	100.0%	60.6%	58.0%	40.9%	62.5%	55.9%	46.5%	50.3%	0.17	59.7%	-0.7%	60.4%
子 23 自分はやればできる人間だと思う	76.5%	100.0%	72.7%	74.0%	63.0%	62.5%	67.6%	65.1%	67.9%	0.11	72.7%	-3.1%	75.8%
子 24 学校の勉強は、よく分かる	88.2%	100.0%	90.9%	92.0%	77.2%	75.0%	82.4%	72.1%	81.8%	0.09	84.7%	8.8%	75.9%
規範意識・行動	96.1%	97.2%	86.9%	90.7%	87.9%	89.6%	89.2%	88.8%	89.2%	0.04	90.8%	2.4%	88.4%
子 25 みんなで決めたことは守るべきだと思う	100.0%	100.0%	93.9%	96.0%	91.3%	100.0%	94.1%	93.0%	93.7%	0.03	96.1%	1.4%	94.7%
子 26 先生に注意されたことはきちんと守る	94.1%	100.0%	87.9%	96.0%	93.7%	87.5%	97.1%	95.3%	94.0%	0.04	94.0%	1.0%	92.9%
子 27 友達から誘われても、やってはいけないことはやらない	100.0%	100.0%	81.8%	80.0%	93.7%	75.0%	91.2%	90.7%	89.6%	0.09	89.0%	-1.5%	90.5%
子 28 友だちがいじめをしていたら注意する	100.0%	83.3%	78.8%	94.0%	75.6%	100.0%	79.4%	74.4%	81.1%	0.10	85.7%	1.7%	84.0%
子 29 人を傷つけることをわざと言う (反転項目)	94.1%	100.0%	90.9%	86.0%	92.9%	100.0%	100.0%	100.0%	93.7%	0.05	95.5%	9.9%	85.6%
子 30 人が困っているときは進んで助けている	88.2%	100.0%	87.9%	92.0%	80.3%	75.0%	73.5%	79.1%	82.7%	0.09	84.5%	1.7%	82.8%
やり抜く力	83.8%	100.0%	79.5%	78.5%	67.5%	71.9%	63.2%	70.9%	72.1%	0.11	76.9%	2.6%	74.3%
子 31 学校や地域でふれあう大人の活動や様子をみて、自分も頑張ろうと思うことがある	76.5%	100.0%	87.9%	78.0%	70.9%	75.0%	61.8%	67.4%	73.3%	0.11	77.2%	7.1%	70.0%
子 32 難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している	88.2%	100.0%	69.7%	80.0%	60.6%	50.0%	58.8%	60.5%	66.4%	0.16	71.0%	-1.4%	72.4%
子 33 やると決めたことは、粘り強く、最後まであきらめずにやり通す	82.4%	100.0%	81.8%	76.0%	71.7%	75.0%	61.8%	76.7%	74.2%	0.10	78.2%	1.4%	76.8%
子 34 困ったことがおきても、どうにかできると思う	88.2%	100.0%	78.8%	80.0%	66.9%	87.5%	70.6%	79.1%	74.5%	0.10	81.4%	3.2%	78.2%
ソーシャルスキル	94.1%	100.0%	78.8%	82.5%	88.0%	90.6%	77.2%	85.5%	85.3%	0.07	87.1%	1.4%	85.7%
子 35 近所や知り合いの人にあいさつする	100.0%	100.0%	93.9%	92.0%	94.5%	87.5%	79.4%	93.0%	92.5%	0.06	92.5%	2.5%	90.1%
子 36 先生や友達が話している時に、最後まで聞くことができる	88.2%	100.0%	81.8%	96.0%	96.1%	87.5%	94.1%	90.7%	93.1%	0.05	91.8%	-0.3%	92.1%
子 37 他の人と異なる意見でも、自分の意見を言う	94.1%	100.0%	57.6%	62.0%	75.6%	87.5%	55.9%	69.8%	70.4%	0.16	75.3%	-0.2%	75.5%
子 38 誰とでも協力をしてグループ活動をする	94.1%	100.0%	81.8%	80.0%	85.8%	100.0%	79.4%	88.4%	85.2%	0.08	88.7%	3.4%	85.3%
学習意欲	85.3%	100.0%	77.3%	80.0%	60.6%	62.5%	58.8%	61.6%	67.5%	0.14	73.3%	4.6%	68.7%
子 39 学校で習ったことや地域の人に教えてもらったことについて、もっと詳しく知りたいし、調べたい	88.2%	100.0%	69.7%	72.0%	48.0%	75.0%	50.0%	53.5%	58.8%	0.17	69.6%	9.1%	60.5%
子 40 新しいことをつぎつぎ学びたい	82.4%	100.0%	84.8%	88.0%	73.2%	50.0%	67.6%	69.8%	76.1%	0.14	77.0%	0.1%	76.8%
キャリア意識	79.4%	100.0%	71.2%	71.0%	73.2%	56.3%	70.6%	81.4%	73.9%	0.12	75.4%	-2.1%	77.5%
子 41 将来の夢や目標を持っている	82.4%	100.0%	69.7%	64.0%	64.6%	37.5%	67.6%	76.7%	67.9%	0.17	70.3%	-4.1%	74.4%
子 42 親や先生の意見を聞くだけでなく、自分で自分が何をしたいのか考えることができる	76.5%	100.0%	72.7%	78.0%	81.9%	75.0%	73.5%	86.0%	79.9%	0.08	80.5%	-0.1%	80.6%

D 子ども：地域への愛着・貢献意識の向上

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	17	6	33	50	127	8	34	43	318	-	(%)	(pt)	(%)
地域への愛着の高まり	89.7%	100.0%	82.6%	72.0%	63.0%	81.3%	53.7%	44.8%	65.6%	0.17	73.4%	6.3%	67.0%
子 43 地域の歴史や行事、地域で起きた問題に興味がある	94.1%	100.0%	72.7%	66.0%	52.8%	75.0%	41.2%	46.5%	58.5%	0.20	68.5%	10.9%	57.6%
子 44 地域の中での活動や、地域の人と交流することは楽しい	94.1%	100.0%	81.8%	62.0%	59.8%	87.5%	58.8%	53.5%	64.8%	0.17	74.7%	5.4%	69.3%
子 45 いま住んでいる地域が好きである	100.0%	100.0%	100.0%	92.0%	83.5%	100.0%	76.5%	55.8%	83.6%	0.15	88.5%	4.8%	83.6%
子 46 将来も今住んでいる地域に住み続けたい	70.6%	100.0%	75.8%	68.0%	55.9%	62.5%	38.2%	23.3%	55.3%	0.22	61.8%	4.2%	57.6%
地域への帰属意識の高まり	85.3%	91.7%	75.8%	72.0%	70.9%	81.3%	58.8%	61.6%	70.4%	0.11	74.7%	8.2%	66.4%
子 47 自分は今住んでいる地域の一員だと感じる	88.2%	100.0%	87.9%	76.0%	75.6%	87.5%	58.8%	72.1%	76.1%	0.12	80.8%	7.0%	73.8%
子 48 この地域で起こっている問題は、自分にも関係がある	82.4%	83.3%	63.6%	68.0%	66.1%	75.0%	58.8%	51.2%	64.8%	0.10	68.6%	9.5%	59.1%
地域貢献意識の高まり	82.4%	100.0%	84.8%	80.0%	65.4%	93.8%	66.2%	58.1%	71.1%	0.14	78.8%	15.5%	63.3%
子 49 自分も地域の人役に立ちたい	100.0%	100.0%	90.9%	88.0%	81.1%	100.0%	79.4%	62.8%	82.4%	0.12	87.8%	14.3%	73.5%
子 50 地域のために自分には何が出来るか考えることができる	64.7%	100.0%	78.8%	72.0%	49.6%	87.5%	52.9%	53.5%	59.7%	0.17	69.9%	16.8%	53.1%

図表 II-54 教育委員会研修用 地域集約表 (D領域：大人 教職員)

D 教職員への効果

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	8	3	26	19	27	8	15	14	120	-	(%)	(pt)	(%)
学校・地域への愛着の高まり	87.5%	100.0%	92.3%	94.7%	76.5%	95.8%	80.0%	100.0%	88.6%	0.08	90.9%	2.2%	88.7%
教 18 教師という仕事にやりがいを感じる	100.0%	100.0%	92.3%	94.7%	88.9%	100.0%	86.7%	100.0%	93.3%	0.05	95.3%	2.9%	92.5%
教 19 学校のある地域に愛着を感じる	100.0%	100.0%	96.2%	100.0%	70.4%	100.0%	80.0%	100.0%	90.0%	0.11	93.3%	5.7%	87.6%
教 20 今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい	62.5%	100.0%	88.5%	89.5%	70.4%	87.5%	73.3%	100.0%	82.5%	0.13	84.0%	-2.0%	86.0%
保護者・地域住民への信頼の高まり	93.8%	83.3%	76.9%	86.8%	57.4%	75.0%	70.0%	100.0%	77.1%	0.13	80.4%	-1.3%	81.7%
教 21 保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている	87.5%	100.0%	65.4%	84.2%	55.6%	75.0%	73.3%	100.0%	74.2%	0.15	80.1%	0.5%	79.6%
教 22 保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案してくれる	100.0%	66.7%	88.5%	89.5%	59.3%	75.0%	66.7%	100.0%	80.0%	0.15	80.7%	-3.1%	83.8%
授業力の向上	85.0%	93.3%	80.8%	76.8%	45.9%	82.5%	53.3%	84.3%	70.0%	0.16	75.2%	4.2%	71.0%
教 23 授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	87.5%	100.0%	76.9%	57.9%	44.4%	100.0%	53.3%	85.7%	67.5%	0.20	75.7%	4.4%	71.3%
教 24 授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	75.0%	100.0%	73.1%	63.2%	48.1%	75.0%	46.7%	85.7%	65.0%	0.17	70.8%	6.9%	64.0%
教 25 授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる	87.5%	66.7%	76.9%	73.7%	40.7%	87.5%	46.7%	78.6%	65.8%	0.16	69.8%	-2.3%	72.1%
教 26 地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある	100.0%	100.0%	96.2%	100.0%	55.6%	100.0%	73.3%	100.0%	85.8%	0.16	90.6%	11.2%	79.5%
教 27 地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる	75.0%	100.0%	80.8%	89.5%	40.7%	50.0%	46.7%	71.4%	65.8%	0.20	69.3%	0.9%	68.4%
生徒指導・生活指導の負担の減少	58.3%	33.3%	65.4%	64.9%	42.0%	41.7%	22.2%	57.1%	50.8%	0.15	48.1%	-15.7%	63.9%
教 28 子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる	50.0%	66.7%	65.4%	73.7%	37.0%	37.5%	20.0%	57.1%	50.8%	0.17	50.9%	-20.0%	70.9%
教 29 地域の人や子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている	62.5%	0.0%	61.5%	63.2%	37.0%	50.0%	6.7%	42.9%	45.0%	0.23	40.5%	-13.6%	54.1%
教 30 地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている	62.5%	33.3%	69.2%	57.9%	51.9%	37.5%	40.0%	71.4%	56.7%	0.14	53.0%	-13.7%	66.6%
保護者対応の負担の減少	87.5%	100.0%	50.0%	78.9%	63.0%	68.8%	66.7%	85.7%	68.8%	0.15	75.1%	10.8%	64.3%
教 31 保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	100.0%	100.0%	61.5%	89.5%	77.8%	87.5%	93.3%	100.0%	83.3%	0.13	88.7%	21.1%	67.7%
教 32 保護者や地域住民対応の負担は大きくない	75.0%	100.0%	38.5%	68.4%	48.1%	50.0%	40.0%	71.4%	54.2%	0.20	61.4%	0.6%	60.9%

図表 II-55 教育委員会研修用 地域集約表 (D領域：大人 地域・保護者)

D 地域への効果

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	7	3	20	10	11	4	2	6	63	-	(%)	(pt)	(%)
学校・地域への愛着の高まり	100.0%	100.0%	98.3%	96.7%	81.8%	100.0%	100.0%	83.3%	94.2%	0.07	95.0%	1.0%	94.0%
地 20 地域の学校に愛着を感じる	100.0%	100.0%	95.0%	100.0%	72.7%	100.0%	100.0%	66.7%	90.5%	0.13	91.8%	0.0%	91.8%
地 21 いま住んでいる地域が好きである	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	90.9%	100.0%	100.0%	100.0%	98.4%	0.03	98.9%	3.4%	95.4%
地 22 今後も今住んでいる地域に住み続けたい	100.0%	100.0%	100.0%	90.0%	81.8%	100.0%	100.0%	83.3%	93.7%	0.08	94.4%	-0.3%	94.7%
学校への信頼の高まり	100.0%	83.3%	90.0%	80.0%	86.4%	100.0%	100.0%	83.3%	88.9%	0.08	90.4%	0.4%	89.9%
地 23 今後も何らかのかたちで、学校や子どもに関する活動に関わり続けたい	100.0%	100.0%	90.0%	70.0%	90.9%	100.0%	100.0%	100.0%	90.5%	0.10	93.9%	6.9%	87.0%
地 24 学校には、子どもたちを安心して任せられる	100.0%	66.7%	90.0%	90.0%	81.8%	100.0%	100.0%	66.7%	87.3%	0.13	86.9%	-6.0%	92.9%
貢献・生きがいの実感	85.7%	77.8%	76.7%	63.3%	60.6%	83.3%	33.3%	77.8%	72.0%	0.16	69.8%	-5.1%	74.9%
地 25 地域に貢献している実感がある	85.7%	100.0%	85.0%	70.0%	63.6%	75.0%	50.0%	83.3%	77.8%	0.14	76.6%	-3.0%	79.6%
地 26 学校や地域での活動への参加を通して、充実感を感じる	85.7%	66.7%	80.0%	70.0%	81.8%	75.0%	50.0%	83.3%	77.8%	0.11	74.1%	-5.1%	79.2%
地 27 地域の子どもの成長に貢献している実感がある	85.7%	66.7%	65.0%	50.0%	36.4%	100.0%	0.0%	66.7%	60.3%	0.29	58.8%	-7.1%	65.9%
生涯学習意識の高まり	92.9%	100.0%	82.5%	75.0%	81.8%	87.5%	75.0%	83.3%	83.3%	0.08	84.8%	-1.3%	86.0%
地 28 どのような年齢になっても学び、学び直しをしたい	100.0%	100.0%	90.0%	80.0%	90.9%	100.0%	100.0%	100.0%	92.1%	0.07	95.1%	8.2%	87.0%
地 29 地域活動やボランティアに参加したい	85.7%	100.0%	75.0%	70.0%	72.7%	75.0%	50.0%	66.7%	74.6%	0.14	74.4%	-10.7%	85.1%
地域内でのソーシャルキャピタルの醸成	89.3%	91.7%	78.8%	72.5%	68.2%	87.5%	75.0%	83.3%	78.6%	0.08	80.8%	-4.4%	85.2%
地 30 地域の中に信頼できる仲間がいると感じる	100.0%	100.0%	95.0%	80.0%	81.8%	100.0%	50.0%	83.3%	88.9%	0.16	86.3%	-4.1%	90.4%
地 31 学校での活動を通して新たなコミュニティやつながりを得られている	85.7%	66.7%	50.0%	50.0%	36.4%	75.0%	100.0%	66.7%	57.1%	0.19	66.3%	-4.6%	70.9%
地 32 生活の中で、地域の大人や子どもに助けられることがある	71.4%	100.0%	80.0%	70.0%	72.7%	75.0%	50.0%	83.3%	76.2%	0.13	75.3%	-9.4%	84.7%
地 33 自分も、地域の大人や子どもの力になりたい	100.0%	100.0%	90.0%	90.0%	81.8%	100.0%	100.0%	100.0%	92.1%	0.07	95.2%	0.5%	94.7%
地域の担い手意識の高まり	100.0%	100.0%	88.8%	85.0%	77.3%	93.8%	75.0%	79.2%	86.9%	0.09	87.4%	0.0%	87.4%
地 34 自分は今住んでいる地域の一員だと感じる	100.0%	100.0%	95.0%	90.0%	72.7%	100.0%	50.0%	83.3%	88.9%	0.16	86.4%	-6.8%	93.1%
地 35 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	100.0%	100.0%	85.0%	80.0%	72.7%	100.0%	100.0%	66.7%	84.1%	0.13	88.0%	3.8%	84.2%
地 36 地域の良さを次世代に受け継ぎたい	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	90.9%	100.0%	100.0%	83.3%	96.8%	0.06	96.8%	4.1%	92.7%
地 37 この地域の将来は、自分たちにかかっていると思う	100.0%	100.0%	75.0%	70.0%	72.7%	75.0%	50.0%	83.3%	77.8%	0.15	78.3%	-1.1%	79.4%

D 保護者への効果

	実施校各校の結果									実施校全体の状況			
	a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小中学校	g小学校	h中学校	A市全体	標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
	9	1	54	47	67	3	19	29	229	-	(%)	(pt)	(%)
学校・地域への愛着の高まり	85.2%	100.0%	81.5%	72.3%	76.1%	77.8%	66.7%	81.6%	77.0%	0.09	80.1%	-0.5%	80.6%
保 21 地域の学校に愛着を感じる	100.0%	100.0%	75.9%	74.5%	73.1%	100.0%	78.9%	86.2%	77.7%	0.11	86.1%	10.1%	76.0%
保 22 いま住んでいる地域が好きである	88.9%	100.0%	85.2%	74.5%	79.1%	100.0%	63.2%	86.2%	79.9%	0.12	84.6%	-0.7%	85.3%
保 23 今後も今住んでいる地域に住み続けたい	66.7%	100.0%	83.3%	68.1%	76.1%	33.3%	57.9%	72.4%	73.4%	0.18	69.7%	-10.8%	80.6%
学校への信頼の高まり	83.3%	100.0%	75.9%	78.7%	72.4%	83.3%	81.6%	74.1%	76.2%	0.08	81.2%	4.9%	76.3%
保 24 今後も何らかのかたちで、学校や子どもに関する活動に関わり続けたい	66.7%	100.0%	63.0%	66.0%	59.7%	100.0%	73.7%	62.1%	64.2%	0.16	73.9%	6.4%	67.5%
保 25 学校には、子どもたちを安心して任せられる	100.0%	100.0%	88.9%	91.5%	85.1%	66.7%	89.5%	86.2%	88.2%	0.10	88.5%	3.4%	85.1%
貢献・生きがいの実感	48.1%	100.0%	36.4%	28.4%	45.8%	100.0%	33.3%	54.0%	41.0%	0.27	55.8%	16.6%	39.1%
保 26 地域に貢献している実感がある	44.4%	100.0%	35.2%	27.7%	47.8%	100.0%	36.8%	55.2%	41.5%	0.27	55.9%	19.6%	36.3%
保 27 学校や地域での活動への参加を通して、充実感を感じる	55.6%	100.0%	44.4%	31.9%	47.8%	100.0%	31.6%	62.1%	45.4%	0.26	59.2%	11.0%	48.2%
保 28 地域の子どもの成長に貢献している実感がある	44.4%	100.0%	29.6%	25.5%	41.8%	100.0%	31.6%	44.8%	36.2%	0.28	52.2%	19.4%	32.9%
生涯学習意識の高まり	77.8%	100.0%	70.4%	64.9%	62.7%	100.0%	60.5%	70.7%	67.0%	0.15	75.9%	12.4%	63.4%
保 29 どのような年齢になっても学び、学び直しをしたい	88.9%	100.0%	87.0%	83.0%	74.6%	100.0%	84.2%	86.2%	82.5%	0.08	88.0%	7.0%	81.0%
保 30 地域活動やボランティアに参加したい	66.7%	100.0%	53.7%	46.8%	50.7%	100.0%	36.8%	55.2%	51.5%	0.22	63.7%	17.8%	45.9%
地域内でのソーシャルキャピタルの醸成	91.7%	100.0%	68.1%	58.0%	75.0%	100.0%	72.4%	73.3%	70.5%	0.15	79.8%	11.6%	68.2%
保 31 地域の中に信頼できる仲間がいると感じる	88.9%	100.0%	66.7%	55.3%	77.6%	100.0%	78.9%	65.5%	69.9%	0.15	79.1%	12.6%	66.5%
保 32 学校での活動を通して新たなコミュニティやつながりを得られている	77.8%	100.0%	55.6%	38.3%	62.7%	100.0%	57.9%	65.5%	57.2%	0.20	69.7%	12.0%	57.7%
保 33 生活の中で、地域の大人や子どもに助けられることがある	100.0%	100.0%	66.7%	61.7%	73.1%	100.0%	73.7%	75.9%	71.2%	0.15	81.4%	11.3%	70.1%
保 34 自分も、地域の大人や子どもの力になりたい	100.0%	100.0%	83.3%	76.6%	86.6%	100.0%	78.9%	86.2%	83.8%	0.09	89.0%	10.4%	78.5%
地域の担い手意識の高まり	77.8%	100.0%	69.0%	52.1%	63.4%	66.7%	55.3%	59.5%	62.0%	0.14	68.0%	10.4%	57.6%
保 35 自分は今住んでいる地域の一員だと感じる	88.9%	100.0%	72.2%	61.7%	70.1%	100.0%	63.2%	69.0%	69.4%	0.15	78.1%	17.1%	61.0%
保 36 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	66.7%	100.0%	46.3%	34.0%	37.3%	33.3%	31.6%	41.4%	40.2%	0.22	48.8%	3.9%	44.9%
保 37 地域の良さを次世代に受け継ぎたい	77.8%	100.0%	88.9%	66.0%	83.6%	66.7%	63.2%	62.1%	76.4%	0.13	76.0%	5.1%	70.9%
保 38 この地域の将来は、自分たちにかかっていると思う	77.8%	100.0%	68.5%	46.8%	62.7%	66.7%	63.2%	65.5%	62.0%	0.14	68.9%	15.4%	53.5%

ii. 読み取り方法（詳細）

地域集約表の「実施校各校の結果」では、各校のCSポートフォリオのデータを一覧で整理し、横並びでの比較ができるようにした。なお、学校名の下の数値は各校の回答者数である。「実施校各校の結果」の最右列「A市全体」には、A市の全回答者の平均値が示されている。

地域集約表の「実施校全体の状況」では、市全体の特徴及び各校の特徴を読み取るための追加情報として、「①標準偏差」「②学校平均値」「③他地域平均との差」「④他地域平均」の4つを算出した。

まず「②学校平均値」は、各校における回答者の平均値を算出し、さらにその学校ごとのデータの平均値を取ったものである。回答者数の多い学校の影響が大きくなることを防ぎ、各校の影響を同等に取り扱うという点で、「A市全体」の平均値とは異なっている。

次に、「②学校平均値」をもとに、各表の単位で「①標準偏差」を算出した。「①標準偏差」は、各校の平均値にバラつきがあるほど大きい値を、バラつきがないほど小さい値を示す。標準偏差が大きい場合は、平均値(%)が高い学校から低い学校までであることを示し、教育委員会が支援を投入する一つの目安になると考えた。

また、「④他地域平均」には、参考までに令和2年度実証研究にて、CSポートフォリオ作成のためのアンケート調査を実施した約50校の平均値を入れている。「③他地域平均との差」は、「②学校平均値」と「④他地域平均」との差となっている。

③ 教育委員会研修によって得られた気づき

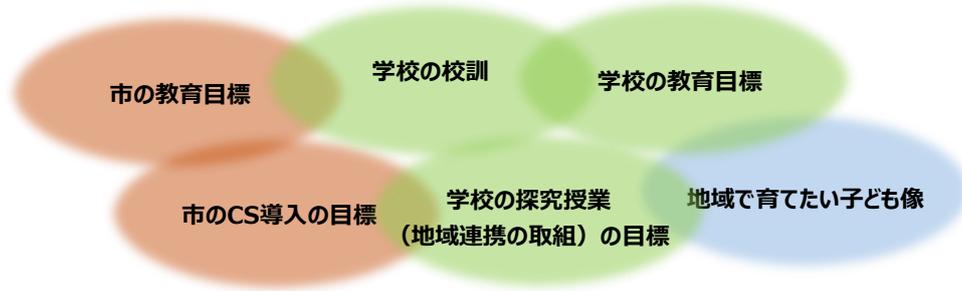
B市においても同様の分析結果の読み取りを行ったが、2市での研修中の対話の内容と、その対話から生み出された「次なる一手」に関する発言を踏まえると、教育委員会研修によって得られた気づき（＝地域単位でCSポートフォリオを活用する意義）には、次のような論点があるとの示唆が得られた。

i. 目標設定に関する気づき

研修では、はじめに各地域・学校でCSを導入することの目標（成果への期待）を言語化し、それに関連するCSポートフォリオの指標を抽出するというプロセスを取った。この検討において、改めて目標を指標レベルに落とすと、地域・学校における教育目標の乱立（あるいは、複数ある目標の整合性が取れていないこと）に気が付くことができたという発言があった。

現在、地域や学校では「市の教育目標」「市のCS導入の目標」「学校の校訓」「学校の教育目標」「学校の探究授業（地域連携の取組）の目標」「地域で育てたい子ども像」など、様々なレイヤーの目標が存在していると考えられる。これらの目標が何らかの形で紐づけられ、整理されていれば良いが、互いを全く意識せずに独立して存在してしまっている場合、目標の乱立や不整合によって、関係者で共有すべき理念が曖昧になり、CS導入の成果につながりにくくなる可能性がある。

図表 II-56 目標の乱立に関する気づき



研修では、図表 II-57 のように「市の教育目標」「学校の教育目標」を書き出し、これらと関連する「CS ポートフォリオの指標・項目」を抜き出すという作業を行っている。図表 II-57 はある学校の例だが、こうして目標を整理することで、「市の教育目標が関係者で共有するには抽象的であること」「学校の教育目標で目指すことが多く、結局何を重視して取り組んでいけば良いのか分かりにくいこと」「市の教育目標と学校の教育目標が必ずしも整合していないこと」等に気づくことが出来た。

図表 II-57 研修中に実施した目標の整理

	市の教育目標	学校の教育目標	CSポートフォリオの指標・項目
 子ども		よく考え、進んで学ぶ子	学習意欲 (子39-40)
		思いやりの心をもつ子	思いやりの心 (子28-30、子36、子38)
		心も体も元気な子	自己肯定感 (子22-24)
		粘り強く取り組む子	やり抜く力 (子31-34)
	地域の担い手の育成	ふるさとを愛する子	地域への愛着の高まり (子43-46) 地域への帰属意識の高まり (子47-48) 地域貢献意識の高まり (子49-50)
 教職員	市に開かれた教育課程の実現	自らの指導力の向上に努め、主体的に実践する教職員	授業力の向上 (教23-27) 学校での地域との関わり (子3-4)
		子ども・保護者・地域から信頼される教職員	教職員への関心・信頼の向上 (子16-17) 学校への信頼の高まり (地23-24) 学校への信頼の高まり (保24-25)
		心身ともに健康で、互いに支え合う教職員	学校・地域への愛着の高まり (教18-20、特に教18)
 地域 保護者	地域コミュニティの創造	地域に貢献できる学校	地域内でのソーシャルキャピタルの醸成 (地30-33) 地域の担い手意識の高まり (地34-37)
	子育て環境の充実		学校への信頼の高まり (保24-25) 貢献・生きがいの実感 (保26-28)
		地域から愛される学校	学校・地域への愛着の高まり (地20-22) 学校・地域への愛着の高まり (保21-23)

このように、CS ポートフォリオの活用は、目標の乱立や目標同士の不整合に気づききっかけになると考えられる。また、CS ポートフォリオの指標を活用することで、抽象的な目標をより言語化して関係者で共有すること、射程範囲が広くすべてを追いきれない目標があった際に、重点目標となる要素を絞り込むこと等に役立つことも示唆された。

ii. 学校間・学校種間のバラつきに関する気づき

研修では、調査対象校の結果を横並びで比較し、全体的な肯定的回答割合の高さや、学校間のバラつきの状況を確認することが出来た。これにより、地域全体として成果の出ている項目の可視化ができるほか、反対に地域全体として支援が必要な項目や、個別学校への支援が有効である項目の可視化などにつながると考えられる。

図表 II-58 地域集約表の実施校全体の状況（抜粋）

A	協議会の運営	実施校全体の状況			
		標準偏差	学校平均値	他地域平均との差	他地域平均
		-	(%)	(pt)	(%)
実行性		0.09	83.4%	-7.0%	90.5%
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	0.13	86.3%	0.3%	86.0%
協 21	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	0.12	88.3%	-7.6%	95.9%
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	0.12	70.5%	-15.2%	85.7%
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	0.13	83.8%	-8.3%	92.1%
協 24	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	0.12	88.3%	-4.4%	92.7%
共有性		0.13	62.2%	-14.3%	76.5%
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	0.26	44.0%	-7.0%	51.0%
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	0.15	83.8%	-8.3%	92.1%
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	0.16	65.6%	-16.3%	81.9%
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	0.13	55.4%	-25.7%	81.0%

図表 II-58 は、ある地域における地域集約表の「A:協議会の運営」のうち、「実行性」「共有性」を抜粋した表である。これをみると、実行性は全体として学校平均値（地域全体の平均値）の割合が高く、標準偏差も相対的に小さい（＝学校間のバラつきが小さい）ことが分かる。つまり、この地域ではどの学校でも、実行性の各指標は高位の水準にあると見なすことができる。

一方で、共有性の「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている（協 25）」では学校平均値（地域全体の平均値）の割合が低く、標準偏差も大きい（＝学校間のバラつきが大きい）。この地域では、協議会委員の周知状況は学校による差が大きいと見なすことができる。

実際の各校平均値は下記の通りである。学校平均値が高い実行性の指標では、各校平均値も80%以上の学校が多く、低い学校でも70%弱となっている一方で、学校平均値が低く標準偏差が大きい協 25 の指標では、各校平均値は0.0%～80.0%まで、非常に学校間のバラつきが大きくなっていることが分かる。

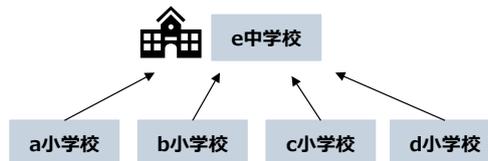
図表 II-59 地域集約表の各校平均値（抜粋）

A	協議会の運営	実施校各校の結果							
		a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f中学校	g小学校	h中学校
		5	6	7	9	5	5	7	7
実行性		96.0%	66.7%	85.7%	88.9%	88.0%	76.0%	82.9%	82.9%
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	71.4%	71.4%
協 21	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	85.7%	85.7%
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	80.0%	50.0%	71.4%	66.7%	80.0%	60.0%	85.7%	85.7%
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	100.0%	83.3%	100.0%	77.8%	60.0%	80.0%	85.7%	85.7%
協 24	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	85.7%	85.7%
共有性		75.0%	58.3%	78.6%	75.0%	50.0%	45.0%	53.6%	53.6%
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	80.0%	50.0%	57.1%	66.7%	0.0%	40.0%	14.3%	14.3%
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	80.0%	66.7%	100.0%	100.0%	80.0%	60.0%	100.0%	100.0%
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	80.0%	50.0%	85.7%	66.7%	80.0%	40.0%	57.1%	57.1%
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	60.0%	66.7%	71.4%	66.7%	40.0%	40.0%	42.9%	42.9%

また、ある地域では、同じ地域内の小学校と中学校において「自己肯定感」に対する肯定的回答割合が大きく異なることへの気づきがあった。地域内の a～d 小学校から e 中学校に進学しているはずだが、a～d 小学校と比較して e 中学校では自己肯定感が低いという気づきである。年齢が高まることによる回答傾向の変化（中学生はシビアにつけやすい）を差し引いても、小学校から中学校に上がった際に自己肯定感が下がっている点が気になるという対話がなされ、中学校での教育活動や生徒集団の雰囲気づくりなど、自己肯定感を高めるためにできる取組を検討したいという「次なる一手」に関する発言につながった。

図表 II-60 学校種間のバラつきに関する気づき

D	子ども：資質・能力の向上	実施校各校の結果				
		a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校
		17	6	33	50	127
自己肯定感		72.5%	100.0%	74.7%	74.7%	60.4%
子 22	今の自分を気に入っている	52.9%	100.0%	60.6%	58.0%	40.9%
子 23	自分はやればできる人間だと思う	76.5%	100.0%	72.7%	74.0%	63.0%
子 24	学校の勉強は、よく分かる	88.2%	100.0%	90.9%	92.0%	77.2%



このように、横並びでの比較は地域全体での強み・弱みを把握することに加え、学校間あるいは学校種間の状況のバラつきに気づくことにつながると考えられる。

iii. 好事例の発見・波及

「ii. 学校間・学校種間のバラつきに関する気づき」とも関連するが、管内各校の CS ポートフォリオが作成されることで、CS 運営の成果が出ている学校（好事例）の発見につながった。これは、単に「頑張っている事例」「うまくいっている事例」というところから一歩進み、例えば「協議会で議論したことの情報発信がうまくいっている事例」「保護者への意識浸透がうまくいっている事例」など、具体的に良好な状態となっている項目レベルでの好事例を再発見できるということである。

図表 II-61 地域集約表の各校平均値（抜粋・再掲）

A	協議会の運営	実施校各校の結果							
		a小学校	b小学校	c小学校	d小学校	e中学校	f小学校	g小学校	h中学校
		5	6	7	9	5	5	7	7
実行性		96.0%	66.7%	85.7%	88.9%	88.0%	76.0%	82.9%	82.9%
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	71.4%	71.4%
協 21	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	85.7%	85.7%
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	80.0%	50.0%	71.4%	66.7%	80.0%	60.0%	85.7%	85.7%
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	100.0%	83.3%	100.0%	77.8%	60.0%	80.0%	85.7%	85.7%
協 24	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	100.0%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%	80.0%	85.7%	85.7%
共有性		75.0%	58.3%	78.6%	75.0%	50.0%	45.0%	53.6%	53.6%
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	80.0%	50.0%	57.1%	66.7%	0.0%	40.0%	14.3%	14.3%
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	80.0%	66.7%	100.0%	100.0%	80.0%	60.0%	100.0%	100.0%
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	80.0%	50.0%	85.7%	66.7%	80.0%	40.0%	57.1%	57.1%
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	60.0%	66.7%	71.4%	66.7%	40.0%	40.0%	42.9%	42.9%

ある地域では、管内の特定の学校で、協議会運営の「共有性」の肯定的回答割合が高く、特に「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている」の指標が高いという結果であった（例えば、図表 II-61 の a 小学校のような状態）。この結果をもとに、学校にどのような取組を行っているのか尋ねたところ、「PTA 総会や保護者会などで、保護者に協議会委員を紹介している」という回答があり、この取組を情報共有の方法に悩んでいる学校に紹介するといったことが起こった。

このように、CS ポートフォリオの活用によって、漠然とではなく具体的な項目・取組のレベルで好事例を発見することにつながり、地域内での好事例の波及を行いやすくなると考えられる。また、データと実態を照らし合わせることで、「何故うまくいっているのか」という要因を見える化することにもつながることが示唆された。

iv. 上記による各校への支援の効率化・納得感の向上

i～iiiのような気づきを得たうえで、教育委員会としての支援策を講じることで、教育委員会側の効率性があがると同時に、支援を受ける学校にとっても、納得感が上がるものと考えられる。

教育委員会による各校の支援は、CS の効果的な運営・推進において重要な要素でありつつも、教育委員会にも人員・予算等の制限があり、総花的な支援を続けることは難しい。そのような時に、CS ポートフォリオを用いた現状把握を通して、特に支援が必要となる地域の課題や、特に支援の必要な学校が可視化されることで、教育委員会のリソースを効果的・効率的に投入できるようになると考えられる。

支援を受ける学校にとっても、各校によって課題感が異なる状況で一律の支援策が展開されるよりも、自校の状態に応じた支援を受けられるようになることで、納得感や効果の実感が高まると考えられ、学校と教育委員会との関係にデータが入ることの意義が示唆された。

III. 高等学校における CS ポートフォリオ普及可能性の検討

1 調査概要

1-1. 検討趣旨

本年度事業では、過年度の委託事業では対象としておらず、かつ CS の導入が相対的に進んでいない学校種である高等学校におけるポートフォリオの普及可能性について、ヒアリング調査を通して検討を行った。

CS の普及に際しては、過年度調査研究の成果であるポートフォリオを効果的に活用しながらの普及が求められる。ただし、昨年度までに作成したポートフォリオは義務教育段階を主たる対象としており、以下の理由等から内容の更新の必要性が考えられる。

今年度はヒアリング調査を通じて、高校の CS の実態に即したポートフォリオの在り方の検討（論点抽出）を主たる目的とした。現状の義務教育版のポートフォリオに含まれる要素について教育委員会や高校との対話を行うことで、高校版ポートフォリオ案の検討に向けた「指標の構成要素」の検討を行う。

図表 III-1 高校版ポートフォリオへの調整が求められる理由（仮説）

【高校版ポートフォリオへの調整が求められる理由（仮説）】

- ・ 学齢に即した質問項目（文面、内容）の調整の必要性
 - ・ 小中学校よりも広域な通学範囲、企業や大学等ステイクホルダーの多様性等、小中学校と異なる組織体制の性質を反映した項目の精査の必要性
 - ・ キャリア教育、地方創生など、地域協働活動によって求める成果の水準や質の違いを反映した項目の精査の必要性
- ／等

1-2. 高校における CS、地域学校協働活動の普及状況に係る事前仮説

「令和3年度地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況」によると、高等学校における CS の導入率は 22.9%（導入校 805）、地域学校協働本部の導入率は 12.4%（435 校）となっており、普及途上にあると言える。また、地域的なばらつきも大きく、宮城県、群馬県等のように県立高校への CS の普及率 0%の自治体もあれば、和歌山県、山口県等のように普及率 100%の自治体もある。

一方で、上記の普及状況は必ずしも高等学校における「地域とともにある学校／地域の協働」の機運の低さを意味していないとも言える。例えば、「地域・高校魅力化」など各々のフレーズで地域学校協働に係る取組の展開が見られるほか、文科省「地域との協働による高等学校改革推進事業」や「CORE ハイスクール・ネットワーク構想」も地域と高校との協働という流れを後押ししている。こうした事業を通して、学校と地域住民等からなるコンソーシアムの構築が各地で進むなど、推進体制づくりの動きも見られる。

加えて、教育政策における EBPM の推進や、各校におけるスクール・ポリシー等策定の動きが加速していく中で、事業評価の必要性・重要性に対する認識も高まっていると考えられる。高校における評価活動に関しては現状、地域との協働による「成果」の可視化（ポートフォリオでいえば C、D 領域。例えば生徒の資質・能力の向上、卒業生の地元への定着など）に取り組む地域が多いのではないかという仮説を持っているが（ヒアリング調査で実態を検討）、高等学校段階における CS の普及は、こうした各地の既存の組織体制、協働活動及び評価活動の状況も踏まえながら、体制及び評価の仕組みを円滑に接続していくことが要点となると考えられる。

1-3. 調査方法

後述する調査対象先に対して、ヒアリング依頼状の質問項目に沿ってインタビューを実施した。インタビューは web 会議ツール等を用いてすべてオンラインで実施した。

インタビュー項目のうち、ポートフォリオに関する意見を聴取する箇所に関しては、原則として CS ポートフォリオの概要資料を事前送付し、高校版において指標を改善する際の論点について伺うことを伝えたくて、当日意見を伺った。

図表 III-2 ヒアリング内容

<p>①高等学校における CS の導入状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CS 導入状況に係る概要（導入校数、導入時期、導入の背景、（一部）未導入の場合の背景） ・ 学校運営協議会委員の人選、及び議題（全体的な方針・各校での主な実態等） <p>②高等学校における地域との協働について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との協働に係る取組の概要（地域学校協働活動、授業での地域連携、その他の取組や体制面の整備） <ul style="list-style-type: none"> 一 上記取組と CS との関係性の整理状況 ・ 想定する「地域」の範囲・考え方について ・ 学校と地域との協働を推進する際のステークホルダー・体制 ・ 学校と地域との協働の普及・推進に係る課題 <ul style="list-style-type: none"> 一 上記のうち、特に「高等学校」ならではの課題（義務教育段階と比較して） 一 上記のうち、特に「指標化」「見える化」「評価」等の観点からの課題 <p>③「ポートフォリオモデル」に関するご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と地域との協働の評価等に係る現状 <ul style="list-style-type: none"> 一 協働体制や意思決定プロセス等の「プロセスの質」の評価 一 協働の「成果」等の評価 ・ 高等学校における取組の観点から見た、抜け落ちていると考えられる概念・項目 ・ 高等学校におけるポートフォリオの活用可能性に係るご意見
--

1-4. 調査対象

公立高校を所管する教育委員会及び CS を導入している高校に対してヒアリング調査を行った。調査対象選定にあたっては、自治体区分、地域、CS 導入の状況等のバランスを考慮して選定、依頼を行った。

図表 III-3 ヒアリング対象

調査対象（教委）	CS 導入状況		
	全面的導入	一部導入	未導入
都道府県教委	和歌山県(100%/94.4%) 地域 CN：122 人	－	島根県（0.0%/0.0%） 地域 CN：59 人
市（政令市）教委	－	横浜市（22.2%/0.0%） 地域 CN：1,001 人 さいたま市（75%/100%） 地域 CN：164 人	－

（注）（）の数値は CS 導入率／協働本部整備率。地域 CN は統括コーディネーターと地域コーディネーターの合算値。いずれも R3 実施状況調査の数値。

調査対象（高校）	CS 導入	CS 未導入・または最近導入
都市部 （1 市複数校）	和歌山県立桐蔭高等学校 (CS○／協働本部×)	－
地方部 （1 市町村 1 校）	高知県立大方高等学校 (CS○／協働本部○)	山形県小国高等学校 (CS○／協働本部○)

図表 III-4 ヒアリング調査実施状況

1	島根県教育庁	2022 年 1 月 7 日（金）15:00～16:30
2	さいたま市教育委員会	2022 年 1 月 7 日（金）15:00～16:00
3	横浜市教育委員会	2022 年 1 月 17 日（月）10:00～12:00
4	和歌山県教育委員会	2022 年 1 月 19 日（水）10:00～12:00
5	高知県立大方高等学校	2022 年 1 月 21 日（金）10:00～11:00
6	山形県立小国高等学校	2022 年 1 月 21 日（金）13:30～15:00
7	和歌山県立桐蔭高等学校	2022 年 2 月 4 日（金）13:30～14:30

（注）ヒアリング調査はすべてオンライン会議ツールまたは電話で行った。

2 ヒアリング調査結果

2-1. 高等学校の実態から導出されるCSポートフォリオ検討の論点

以降では、ヒアリング調査で高校におけるCSおよび地域学校協働活動の実態から得られた、CSポートフォリオの検討、普及において論点となる部分に係る調査結果の整理を行う。

(1) 学校運営協議会の状況

① 学校運営協議会委員の多様性

学校運営協議会の人選に対する考え方には、高校ならではの多様性が窺われる結果となった。特に義務教育段階と異なる高校の特徴として、後援会・同窓会、卒業生の参加が見られることや、大学教員等の学識経験者、地元企業等の参加等が挙げられた。属性の多様性に伴い、こうした委員の所在は地理的にも幅広く、高校が立地する市町村外のみならず、県外在住の委員就任の可能性も示唆された。

図表 III-5 ヒアリング調査における主な意見（学校運営協議会委員の多様性）

【ヒアリング調査における主な意見】

- ・ 誰を委員にするかは、何をするかによって各学校が決めている。公民館、商工会、JA、大学教員が入っている場合もある。卒業生やPTAは多くの学校の協議会に入っている。
- ・ 小学校、中学校は近隣住民、保護者、公民館職員などが中心となるが、高校ではそれに加えて、後援会会長、近隣の小・中学校の校長、学識経験者、地元企業が委員となるのが特徴である。
- ・ 高校は同窓会、後援会が組織されるケースが多い。そういうネットワークがある点は高校の特徴か。
- ・ 協議会委員は高校の「地域」の実情に応じて決定していくという形。地域については必ずしも学校の近隣という形ではない。
- ・ 協議会委員には、現在は県外在住の方である場合もある。実際に就任には至っていないが、ある高校では東京在住の人に委員に入ってもらおうという話も出たことがある。現在はオンラインも普及しており問題ないという感触だった。地域というよりも、社会とのつながりという感じになってきている。

【CSポートフォリオ見直しに関して提起される論点】

① 学校運営協議会委員が居住する地域の広域性を踏まえた指標の検討

② 協議会委員に求められるスクール・ポリシーの理解と共有

協議会委員の選定にあたり、学校の方針としてのスクール・ポリシーとの関係性が指摘された。学校側で設定するスクール・ポリシーに基づいて、適切な委員を選定することの重要性や、学校の方針を理解し、それに対して意見を述べることのできる委員の必要性が確認できた。

図表 III-6 ヒアリング調査における主な意見（スクール・ポリシーの理解と共有）

【ヒアリング調査における主な意見】

- ・ 学校運営協議会委員には、本校の教育目標、育てたい生徒像を理解していただいております、それに対して学校側に欠けている視点はないか意見をもらいたいという趣旨で、結果的に OB・OG にも就任していただいております。生徒は全県一区から集まってくるので、必ずしも委員は市内在住者や OB・OG にこだわるものではないが、現状に精通された方を選びたいと考えている。
- ・ 学校側で設定するスクール・ポリシーによって、どういう人に委員に入ってほしいかという検討が重要であると考えますが、その部分がまだ十分でないこともあると感じている。
- ・ 高校に限らず、各学校の教育課程にどれほど協議会が関われるか、どの学校も期待は大きい。協議会委員が教育課程の決定にどこまで関われるかは現状では未知数である。

【CS ポートフォリオ見直しに関して提起される論点】

② 協議会委員のスクール・ポリシーに対する理解及び熟議の状況を把握できる指標の検討

なお、本論点に関して、ヒアリング調査の結果からは、現状の CS ポートフォリオで整理されている A 領域の要素については、高校における学校運営協議会で必要とされる要素としても違和感がないとの回答や、特に高校の学校運営協議会においては、実行性、熟議度が重要であるとの意見が得られた。

図表 III-7 ヒアリング調査における主な意見（CSポートフォリオA領域について）

【ヒアリング調査における主な意見】

- ・ ポートフォリオの A 領域はかなり参考になっている。高校でも、A 領域の要素はある程度運用できるように思う。特に、6つの要素の下位の項目名（「関係主体の対等性」など）は参考になる。実際に A 領域の要素を参考に独自のアンケートを作成しコンソーシアム構成員に対して実施したが、その回答をみると実感に対して妥当な結果が得られているようだと感じた。
- ・ A 領域の項目のうち、特に実行性・熟議度が大事かと思う。高校では実行部隊がないので、学校運営協議会が実行部隊にならないといけない。行事が学校運営協議会主催のような形になると良いかと思う。「教育目標→人選→熟議→実行」という流れが想定されるので、実行性が高いところが実際に機能しているということが言えるだろう。
- ・ 議論にならずお墨付きを与える形ではなく、実働部隊がそこに関連できると良い。

(2) 高等学校における地域との協働について

① 高校における「地域」の考え方、地域学校協働活動のステイクホルダー

高校における「地域」の範囲やステイクホルダーの捉え方は非常に多様であった。ヒアリングで得られた「同心円のイメージ」という言葉のように、高校が立地する地域の住民等との繋がりは小・中学校と同様に重視しながらも、そこに留まらない地域的広がりをもっていることが分かった。こうした広がり、高校が有するそれぞれの「テーマ」であったり、高校生と接点を持たせたいと考える具体的な職業等によって、市区町村、都道府県といった範囲を超えて展開しており、「自分の生き方・在り方に関わってくれる関係者すべてを含めて地域と捉える」といった考え方も見られた。

図表 III-8 ヒアリング調査における主な意見（高校における「地域」の考え方等）

【ヒアリング調査における主な意見】

- ・ 想定する「地域」の範囲について、中心部が濃い同心円のイメージで捉えている。範囲は大きい、地域住民はやはり学校近くにお住まいの方が中心。ただ、生徒の保護者の居住地は範囲が広いし、大学教員は県内を中心に県外の場合もあるので、地域性は同心円状に広がっているイメージ。
- ・ 学校に対しては、所在地域の人だけが「地域」ではないと伝えることが大事と思っている。地域というより個々の人と繋がっている。「エリアコミュニティ」と「テーマコミュニティ」という言葉があるが、後者の考え方を取っている。
- ・ 高校としては、「県全体」を地域と捉えている。また、これまでは固定的に県内、市内、という捉え方をしていたが、自分の生き方・在り方に関わってくれる関係者すべてを含めて地域と捉えると、考え方も広がるのではないかと。
- ・ オンライン化の進展によって、地域に閉じない連携ができるようになった。本校生徒が志望する業種の方で、地域にいない方（例えばイラストレーターなど）と繋がる機会を作ることができる。東京や大阪の方とも繋がったりしながら、今後はワールドカフェを実施予定である。

【CS ポートフォリオ見直しに関して提起される論点】

- ③ 幅広い「地域」の捉え方及び協働活動の担い手に対応した指標の検討

② 高校教育における地域の学校への関わり

高校における地域との協働については、小学校や中学校でよく行われている見守りや校内環境整備等とは異なり、まずはキャリア教育や総合的な探究の学習等、授業における関わりづくりを志向する回答が得られた。

図表 III-9 ヒアリング調査における主な意見（高校教育における地域の学校への関わり）

【ヒアリング調査における主な意見】

- ・ 小・中学校と高校は基本的な学校の在り方が違う。小・中学校は、地域性はあるが各学校にさほど特色はないのに対し、高校は、学校自体が特色を持っている。そのため、学校と学校外がつながる仕組みを同じように考えることは難しいと考える。
- ・ 総合的な探究の授業の中で、教育目的に近い部分で参画してもらうのがこれからの目標である。すでにそこに地域の力を借りている学校はあるが、CSとして意識して学校運営協議会にかけていない部分もある。そこを結び付けられればよいが、うまく接続できていないので今後は連携していけたらよい。
- ・ 地元の企業の相談役が、地域住民として関わっている。南校はロータリークラブ、連合町会長など。ロータリークラブは企業関係者としてキャリア教育に関わっている。
- ・ 産業界との繋がりを活かし、キャリア教育として「リーダー塾」を実施している。様々な分野の地元企業で活躍するトップリーダー20名程をプロジェクト学習の中で招いている。また、「総合大学」という名称で、各大学の専門的な領域について、大学で実際に教えている教員を招き、専門的知見を教えてもらう機会を設けている。
- ・ 協働活動の内容は小・中学校と高校で異なる。小・中学校だと、草刈り、見守り、環境整備など活動報告が多かったが、高校だと、環境整備などは生徒自身でできてしまう。そうではなく授業で協力してもらいたいと考えている。また、鉄道利用の生徒が半数の本校では、駅から学校までの間に住宅地がないために地域の方と出会うタイミングがない。こうした事情からも、授業でのふれあいをお願いしている。

【CSポートフォリオ見直しに関して提起される論点】

- ④ 授業における関わりの程度を測定する指標の検討

③ 高校教育における保護者や地域住民の位置づけ

授業を中心とした協働活動を志向するにあたって、協働活動の相手である地域住民や保護者について指摘されたのが、地理的な距離と心理的な距離の2点であった。

前者については、特に高校生とその保護者について指摘された。小・中学校よりも広い学区制を取っていたり、通学域が全県的に広がっているような場合、高校所在地から遠方に保護者が居住している場合がある。こうした場合において、保護者に対して学校、学校所在地域との関わりや意識醸成をどれほど求めるかという点が論点として提起された。

後者の心理的な距離とは、地域住民や保護者にとって、高校生、ないし高校教育に関わることに対する必要性の認識の低さや「ハードルの高さ」があるという指摘であった。一方で学校側からは、生徒の発達面やキャリア教育の面で、学校外の大人に期待する面が大きいことから、こうした状況の改善を目指していることも分かった。こうした状況を踏まえ、CSポートフォリオのB,C領域（意識、活動）面を検討していく必要があると思われる。

図表 III-10 ヒアリング調査における主な意見（高校教育における保護者や地域住民の位置づけ）

【ヒアリング調査における主な意見】

- ・ 高校は生徒が全県から通っていたり、中には県外から通っている生徒もいるなど、学校で「地域」に対する共通理解を得ることが難しかった面はある。コンソーシアムのなかで、生徒が変わっていく様子を共有することにより理解が進んでいった。
- ・ 生徒の約半数は別の市から通っている。そのため、地域の方との繋がりは薄い面もある。地域の方も、高校生だから自分のことは自分でできるのでは、という認識を持っているように思われる。ただ、高校生といえども幼いところもあるので、地域として見守ってもらいたいと考えている。
- ・ 高校は専門性が高い学習内容ゆえに、学校内で完結してしまう傾向がある。地域側から見たとき、小・中学校に地域が関わるよりもハードルが高く感じられているかもしれない。また保護者にとっても、自分が出る幕ではないのではないかと感じられているかもしれない。
- ・ 高校教育は専門性に特化している場合もあるが、それだけで閉じるわけではない。心の発達や、進路実現においてロールモデルに出会うことの重要性などは、学校内部だけでは提供しきれない。生徒にとって何が重要かという点の認識が広まっていくとよい。
- ・ 生徒は発達段階の途中。地域との触れ合いが重要であるため、協働する活動を取り入れていきたい。

【CSポートフォリオ見直しに関して提起される論点】

- ⑤ 保護者や生徒が居住する地域の広域性を踏まえた指標の検討
- ⑥ 保護者や地域住民の学校への関わりに対する理解（心理的障壁の軽減）を測る指標の検討

④ 地域との協働における高校教職員の位置づけ

前述の保護者の居住地の広汎性とも類似するものとして、高校教職員においても、人事の広域性の点から、地域との関わりに関する意識醸成をどれほど求めるかという点が論点として提起された。

図表 III-11 ヒアリング調査における主な意見（地域との協働における高校教職員の位置づけ）

【ヒアリング調査における主な意見】

- ・ 地域との協働の推進、普及にあたり、教職員の理解を得るのが難しかった。CSは義務教育の仕組みではという意識もあったように思われる。また、高校の場合教員の異動範囲も県単位になるので、地域が違えば状況が大きく異なるという難しさもある。市町村をまたぐと様子が変わり、経験値がリセットされてしまう部分もあるので、先生は大変だと感じる。

【CS ポートフォリオ見直しに関して提起される論点】

- ⑦ 教員と地域との関わりのあり方を踏まえた指標の検討

(3) 高等学校における地域との協働による生徒の成長について

① 生徒の成長に関して期待すること

CS ポートフォリオでD領域の効果として把握している生徒の資質・能力について、高校生という段階を踏まえて指標を検討する必要性があると思われる。

図表 III-12 ヒアリング調査における主な意見（生徒の成長に関して期待すること）

【ヒアリング調査における主な意見】

- ・ 高校は卒業そのまま就職する生徒もいるので、キャリア意識は大事だと考える。(大方高等学校)
- ・ 本人の主体性が測れるとよい。また、探究力(情報を収集して探究する力)も、今後の教育の方向性からも重要と考える。(大方高等学校)
- ・ 隣の市町村に住んでいる子にとっても、学校所在地の市町村について考えることで、自分の市町村のことも考えられるきっかけになればよいのではと考えている。(和歌山県教育委員会)

【CS ポートフォリオ見直しに関して提起される論点】

- ⑧ 高校生のキャリア段階、発達段階に応じた資質・能力に係る指標の検討

2-2. CS ポートフォリオの論点に対応する指標精査に係る意見

前節で挙げられた、高校向けのポートフォリオの検討に係る論点の一覧と、それぞれに対応する、具体的な指標等に対する意見(再掲含む)を整理したのが下の図表である。

図表 III-13 CSポートフォリオの論点に対応する具体指標に関する意見

①	学校運営協議会委員が居住する地域の広域性を踏まえた指標の検討
②	協議会委員のスクール・ポリシーに対する理解及び熟議の状況を把握できる指標の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校でも協議会のA領域の要素はある程度運用できる等に思う ・ 実行性・熟議度が大事かと思う。 ・ 運営指標の構成はまさに現状の整理の通りだと思う。
③	幅広い「地域」の捉え方及び協働活動の担い手に対応した指標の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域」のところは、「社会」と置き換えてもよいかと思う。少なくとも物理的な地域ではない。 ・ 地域を指標に据えると、範囲を捉えづらい。
④	授業における関わりの程度を測定する指標の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに対しての取組という指標を持ってくれば、企業とのタイアップができていないか、働きかけができていないか。インターンができていないか等、生徒の人材育成に焦点を当てた指標が出てくる。
⑤	保護者や生徒が居住する地域の広域性を踏まえた指標の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者への効果に係る指標について、学校の所在地と居住地が異なる場合、保護者はどちらの地域を想定するか定かではなく、本来測りたいところが測れないかもしれない。 ・ 県外の保護者が高校の地域に愛着をもち、関係人口となるケースはあるが、それは地域学校協働活動の成果とは別のものとして考えた方がよいかもしれない。
⑥	保護者や地域住民の学校への関わりに対する理解（心理的障壁の軽減）を測定する指標の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果に関する指標の視点は、現状では小・中学校によっているように思う。例えば、保護者の16～19の項目（※1）などは高校では難しいように思う。 ・ 学校への信頼というのは重要だと考えている。 ・ 協働のパートナーとして保護者に期待することとして、学校を応援する意識等は含められるかもしれない。 ・ 高校における保護者は、小中であるような主体的な関わりから応援的な関わりになってくるべきかと思う。 ・ 子どもがしていることを保護者が知っているということが大事かと思う。無関心でも、すごく関係してくるのでもなく、知っているが手出しはしない、ということが大事かなと思う。 ・ CSの仕組みを理解してもらうことが課題と思われるので、そのための項目が必要かと思う。地域から声をかけられても、人手が欲しいだけだったりするなど、趣旨を理解されていない場合もある。
⑦	教員と地域との関わりのあり方を踏まえた指標の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員からすると、他の地域から多く来ていることもあり、地域への信頼、愛着を求めるまでは難しい。ただ、地域を知らなければいけないと言える。 ・ 生活指導まで地域がしてくれるというようなイメージは高校にはない。 ・ ゆくゆくは学校の負担軽減に繋がるとよいと考えている。 ・ 子どもが育っている実感があれば大人の自己肯定感につながると思う。
⑧	高校生のキャリア段階、発達段階に応じた資質・能力に係る指標の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒に対する設問のうち、26～31（※）あたりは高校生の年代にはそぐわないと考える。 ・ 地域との愛着は高校段階でも聞きたい。高校は卒業そのまま就職する生徒もいるので、キャリア意識は大事。 ・ 本人の主体性が測れることがよい。探究力（情報を収集して探究する力）も、今後の教育の方向性から重要。

注) 下線部は指標の検討に直接かかわる言及として当社付与

(※1) C領域：保護者の活動に含まれる「教職員・地域住民・保護者との交流」のうち「16：自分の子どもの友達の親と交流する」、「家庭教育活動の実践」のうち「17：自分の子どもの友達を褒める」「18：自分の子どもの友達が悪いことをしたら、注意する」「19：子どもと一緒に、地域の文化に触れたり、学んだりする」

(※2) D領域：資質・能力の向上に含まれる「規範意識・行動」のうち「26：みんなで決めたことは守るべきだと思う」「27：先生に注意されたことはきちんと守る」「28：友達から誘われても、やってはいけないことはやらない」「29：友だちがいじめをしていたら注意する」「30：人を傷つけることをわざと言う（反転項目）」「31：人が困っているときは進んで助けている」

IV. 実施状況調査

1 調査概要

1-1. 調査方針

文部科学省「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査」（以下、実施状況調査）の令和3年度版の調査を実施するとともに、同調査を通じ、今後より効率的に実施できる調査手法及び汎用性の高いフォーマットを構築することを目的に実施した。なお、調査手法に関しては、以下の点から「Ms-Excel 調査票」を用いた。

図表 IV-1 調査方法についての考え方

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①定常的な予算確保が不要であること（≠専門ウェブサイトの設計・サーバ管理）②各教育委員会の情報セキュリティ設定に左右されないこと（≠クラウド等へのアクセス）③今後も調査項目が変更（追加・削除）される可能性があること（次年度以降も貴省職員が加工・編集しやすいこと） |
|---|

また、「Ms-Excel 調査票」及び調査方法の設計にあたっては、本調査の以下の特性を踏まえている。

図表 IV-2 実施状況調査の特徴

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①各教育委員会で調査回答の組織内決裁を経る必要があること（調査票の出力利用を想定）②貴省での取りまとめ及び公表資料を作成すること（レポート作成を想定） |
|--|

1-2. 調査対象

実施状況調査は、過年度と同様に都道府県・政令指定都市・市町村（特別区含む）の全教育委員会を対象とした。

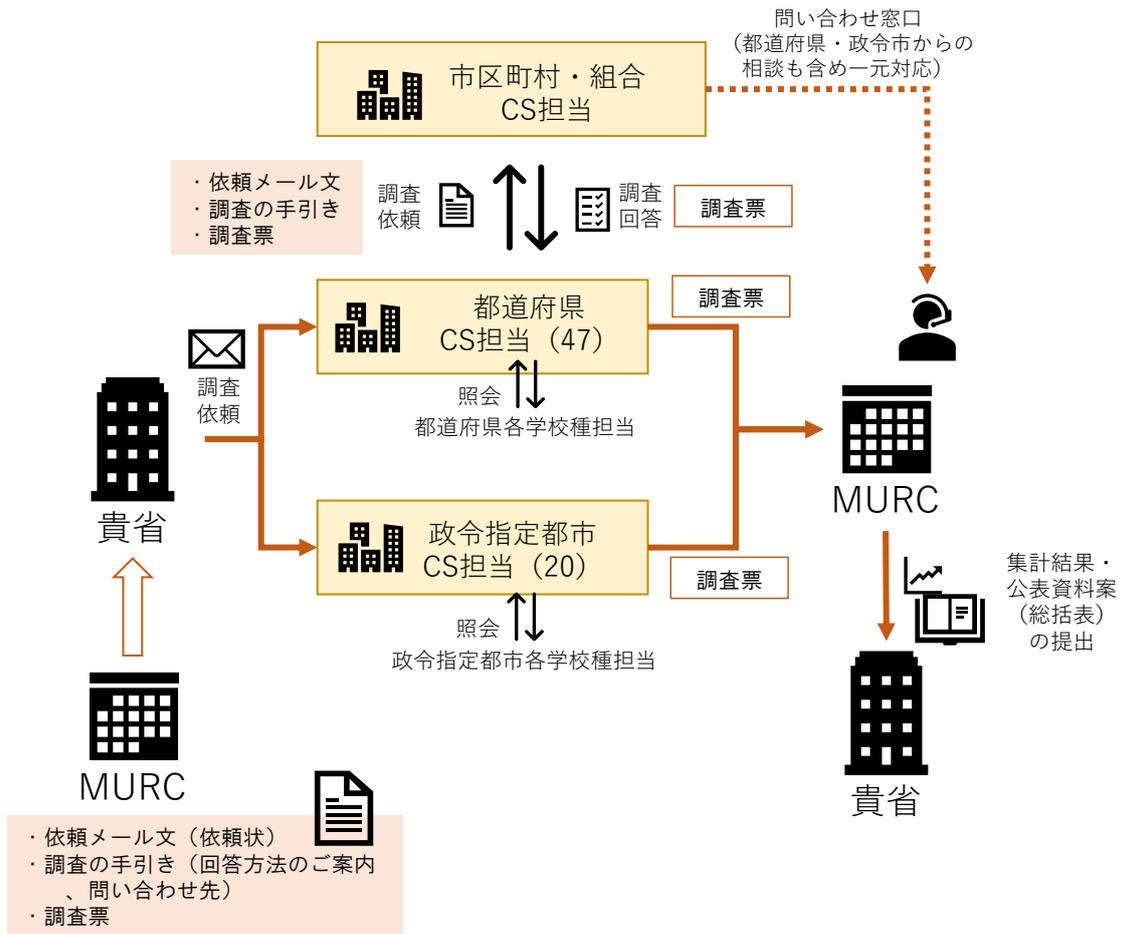
1-3. 調査期間

調査期間は、令和3年8月27日（金）～令和3年10月1日（金）である。

1-4. 調査方法

調査の依頼については、過年度調査と同様に文部科学省から各都道府県（47団体）及び政令指定都市（20団体）のCS担当宛にメールにて調査の依頼を行い、それをもとに各都道府県が管轄市区町村へ転送を行った。調査の回収については、都道府県教育委員会は自身の調査票及び管内市区町村より回収した調査票（政令指定都市教育委員会は自身の調査票のみ）を返送する形とした。調査全体のフローは次ページのとおりである。

図表 IV-3 調査全体のフロー



1-5. 調査項目

本年度調査項目は下記の通りである。なお、特別に指定のある場合を除き、2021年5月1日時点の状況について回答を求めた。

図表 IV-4 調査項目

設問分類	設問内容
0.基本情報	0-1 自治体区分 (1.都道府県/2.指定都市/3.中核市/4. (2・3 以外の)市区町村/5. 組合)
	0-2 所在都道府県名
	0-3 回答自治体名 (市区町村名あるいは組合)
	0-4 回答部署 (自由記述)
	0-5 回答者 (自由記述)
	0-6 電話番号 (自由記述)
	0-7 メールアドレス (自由記述)

1.地域学校協働活動推進員等について	1-1 統括的な地域学校協働活動推進員（合計人数／うち学校運営協議会委員） 1-2 地域学校協働活動推進員（合計人数／うち学校運営協議会委員） 1-3 統括コーディネーター（合計人数／うち学校運営協議会委員） 1-4 地域コーディネーター（合計人数／うち学校運営協議会委員）
2.コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の実施状況等	2-1① 学校運営協議会（合計協議会数／うち1校1協議会の数／うち複数校1協議会の数） 2-1② 地域学校協働本部（合計本部数） ～以降、各校の実施状況を回答～ 2-2 各校の概要（設置者／学校種／新学校コード／学校名） 2-3 学校運営協議会（設置の有無） 2-4 学校運営協議会の設置予定・検討（設置を予定・検討の有無） 2-5 学校運営協議会の類似の仕組み（設置の有無） 2-6 地域学校協働本部（本部の対象になっているか） 2-7 放課後子供教室（一体型／連携型／単独／実施していない） 2-8 放課後子供教室での学習支援（実施の有無） 2-9 放課後子供教室以外の学習支援の実施（実施の有無）

2 アンケート調査結果

2-1. 調査結果の主なポイント

(1) CSを導入する学校数

公立学校（幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）のうち、CSは11,856校（33.3%）となり、前年度調査から2,068校（6.1pt）増加した。なお、学校運営協議会の設置が努力義務となった平成29年（2017年）4月時点のCSの数と比較すると約3.3倍の増加となった。

(2) 地域学校協働本部を整備している学校数

公立学校のうち、地域学校協働本部を整備している学校は19,471校（54.7%）となり、前年度調査から1,341校（4.4pt）増加。

(3) 学校運営協議会と地域学校協働本部をともに整備する学校数

公立学校のうち、学校運営協議会と地域学校協働本部をともに整備している公立学校は8,528校（24.0%）となり、前年度調査から5.2ポイント増加。

2-2. 公表資料について

令和3年度実施状況調査の結果は、文部科学省ホームページにて公開されている。ホームページのURL及び公開資料は以下の通りである。

【URL】

学校と地域でつくる学びの未来 ホームページ

「令和3年度地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況について」

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/document/chosa/post-22.html>

【公開資料】

- ・令和3年度地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況（概要）
- ・令和3年度地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況（参考）
- ・令和3年度地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況（CS都道府県別）
- ・令和3年度地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況（都道府県別・市区町村別）

2-3. 結果詳細

(1) CS及び地域学校協働本部の学校種別の内訳

以下は、R3年度実施状況調査の結果概要として、各学校種におけるCS及び地域が高協働本部の導入・整備状況をまとめたものである。CSの導入率は全学校種合計で33.3%、地域学校協働本部の整備率は全学校種合計で54.7%となった。

図表 IV-5 CS及び地域学校協働本部の学校種別の内訳

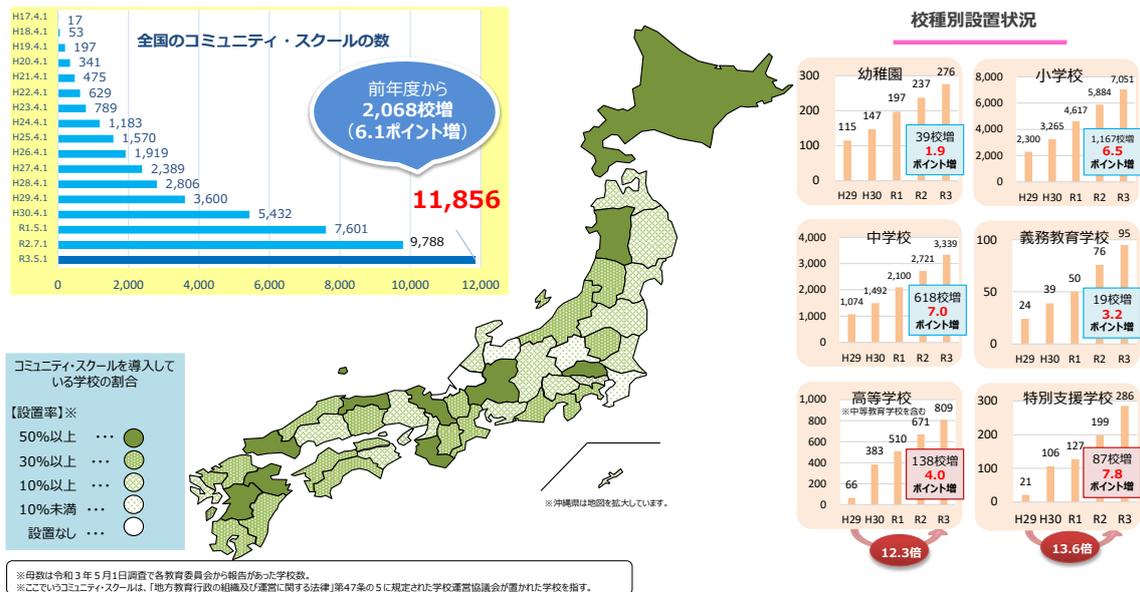
	コミュニティ・スクール			地域学校協働本部		
	導入校数	導入率	増加校数 (前年度比)	整備校数	整備率	増加校数 (前年度比)
幼稚園	276	9.8%	39	553	19.5%	53
小学校	7,051	37.5%	1,167	12,570	66.9%	793
中学校	3,339	36.5%	618	5,625	61.5%	419
義務教育学校	95	66.0%	19	101	70.1%	18
高等学校	805	22.9%	137	435	12.4%	49
中等教育学校	4	11.8%	1	2	5.9%	0
特別支援学校	286	26.0%	87	185	16.8%	9
合計	11,856	33.3%	2,068	19,471	54.7%	1,341

注) 幼稚園には幼稚園型認定こども園を含む。学校数の母数は今回調査において教育委員会から回答のあった学校数としている。

(2) CS（学校運営協議会制度）の導入状況

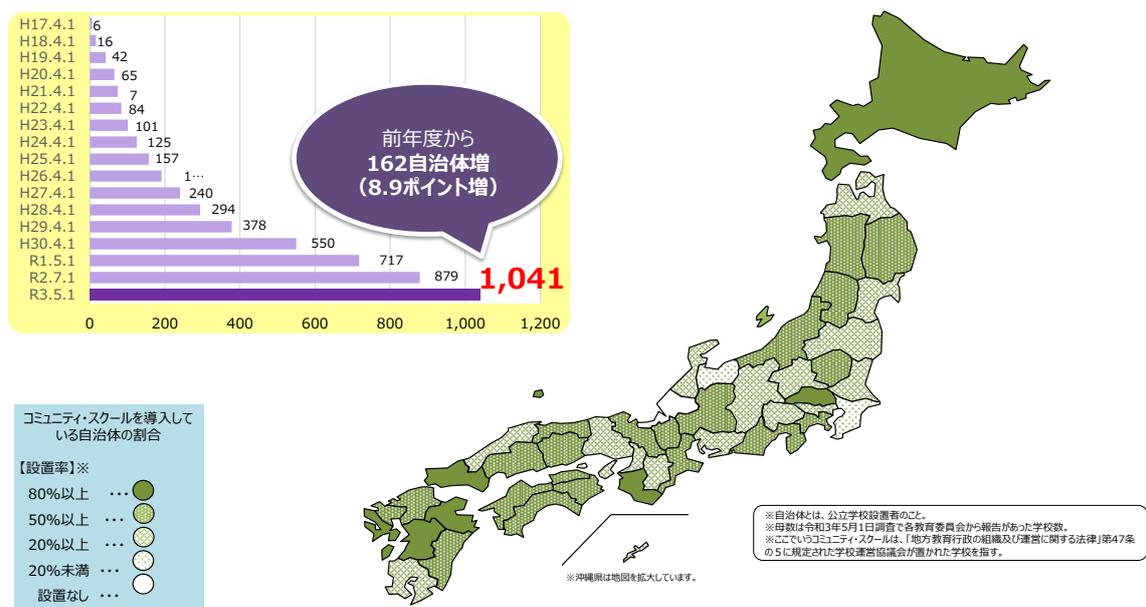
学校運営協議会を設置している学校数は、調査時点とした令和3年5月1日時点で11,856校となった（幼稚園276、小学校7,051、中学校3,339、義務教育学校95、高等学校805、中等教育学校4、特別支援学校286）。

図表 IV-6 (2) CS（学校運営協議会制度）の導入状況 一学校数一



また、CSを導入している自治体数は、調査時点とした令和3年5月1日時点で1,041自治体となった（32道府県、998市区町村、11学校組合）。

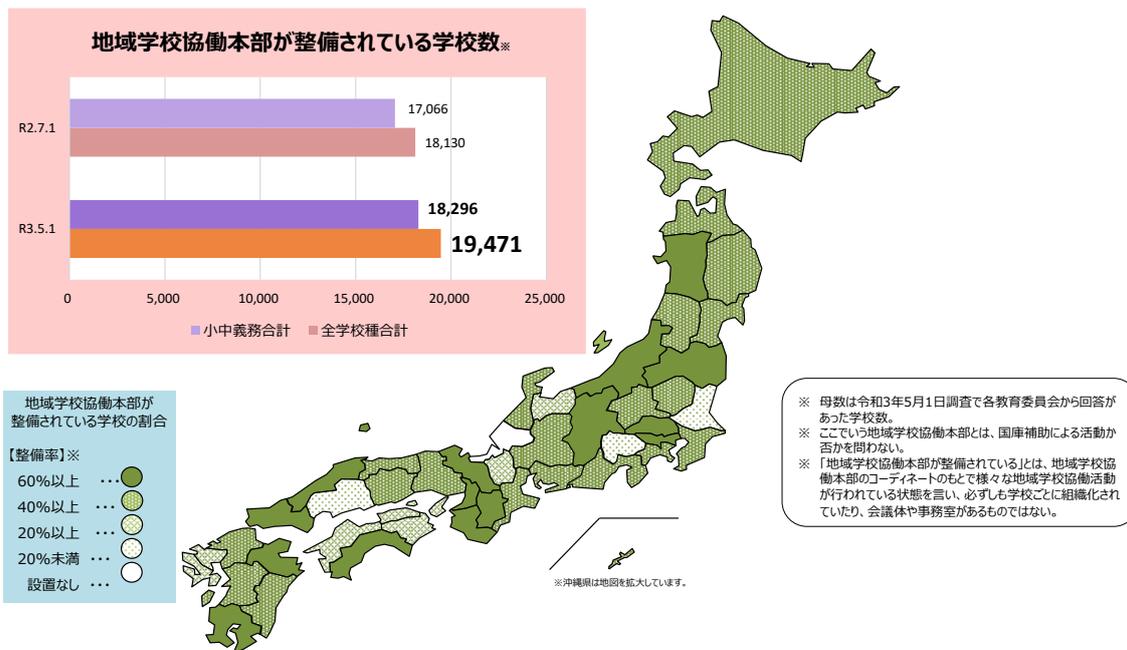
図表 IV-7 CS（学校運営協議会制度）の導入状況 一自治体数一



(3) 地域学校協働本部の整備状況 一学校数一

地域学校協働本部が整備されている公立学校数は、調査時点とした令和3年5月1日時点で19,471校となった（幼稚園 553、小学校 12,570、中学校 5,625、義務教育学校 101、高等学校 435、中等教育学校 2、特別支援学校 185）。

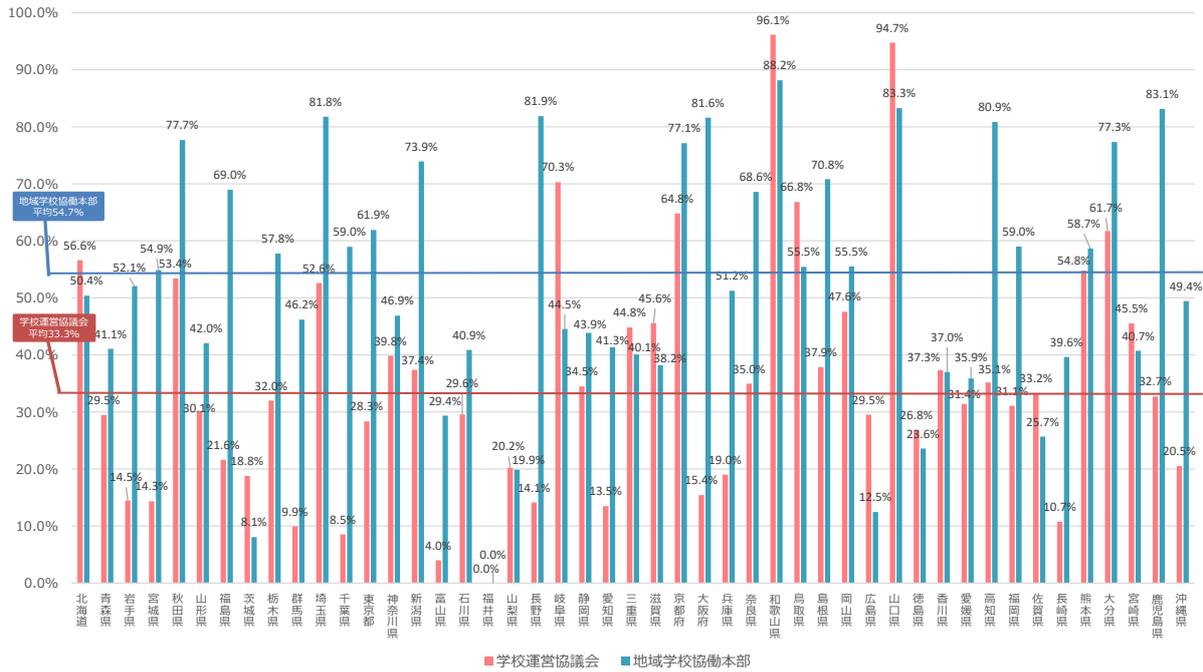
図表 IV-8 地域学校協働本部の整備状況 一学校数一



(4) CS の導入率と地域学校協働本部の整備率（都道府県別・全学校種）

各都道府県における全学校種合計のCS導入率及び地域学校協働本部の整備率を整理したところ、次の図表のようになった。なお、今回調査で定義しているCS及び地域学校協働本部ではない、その他の地域独自で取り組まれている類似の仕組みについては集計の対象外としている（以降同様）。

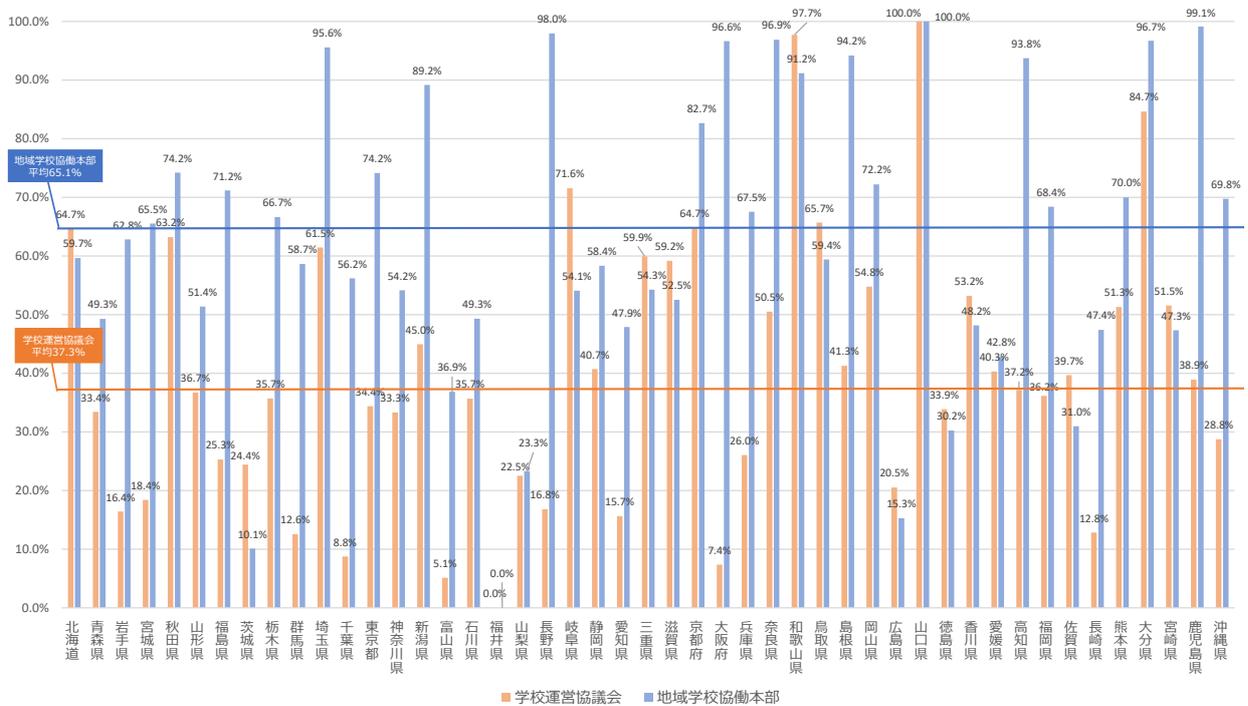
図表 IV-9 CSの導入率と地域学校協働本部の整備率（都道府県別・全学校種）



(5) CSの導入率と地域学校協働本部の整備率（都道府県別・小中義務教育学校）

各都道府県における公立小・中・義務教育学校のCS導入率及び地域学校協働本部の整備率を整理したところ、次の図表のようになった。

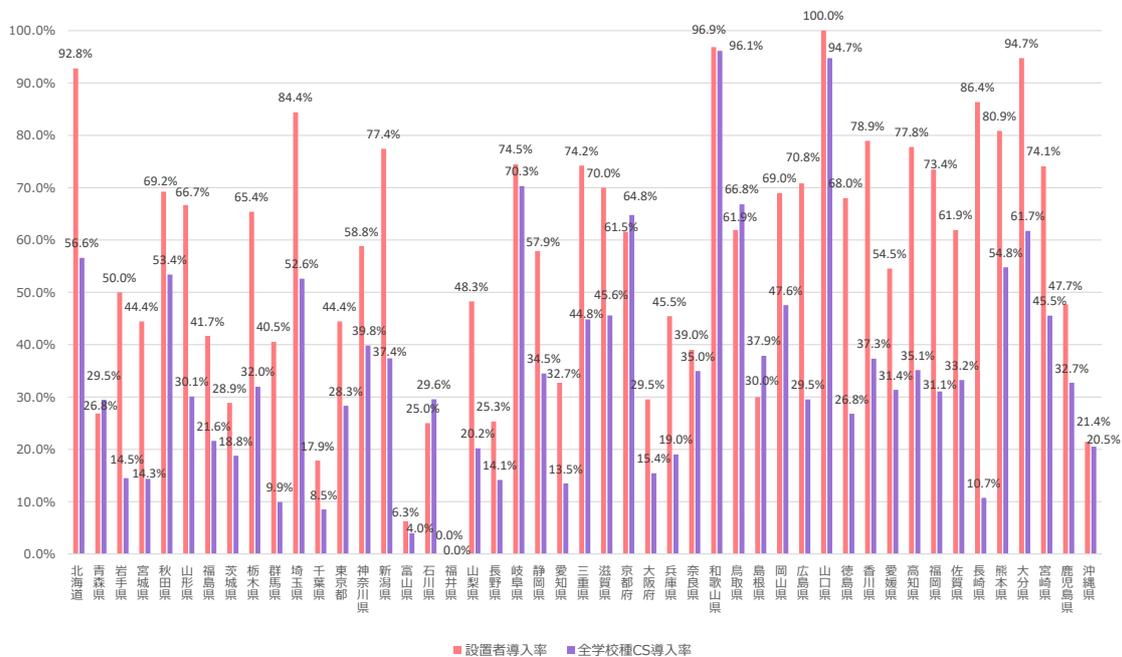
図表 IV-10 CSの導入率と地域学校協働本部の整備率（都道府県別・小中義務教育学校）



(6) CS の自治体導入率と学校導入率（都道府県別・全学校種）

各都道府県における CS の自治体導入率及び学校導入率を全学校種について整理したところ、次の図表のようになった。

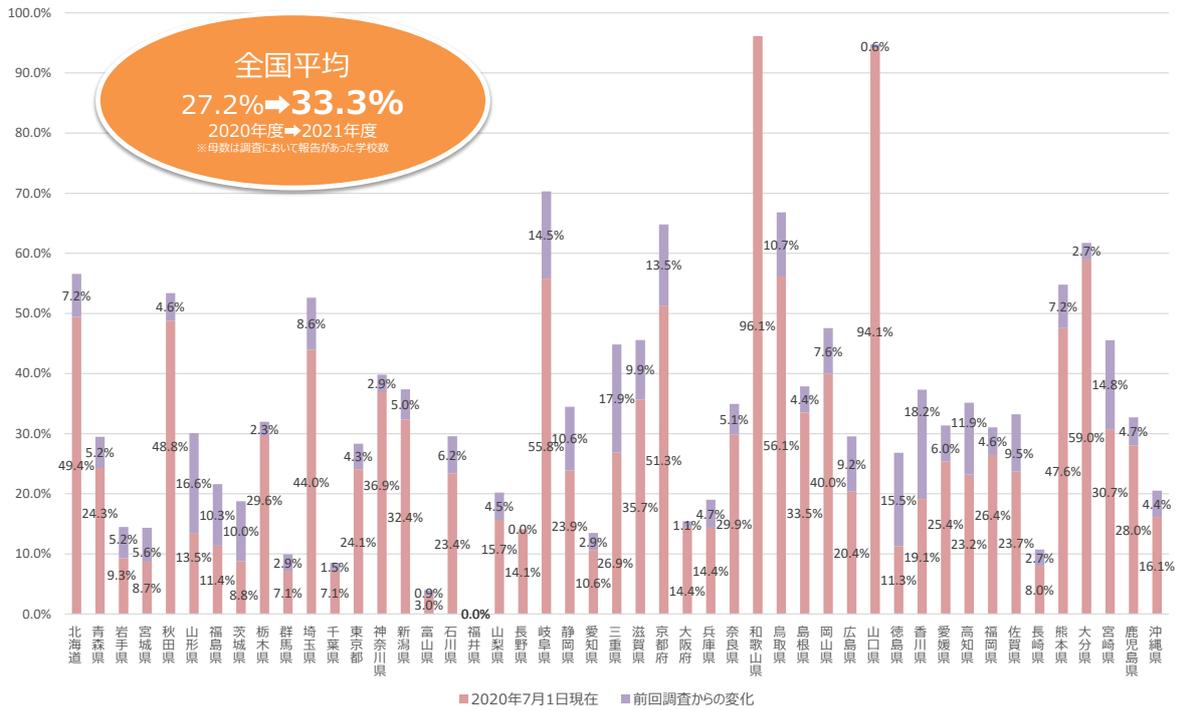
図表 IV-11 CSの自治体導入率と学校導入率（都道府県別・全学校種）



(7) CS 導入率の 2 カ年変化（都道府県別・全学校種）

都道府県別に全学校種合計の CS 導入率の 2 カ年変化をみたところ、次の図表のようになった。なお、単位未満を四捨五入しているため、2 ヶ年の積み上げの合計と内訳の合計とは一致しない場合がある（以降同様）。

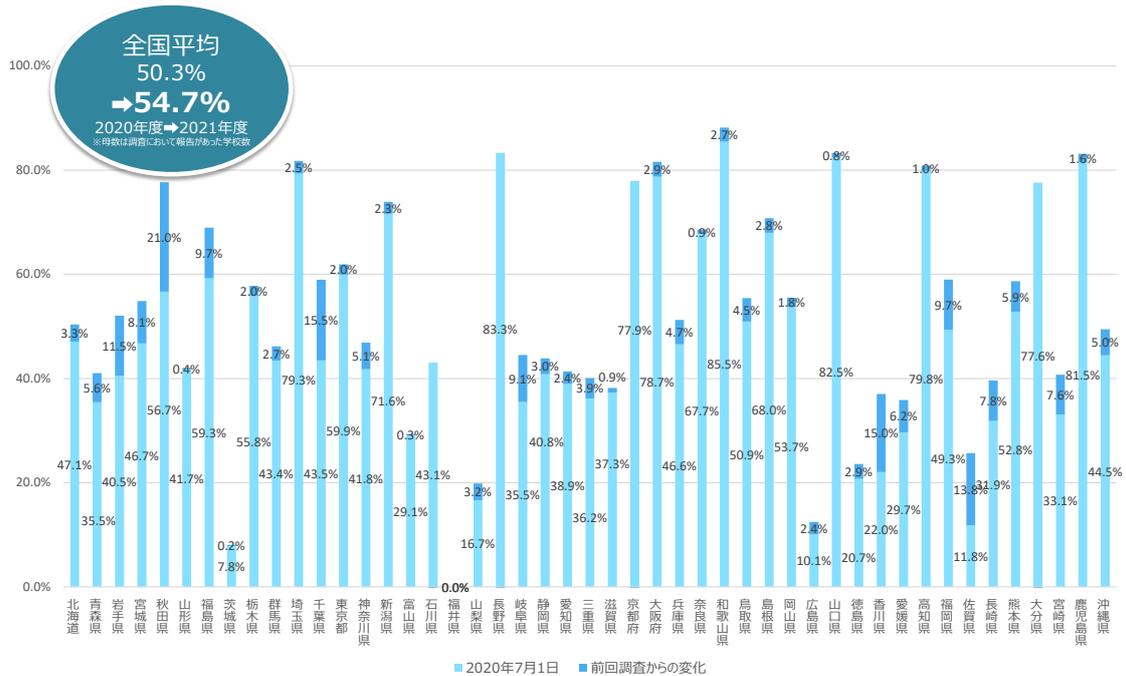
図表 IV-12 CS導入率の2カ年変化（都道府県別・全学校種）



(8) 地域学校協働本部整備率の2カ年変化（都道府県別・全学校種）

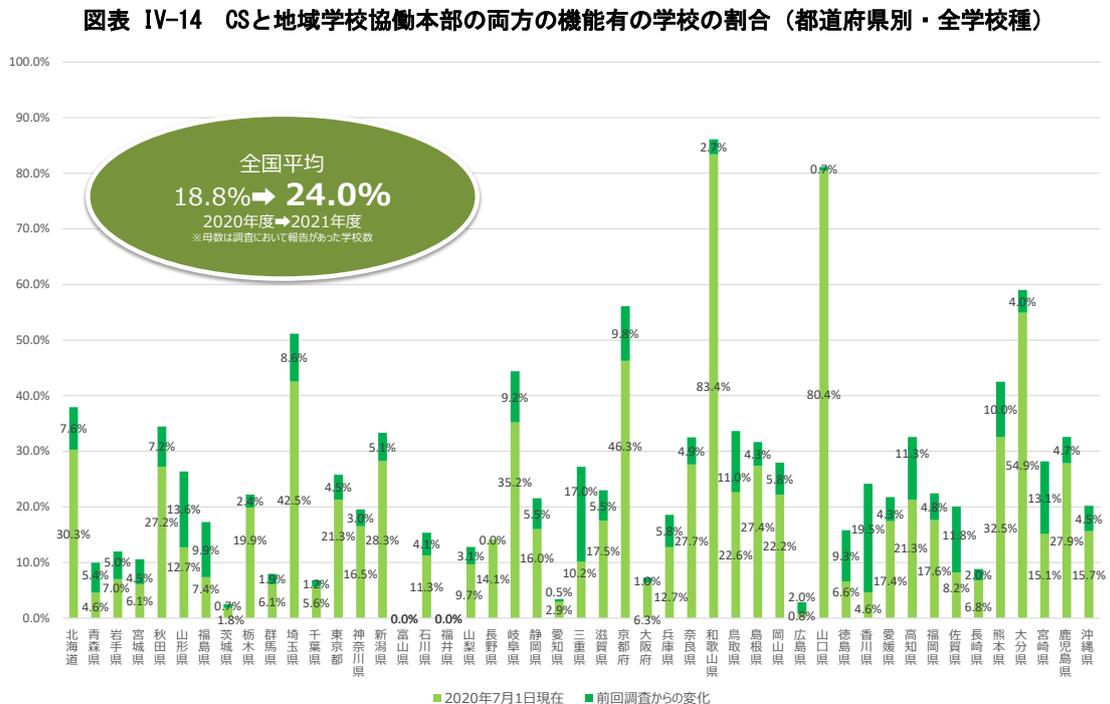
都道府県別に全学校種合計の地域学校協働本部整備率の2カ年変化をみたところ、次の図表のようになった。

図表 IV-13 地域学校協働本部整備率の2カ年変化（都道府県別・全学校種）



(9) CS と地域学校協働本部の両方の機能有の学校の割合（都道府県別・全学校種）

都道府県別かつ全学校種合計で、CS と地域学校協働本部の両方の機能を整備している学校の割合をみたところ、次の図表のようになった。



(10) 地域学校協働活動推進員やコーディネーターの内訳

地域学校協働活動推進員及びコーディネーターの配置状況を見たところ、両者を合計した配置人数は 31,012 人となった。地域学校協働活動推進員及びコーディネーターの定義については、以下の通りである。

図表 IV-15 (10) 地域学校協働活動推進員及びコーディネーターの定義

<p>○ 地域学校協働活動推進員</p> <p>社会教育法第9条の7において定められている、教育委員会の施策に協力して地域住民等と学校との間の情報の共有を図るとともに、地域学校協働活動を行う地域住民等に対する助言その他の援助を行う、教育委員会が委嘱している者。統括的な地域学校協働活動推進員は、これらの者を統括する立場の者。</p> <p>○ 地域コーディネーター</p> <p>教育委員会が社会教育法に基づいた地域学校協働活動推進員として委嘱していないが、地域学校協働活動推進員と同等の役割を果たす者。統括コーディネーターはこれらの者を統括する立場の者。</p>
--

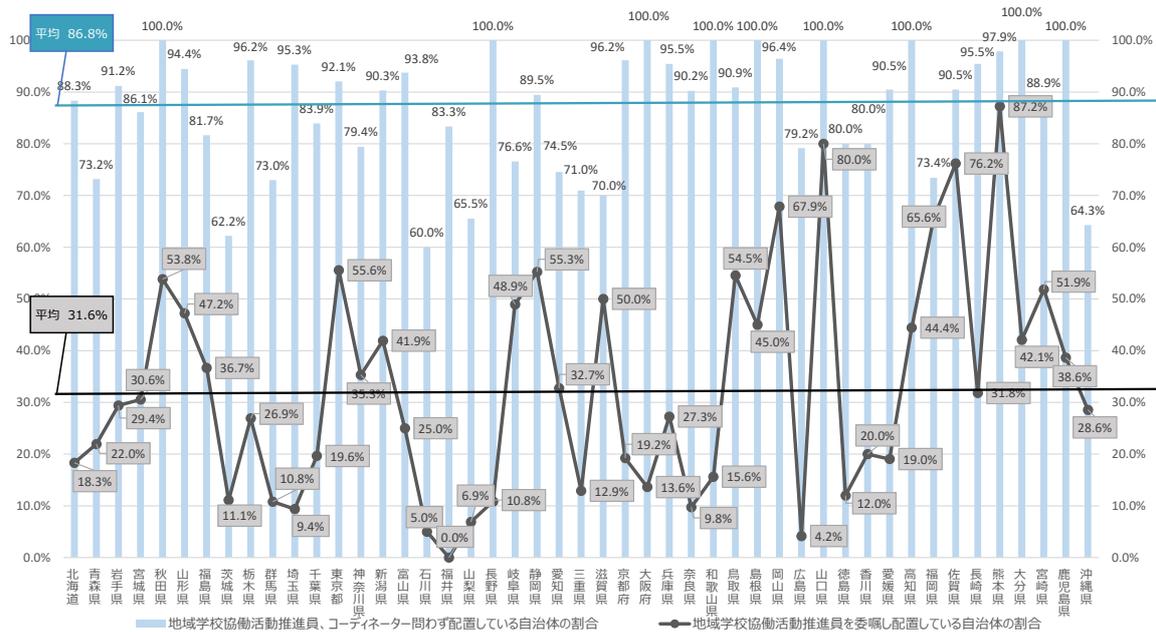
図表 IV-16 (地域学校協働活動推進員やコーディネーターの内訳)

合計 2021年5月1日現在 (年度内の予定を含む)		31,012人 (前年度28,822人)
統括的な地域学校協働活動推進員	地域学校協働活動推進員	
351人(前年度244人)	8,492人(前年度7,095人)	
統括コーディネーター	地域コーディネーター	
878人(前年度820人)	21,291人(前年度20,663人)	

(11) 地域学校協働活動推進員等の配置状況(都道府県別)

都道府県別に、地域学校協働活動推進員やコーディネーターが配置されている(1人以上いる)自治体の割合と、このうち教育委員会が社会教育法に基づき地域学校協働活動推進員に委嘱している者が配置されている自治体の割合をみたところ、次の図表のようになった。

図表 IV-17 地域学校協働活動推進員等の配置状況(都道府県別)



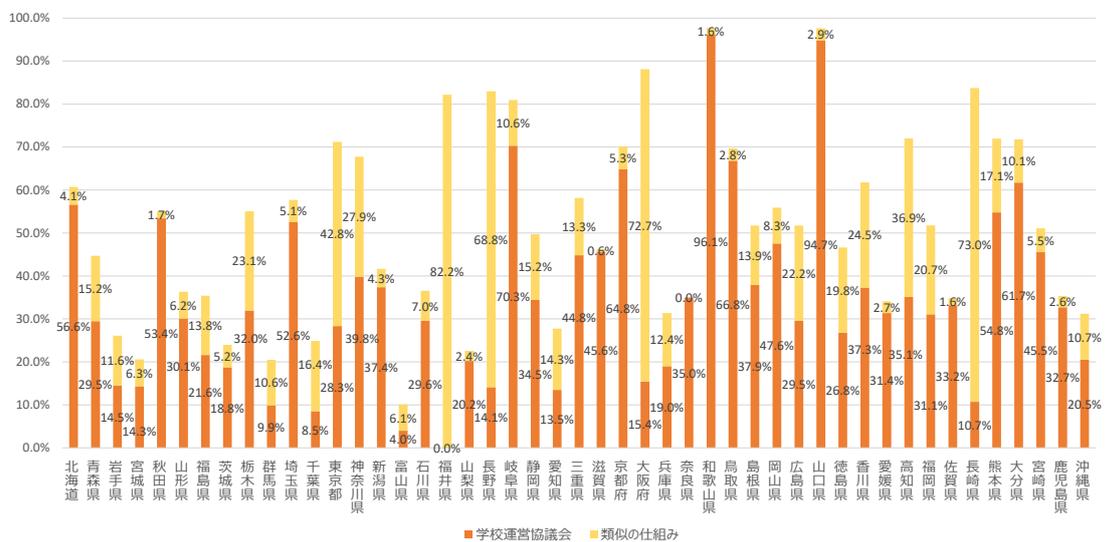
(12) 学校運営協議会の「類似の仕組み」の実施状況

都道府県別に、学校運営協議会を導入している学校の割合といわゆる「類似の仕組み」を導入している学校の割合をみたところ、次の図表のようになった。

図表 IV-18 調査における「類似の仕組み」の定義

- ・法律に基づく学校運営協議会制度ではないものの、学校ごと又は中学校区単位ごとに、教育委員会や学校が作成する要綱等により設置されている、地域住民及び保護者が学校運営や教育活動について協議し、意見を述べる会議体。
- ・学校評議員（学校教育法施行規則第 49 条に基づくもの）や学校関係者評価のみを行うことを目的とした委員会等は含まない。

図表 IV-19 学校運営協議会の「類似の仕組み」の実施状況

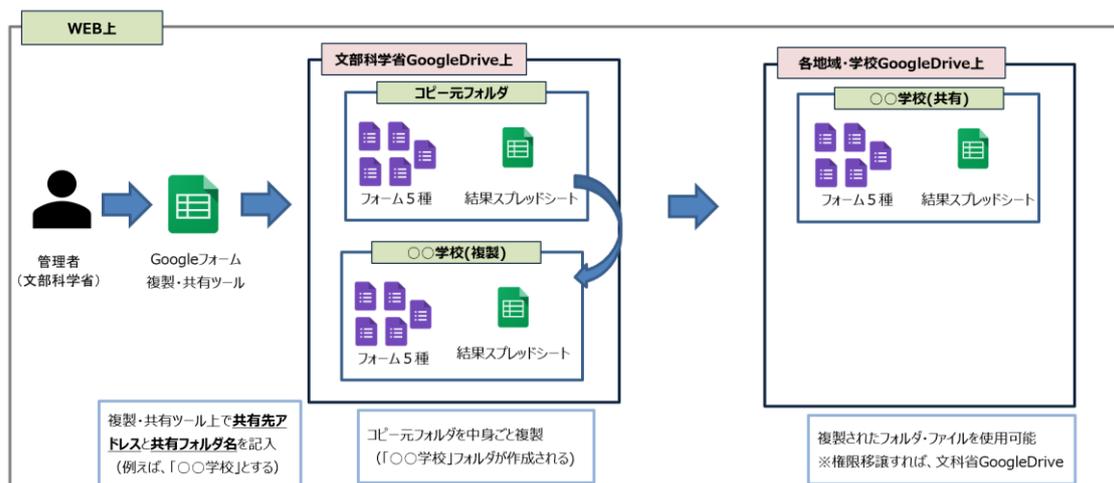


V. CS ポートフォリオの普及・展開に向けた検討

1 Google フォーム作成手順の簡略化

現在、CS ポートフォリオの作成にあたっては弊社が事務局として全体を管理し、各地域・学校で使用する Google フォームの作成、ローデータの管理及び CS ポートフォリオの作成を行っている。CS ポートフォリオを作成するためには、Google フォームにて5種のアンケートを実施する必要があるが、特にこのプロセスの手間が大きく、現状の方法のまま各地域・学校へと普及していくことは現実的でない。そこで、令和3年度実証研究では、文部科学省で Google アカウントを作成し、そこに元ファイルとなる5種の Google フォームを作成し、今後各地域・学校から希望があった場合に、元ファイルをコピーして活用できるように「Google フォーム複製・共有ツール」の開発に取り組んだ。これによって、今後は下記のような方法で、Google フォームを展開していけるようになった。

図表 V-1 Googleフォーム複製・共有ツールによる複製・共有方法



具体的な手順は以下の通りである。

CS ポートフォリオを活用したい地域・学校は、まず Google アカウントを作成し、アカウントに紐づくメールアドレスを明記したうえで、文部科学省の専用アドレスに (cs-fb01@mext.go.jp) に申し込みを行う²。その後、文部科学省アカウントから当該メールアドレスが紐づく Google アカウントに対して、5種の Google フォームの共有が行われる。

共有された Google フォームは、各地域・学校の Google フォーム上及び Google Drive 上で確認できる。また、各 Google フォームで集まった回答データは、Google Drive 上の「各種アンケート回答結果」スプレッドシート上で確認できる。

なお、共有されたファイルは文部科学省から各地域・学校へ「権限移譲」を行うことで、文部科学省アカウントからは当該ファイルを削除することができる。ただし、権限移譲には多少の手作業が必要になることから、引き続きよりよい方法を模索することが期待される。

² 詳細は別添資料「CS ポートフォリオ作成の手引き」を参照のこと。

2 CS ポートフォリオ活用に向けた手引きの更新

CS ポートフォリオの普及・展開に向け、その目的や意義、活用方法について記載した「CS ポートフォリオ作成の手引き」及び「CS ポートフォリオ活用の手引き」を作成した。令和2年度実証研究においては、それぞれのたたき台を作成していたが、本年度実証研究において下記の更新を行った。

(1) 共通更新事項

「II. 実践検証（2つの地域でのCS ポートフォリオ活用実践）」において実施した2市8校の研修における参加者の反応等を踏まえ、CS ポートフォリオの概要説明部分に以下の要素を追加した。

図表 V-2 CSポートフォリオ概要部分に追加した要素

見出し名	追加の意図
CS ポートフォリオを使って、こう変わる	これから CS ポートフォリオを活用しようとする地域・学校に対し、CS ポートフォリオを活用する意義を直感的に理解してもらうため、これまでの実証研究で CS ポートフォリオを作成し、関係者の対話を通して「次なる一手」につながった事例の紹介を行った。
「データ」と「対話」が両輪	CS ポートフォリオで出た数値をそのまま受け入れるのではなく、その「データ」をもとに関係者で「対話」をすることで、なぜそのような結果になっているのかを議論・解釈できる。このように「対話」を通して効果的な気づきや「次なる一手」につながるということを強調した。
個別指標の検討	CS ポートフォリオに含まれる指標はどのように設定されたものが質問が出たことから、指標検討のプロセスの説明を追加した。
本ポートフォリオの特徴と留意点	CS ポートフォリオを作成するにあたり行うアンケート調査について、その対象設定やサンプル数確保に関する留意点を整理した。

(2) CS ポートフォリオ作成の手引き

CS ポートフォリオ作成の手引きでは、Google フォーム作成の簡略化（「Google フォーム複製・共有ツール」の開発）に伴い、必要手順を整理し記載した。また、R3 版 CS ポートフォリオの作成に伴い、CS ポートフォリオファイルについての説明を修正した。

(3) CS ポートフォリオ活用の手引き

CS ポートフォリオ活用の手引きでは、「II. 実践検証（2つの地域でのCS ポートフォリオ活用実践）」において実施した2市8校の研修における参加者の反応等を踏まえ、CS ポートフォリオの結果を読み解く視点として以下3点を抽出し、これに連動するワークを盛り込んだ。

図表 V-3 CSポートフォリオの結果を読み解く3つの視点

3つの視点	内容
1. 注目したい指標を選択する	CS ポートフォリオには多数の指標が含まれることから、すべての指標で改善やパーセンテージの上昇を目指さなくてよい。CS ポートフォリオを効果的に活用するためには、自校で目指す目標や、大切にしていることに近い指標を抽出し、それらに着目することが有効である。
2. 実感と結び付けて考える	CS ポートフォリオで出た数値を「結果」として単に受け入れるだけではもったいない。「なぜその結果が出ているのか？」といった問を立て、実際の取組や現場の実感と結び付けながら、関係者の中で対話を行い、各地域・学校での「解釈」を見つけていくことが重要である。
3. 組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりを考える	成果を高めていくためには、その成果につながる「組織運営（協議会の運営状態）」や「関係者の意識・活動（学校・家庭・地域の意識・連携協働の状況）」の状態をみることも有効である。成果とこれらの要素を見比べながら、よりよいCS運営へとつなげる「次なる一手」を見つけ出すことが重要である。

図表 V-4 3つの視点に連動するワーク

ワーク	内容
ワーク1：CSで期待する成果とは？	各地域・学校で期待するCSの成果（あるいはCS導入の目標）を言語化し、その内容と近いCSポートフォリオの項目・指標を抽出するワーク。
ワーク2：つながりの読み取り （関係者の意識・活動）	ワーク1で言語化した各地域・学校のCSの成果・目標を踏まえながら、CSポートフォリオの関係者の意識・活動に関する指標を見て、「CSの成果」と「関係者の意識・活動」との繋がりを探るワーク。
ワーク3：つながりの読み取り （協議会運営）	ワーク1やワーク2を踏まえながら、CSポートフォリオの協議会の運営に関する指標を見て、「協議会運営の状態」と「CSの成果」や「関係者の意識・活動」との繋がりを探るワーク。

3 CS フォーラム等における情報発信

令和3年度「地域と学校の新たな協働体制の構築のための実証研究（学校を核とした地域力強化プラン）」について、株式会社 Edo が受託した「地域とともにある学校づくり推進フォーラムの開催」事業と連携し、本実証研究ついでの情報発信に取り組んだ。

本年度の「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」事業では、令和3年度に以下の4地域でフォーラムを開催した。

図表 V-5 開催地域

日時	地域	名称
令和3年8月26日（木）	愛知県	地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2021 愛知
令和3年11月6日（土）	東京都三鷹市	地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2021 三鷹
令和3年11月19日（金）	宮城県石巻市	地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2021 石巻
令和4年1月下旬	九州・沖縄	地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2021 九州・沖縄

連携に当たっては、各地のフォーラム担当者が参加する「CS コアチーム会議」に参加し、随時お互いの事業進捗状況について情報共有を行うとともに、意見交換を行った。また、令和2年11月19日（金）に開催された仙台フォーラムでは1分科会を担当し、「CS で期待する成果を出していくためには～文部科学省委託調査結果から～」というテーマで情報発信を行った。分科会の具体的な内容は以下の通りである。

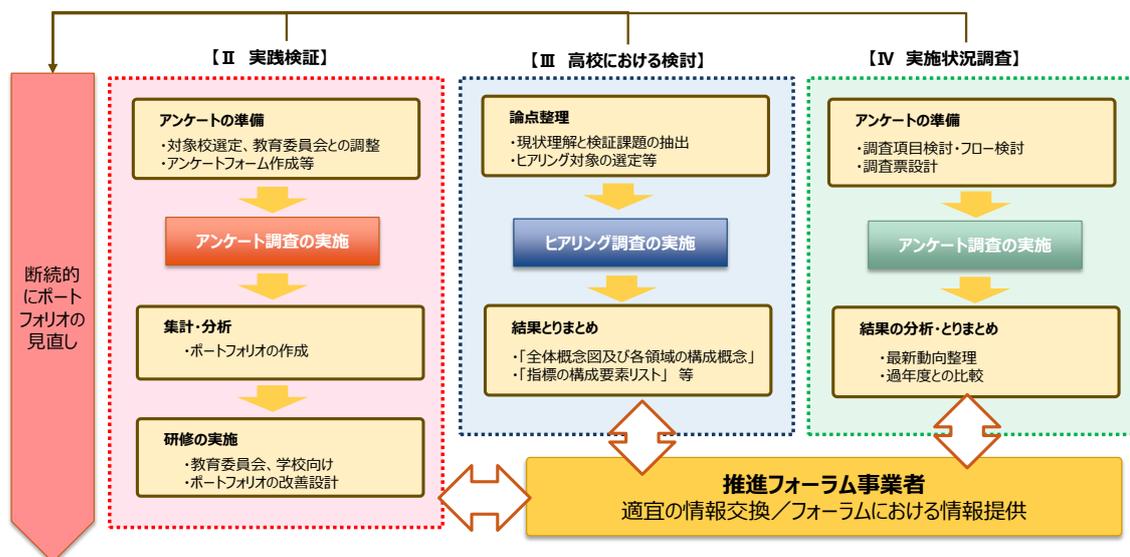
図表 V-6 分科会の内容

目次	内容	詳細
I	CSの実態 (CS 基礎的調査より)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度実証研究にて実施した「CS の運営・意識・取組等に関する基礎的調査」の結果紹介 ・CS 導入率、CS 導入の時期、CS で議論されている事項、学校運営協議会の会長人選等、基礎的な情報を提供
II	CSの効果的運営のポイント (CS 基礎的調査より)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度実証研究にて実施した「CS の運営・意識・取組等に関する基礎的調査」の結果紹介 ・基礎的調査の分析結果から、CS の効果的運営のためのポイントとして、「①CS（各校）での主体的な目的・目標の設定」「②CS（各校）の実行体制整備と明確な役割分担」「③CS（各校）と教育委員会の連携」の3点について説明
III	CSの実態把握・評価について (CS 効果検証調査より)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度実証研究にて実施した「CS の効果検証（ポートフォリオ）調査」の結果紹介 ・CS ポートフォリオの成り立ち及び構成要素等の紹介

VI. 実践検証のまとめ

令和3年度実証研究では、令和2年度実証研究までに作成された指標及びポートフォリオモデルを踏まえ、2つの地域での実践検証を行ったほか、高等学校におけるCSポートフォリオ普及可能性の検討、令和3年度「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査（実施状況調査）」を実施した。（以下、実施状況調査）における有識者や実践者の意見を取り入れながら、全体の見直し・改善を行った。改めて、本年度実証研究の全体像（効果検証調査部分）は下図の通りである。

図表 VI-1 実証研究全体像図表 VI-2



1-1. 令和3年度実践検証より得られた示唆

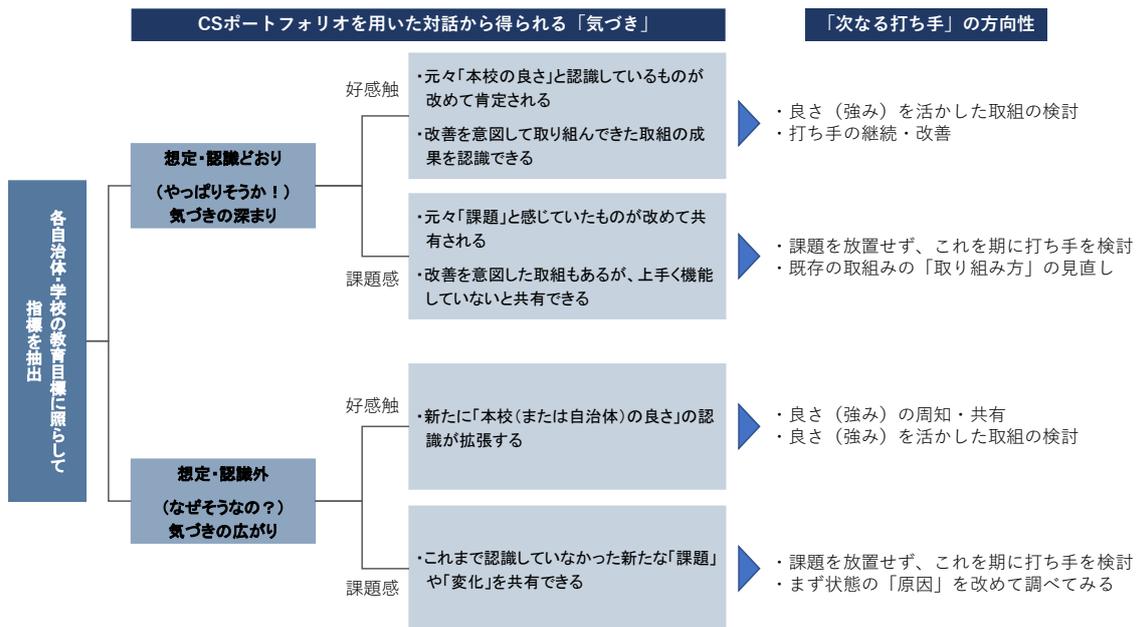
2つの地域における実践検証では、学校個別研修及び教育委員会研修を通し、以下のような示唆を得ることができた。

(1) CSポートフォリオ活用による「次なる一手」導出のモデル事例創出

本実証研修では2市8校で学校個別研修を実施し、各校において自校のCSポートフォリオを用いた現状把握・課題分析に取り組んだ。研修では関係者同士での対話を重視し、CSポートフォリオの内容について議論をした結果、それぞれの学校で「次なる一手」につながる気づきを得ることができた。

また、研修中に観察できた対話の内容から、「気づき」と「次なる一手」には、図表 VI-3のようなプロセスとパターンがあることの示唆が得られた。

図表 VI-3 CSポートフォリオを用いた対話から得られる「次なる一手」の発想プロセス



(2) 地域（教育委員会）で CS ポートフォリオを活用するモデル事例の創出

本実証研修では、学校個別研修のほかに教育委員会研修を実施し、地域全体の傾向及び各校の特徴の把握に取り組んだ。研修では、地域の CS 導入における目標を確認し、それに沿った CS ポートフォリオの指標抽出に取り組んだが、この過程では「目標の乱立」「それぞれの目標の不整合」「抽象度の高すぎる目標」「目指すべき目標の過多」など、目標設定に関する課題に気が付くことが出来た。

また、各校の CS ポートフォリオの結果を横並びで確認することでは、地域全体として良好な状態にある項目や、反対にばらつきが生じている項目の発見につながった。ただし、これは各校を比較して優劣をつけるものではない点に注意が必要である。各校のバラつきの把握は、教育委員会として特に支援を投入すべき項目の発見につながるほか、その中でも良好な状態を保つ好事例の発見につながることを期待するものである。

このように、地域で CS ポートフォリオを効果的に活用することで、教育委員会として効率的なリソースの投入及び納得感のある支援を展開する可能性が高まると示唆された。

また、高等学校における CS ポートフォリオ普及可能性の検討からは、以下のような示唆を得ることができた。

(3) 高校版 CS ポートフォリオ作成に向けた論点整理

令和 2 年度までに作成した CS ポートフォリオは、小学校・中学校を対象としたモデルであったため、高等学校における CS ポートフォリオの作成に向けた論点整理に取り組んだ。学校や

教育委員会へのヒアリングを通し整理された論点は以下の通りである。これらを踏まえ、引き続き具体の項目や指標の検討を行っていくことが期待される。

図表 VI-4 (3) 高校版CSポートフォリオ作成に向けた論点

- | |
|--|
| ① 学校運営協議会委員が居住する地域の広域性を踏まえた指標の検討 |
| ② 協議会委員のスクール・ポリシーに対する理解及び熟議の状況を把握できる指標の検討 |
| ③ 幅広い「地域」の捉え方及び協働活動の担い手に対応した指標の検討 |
| ④ 授業における関わりを測定する指標の検討 |
| ⑤ 保護者や生徒が居住する地域の広域性を踏まえた指標の検討 |
| ⑥ 保護者や地域住民の学校への関わりに対する理解（心理的障壁の軽減）を測定する指標の検討 |
| ⑦ 教員と地域との関わりを踏まえた指標の検討 |
| ⑧ 高校生のキャリア段階、発達段階に応じた資質・能力に係る指標の検討 |

そのほか、令和3年度実証研究ではCSポートフォリオ及び手引きの更新にも取り組んでおり、下記が成果として挙げられる。

(4) CSポートフォリオの活用利便性の向上

R3版ポートフォリオでは、総括表及び詳細表の視認性向上のため、レイアウトの改善を行うとともに、読み取りにおいてほとんど使わない、不要な要素の削減に取り組んだ。

また、エクセルの「グループ化」機能を使用して、不要な行を折りたたみ、必要な部分のみ表示させることができるようになっている。これにより、必要な部分だけ表示させたいというニーズに応えられるようになった。

加えて、CSポートフォリオを作成するためには、Googleフォームにて5種のアンケートを実施する必要があったが、これまでは地域・学校ごとに1からフォームを作成していた。しかしながら、このプロセスは手間が大きいことから各地域・学校で同様の手順を踏むことは現実的でなく、CSポートフォリオの普及・展開にあたりネックとなっている部分であった。そこで、令和3年度実証研究では文部科学省でGoogleアカウントを作成し、そこに元ファイルとなる5種のGoogleフォームを作成し、今後各地域・学校から希望があった場合は、元ファイルをコピーして活用できる「Googleフォーム複製・共有ツール」を開発した。これによって、Googleフォーム作成の手間を大きく省くことができ、CSポートフォリオ作成の利便性が向上したと考える。

なお、実践現場において一度Googleフォームを作成すれば、2年目以降は特に大きな準備はなく、URLを送付するだけで繰り返し調査を実施できるようになる。また、今後ポートフォリオモデルを各学校や教育委員会において自律的に活用してもらうため、ポートフォリオファイルに関連処理を行い、アンケート調査で回収したローデータをそのまま貼り付けると、必要な数値がグラフで整理されたシートが、自動的に作成されるようになっている。これらは、令和2年度から引き続き踏襲している事項となる。

(5) 手引きの更新

ポートフォリオモデルを作成・活用するための手引きとして、「CS ポートフォリオ作成の手引き」及び「CS ポートフォリオ活用の手引き」の2種を作成した。これらは、令和2年度実証研究にて作成したたたき台を更新したものである。

令和3年度実証研究では、2市8校で一斉研修、学校個別研修、教育委員会研修の3種（計12回）の研修を実施した。研修では、令和2年度に試作した「CS ポートフォリオ作成の手引き」及び「CS ポートフォリオ活用の手引き」をもとにした研修資料を作成し、各回の参加者の反応や質問を受けつつ、断続的に内容を改善している。また、研修参加者のCS ポートフォリオからの「気づき」や対話をふまえた「次なる一手」に関する発言を記録し、読み取り事例として手引きに掲載した。

このように、最終的に更新した2種の手引きは、CSポートフォリオを作成した学校・教育委員会関係者の意見を踏まえて改善されていることに加え、今後CSポートフォリオを活用する人にとって参考とできる「実践事例」を掲載したものとなった。

1-2. 残された課題

これらの結果を踏まえ、今後のCS効果検証の深化とCSポートフォリオの普及・展開を図っていく観点から、以下の通り課題と提案を整理した。

(1) CS ポートフォリオ活用の目的と意義の周知

令和元年度から令和3年度までの実証研究を通し、CSポートフォリオの構造及び具体の指標を作成したことに加え、普及・展開していくためのツール化、手引きの作成まで行うことができた。また、本年度行った2つの地域でのCSポートフォリオ活用実践では、CSポートフォリオを用いた「次なる一手」を導出する事例や、地域（教育委員会）単位での活用事例の導出につながり、CSポートフォリオ活用の可能性が改めて確認できたところである。

これらの成果を踏まえ、改めて整理したCSポートフォリオ活用の目的と意義は、本報告書及び「CSポートフォリオ作成の手引き」「CSポートフォリオ活用の手引き」にまとめた通りである。しかしながら、本年度実施した研修での対話では、どうしても地域比較に固執してしまう例や、相対的に低い指標に過度に着目してしまう例も散見された。本来、CSポートフォリオは自校の状態診断として、「目的に対する現状把握」や「経年での状態の変化」などをより重視して活用するものである。地域比較や低位の指標への着目は勿論悪いことではなく、1つの読み取り軸として非常に有効であるものの、それに「固執」しすぎないようにすることは、今後も繰り返し説明していく必要があると考える。

来年度以降も、CSポートフォリオを活用する者への研修等の実施を通して、継続的にCSポートフォリオの目的と意義の周知が図られていくことを期待したい。

(2) 簡易的な CS ポートフォリオ活用方法の検討

CS ポートフォリオには非常に多くの指標が組み込まれており、これを完成させるには5種（協議会用、地域用、保護者用、児童・生徒用、教職員用）のアンケートの実施が必要である。しかしながら、5種すべてのアンケートを毎年行うことは現場の負担が大きい。指標によっては、必ずしも毎年取らなくてもよいと考えられるものもあり、より省力的な活用方法（例えば、学校運営協議会の状態に関する指標のみ毎年定点観測するなど）を検討する必要がある。今後は、部分的なアンケート実施及びCS ポートフォリオの部分的な作成など、うまく手軽に活用する事例が出てくることを期待したい。

(3) 高校版 CS ポートフォリオにおける指標の検討

本年度実証研究では、高等学校におけるCS ポートフォリオの作成に向けた論点整理に取り組んでおり、「地域」のとらえ方、「スクール・ポリシー」との関係性、授業における地域との関わり方など、小・中学校との違いが明確になったところである。

一方で、本年度は論点整理を行ったものの、具体の項目や指標の設定までは行えていない。学校関係者、教育委員会関係者や有識者へのヒアリング等を通し、引き続き具体的な検討が進むことを期待したい。

なお、特別支援学校におけるCSの運用方法も、小中学校とは大きく異なっていることが、教育委員会や学校を対象とした全国調査において明らかになっている。CSの効果検証を行うにあたっては、学校種等の特性に応じて、適切な方法を検討する必要がある。

(4) 既存の評価活動と連動した普及を期待（令和2年度から残された課題）

ほとんどの学校においては、「学校評価」として、教職員が行う「自己評価」（法令上の義務）、保護者・地域住民等の学校関係者が行う「学校関係者評価」（法令上の努力義務）に取り組んでいる。これらの評価活動と、CSのポートフォリオモデルを作成するための教職員調査、地域（協働活動参加者）調査、保護者調査等を一体として行っていくことができれば、CSポートフォリオモデルの一層の普及になると同時に、学校現場の負担軽減につながることも考えられる。

既存の評価活動と連動しつつ、省力的かつ効果的にCSの効果検証を行っていくことで、学校現場の改善活動に寄与することを期待したい。

VII. 参考資料

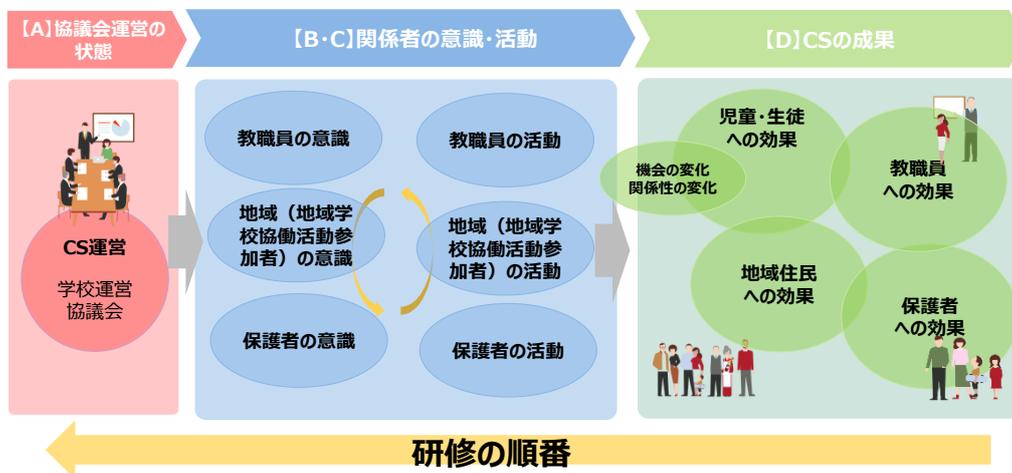
1 地域集約表の読み取り（詳細）

教育委員会研修で使用した地域集約表について、A市の結果を例に、より詳細な分析結果を行ったため参考資料として添付する。研修では、以下のような流れで分析結果について協議したため、以降でもD領域→C領域→B領域→A領域の順に分析結果を紹介する。

図表 VII-1 教育委員会研修の内容

- ① A市がCSを通して目指す目標の確認（D領域から関連する指標の抽出※特に子ども）
- ② ①の指標に関連する関係者の意識・活動状況の確認（B・C領域から関連する指標を確認）
- ③ 協議会運営の状態の確認（A領域指標の確認）

図表 VII-2 効果発現までの構造と研修の順番



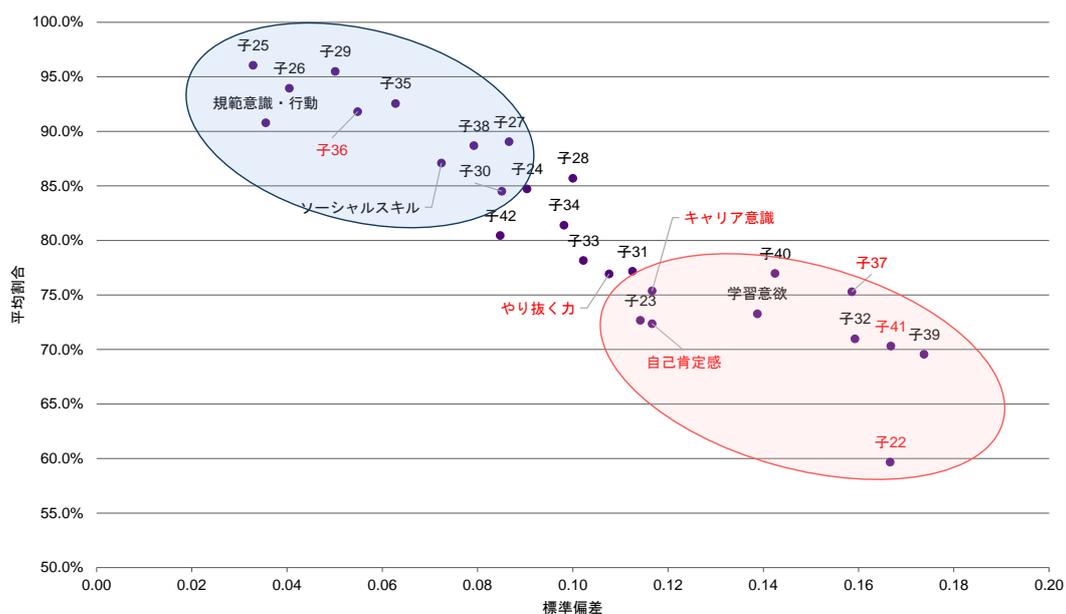
v. D領域：子どもへの効果

図表 VII-3 は、子どもの資質・能力に関する指標について、地域集約表の数値から、縦軸に肯定的回答割合の学校平均値を、横軸に標準偏差をとってグラフ化したものである。

グラフの左上（青で囲んでいる部分）は、学校平均値が高く標準偏差が小さい指標群である。これらの指標は、多くの学校で85%以上の高い肯定的回答割合となっており、かつ学校ごとのバラつきも小さい。市内全体的に良好な状態であると見なすことができる。一方で、グラフの右下（赤で囲んでいる部分）は、相対的に見ると学校平均値が低く、標準偏差も大きい指標群である。これらは、市内全体的に肯定的回答割合が低めであり、かつ学校ごとのバラつきも大きいことを意味する。

教育委員会との協議から、A市がCSを通して目指す目標に関連する指標として、「自己肯定感（子22-24）」「やり抜く力（子31-34）」「キャリア意識（子41-42）」「先生や友達が話している時に、最後まで聞くことができる（子36）」「他の人と異なる意見でも、自分の意見を言える（子37）」を抽出した（グラフ中で赤字にしているもの）。グラフをみると、子36は左上に位置しているが、その他の指標は真ん中から右下にかけて分布しており、特に子22が右下のやや離れた位置にあることが分かる。つまり、A市がCSを通して目指す目標のうち、「先生や友達が話している時に、最後まで聞くことができる（子36）」は非常に良好である一方で、小分類レベルでいえば「自己肯定感（子22-24）」で、個別指標でいえば「今の自分を気に入っている（子22）」で学校平均値が低く、バラつきも大きくなっていることが分かった。目標の抽出や、子どもの資質・能力に関する結果について、教育委員会からは図表 VII-4、図表 VII-5 のような意見が出された。

図表 VII-3 子ども：資質・能力に関する自己認識



注) 縦軸：肯定的回答割合の学校平均値、横軸：標準偏差（以降同様）

図表 VII-4 目標の抽出に関する意見

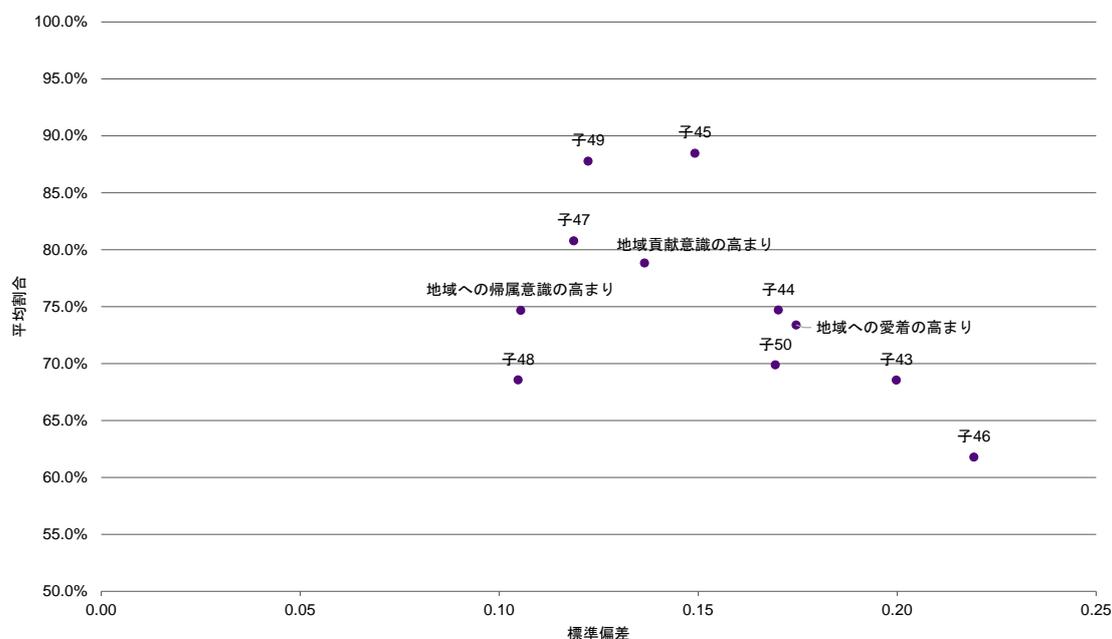
- ・地域全体の構想、学校の教育目標、探究授業で目指す目標などやや乱立状態であり、結局何を指して参画すれば良いのか、地域の大人が混乱しているかもしれない。
- ・各校にて掲げられている目標についても、目的と手段が混同してしまっているかもしれない。「探究授業を行う」ということが目標に掲げられていたりするが、これはあくまで手段であって、このあたりの整理をするための熟議が必要だろう。
- ・複数目標がある場合に、それぞれうまく連携し切れていない。目標同士の繋がりが整理されると良い。
- ・各校で状況がかなり異なるため、地域全体の構想で大目標を掲げつつも、各校の目標はそれぞれで進んでいくだろう。地域の構想と各校の目標をどう整理して、現場に伝えていけばよいだろうというところに課題感を感じていたため、CS ポートフォリオの指標も活用しつつ改めて考えてみたい。

図表 VII-5 子どもの資質・能力に関する意見

- ・自己肯定感が低いのが気になる。大人の（特に保護者）の「貢献・生きがいの実感」や地域への貢献意識に関する指標が低く、これも子どもの自己肯定感に影響しているのではないか。
- ・自己肯定感という小分類の中でも、自己有用感指標（子 23：自分はやればできる人間だと思う）に比べ、自己肯定感指標（子 22：今の自分を気に入っている）が低い。これまで自己肯定感を高めることは目標にしてきたが、客観的な数値でモニタリングしてきたわけではない。目標に対する取組が不足していた可能性があるため、改めて考えてみたい。
- ・ある中学校は、同じ地域内の3つの小学校から生徒が進学してくるが、小学校3校の児童の自己肯定感と、中学校の生徒の自校肯定感の肯定的回答割合に大きな差がある。中学校に進学するとややシビアにつけるという面はあるだろうが、どうしてここまで下がるのか考えてみたい。

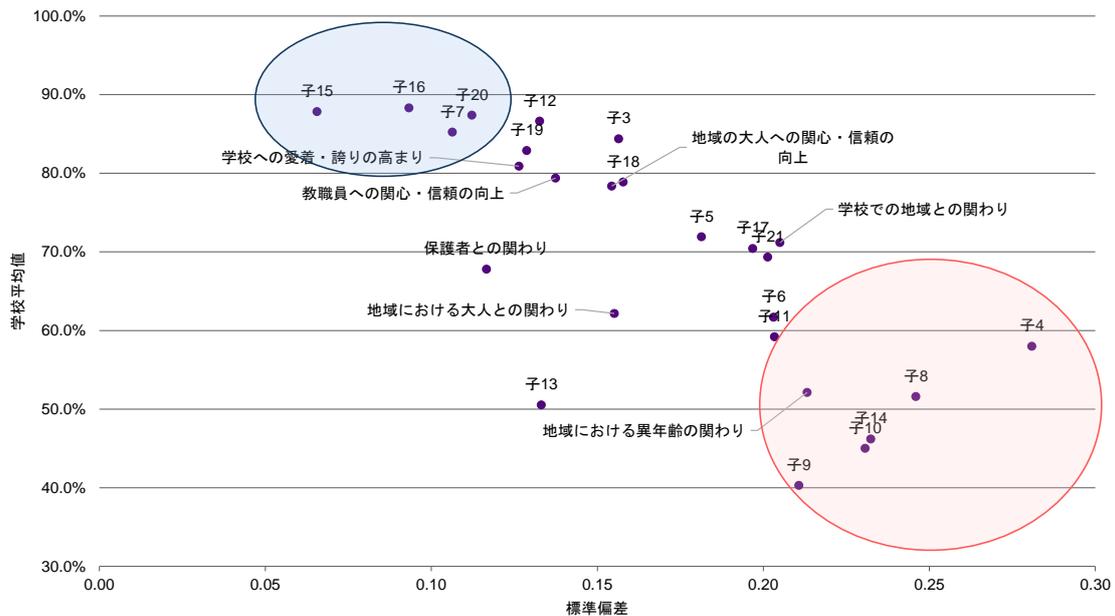
また、図表 VII-6 は子どもの地域への愛着・貢献意識に関する指標をグラフ化したものである。これをみると、「いま住んでいる地域が好きである（子 45）」「自分も地域の人役に立ちたい（子 49）」は学校平均値が高い一方で、「将来も今住んでいる地域に住み続けたい（子 46）」は相対的に学校平均値が低く、学校のバラつきも大きいことが分かった。

図表 VII-6 子ども：地域への愛着・貢献意識の向上



図表 VII-7 は、子どもの資質・能力に影響を与える、子どもが享受する機会や子どもの大人との関係性に関する指標をグラフ化したものである。これをみると、「自分の親が、学校での話を聞いてくれる（子 15）」「自分のよいところを認めてくれる先生がいる（子 16）」「地域の大人は、自分を見守ってくれている（子 20）」など大人との関係性・交流の機会については肯定的回答割合が高い一方で、「学校や家の近所で、地域の人のお手伝いをする（子 9）」「地域のほかの学校の子ともと交流する（子 10）」では相対的に肯定的回答割合が低く、「授業や学校行事の中で、地域の人と一緒に活動する（子 4）」では学校のバラつきが大きいことが分かった。結果について、教育委員会からは図表 VII-8 のような意見が出された。

図表 VII-7 子ども：享受する機会、学校・教職員・地域との関係性



図表 VII-8 子どもの享受する機会、大人との関係性に関する意見

- ・教職員、地域の大人、保護者が子どもを見守り、肯定する姿勢などは各校とも高い水準だと言えるが、具体的な教育活動や地域活動の機会は、学校による差が大きい。
- ・子どもの地域への愛着をさらに高めていくためには、魅力的な大人にもっと学校に参画してもらい、子どもと出会ってもらうことが重要か。
- ・地域の行事などに参加していると、意外と地域の大人が子どもに声をかけていないなど感じる。子どもの自己肯定感を高めていくためにも、大人が子どもをもっと積極的にほめる、といった意識を共有しても良いかもしれない。（「地域に貢献してくれているね」というような内容も積極的に）

vi. D領域：大人への効果

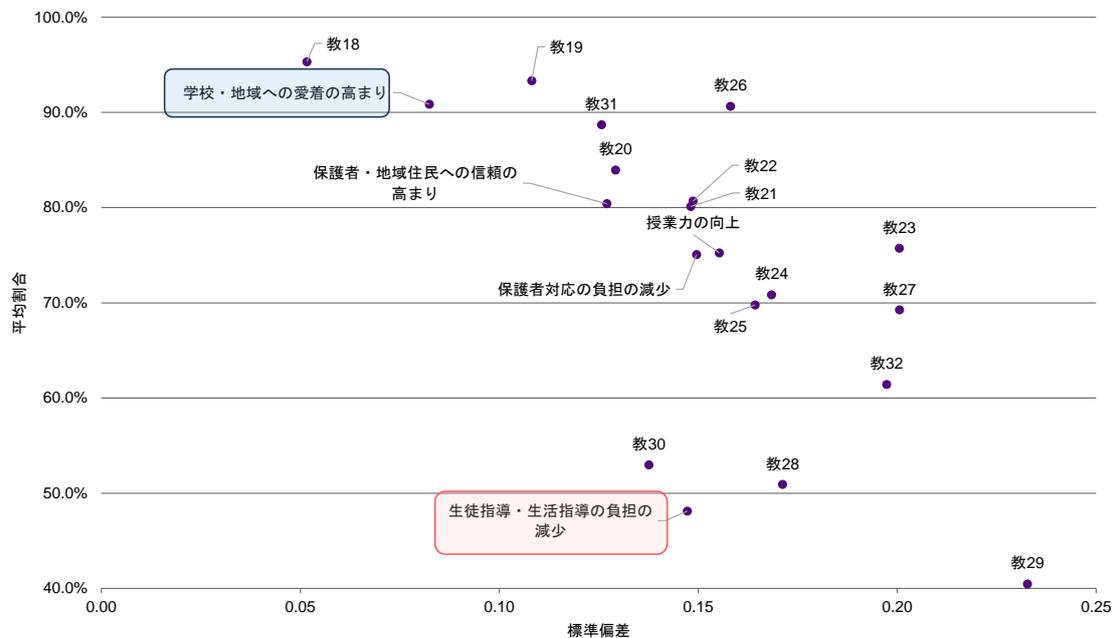
図表 VII-9 から図表 VII-11 は、大人への効果に関する指標をグラフ化したものである。これをみると、教職員への効果では、小分類単位では「学校・地域への愛着の高まり」が高い肯定的回答割合を示す一方で、「生徒指導・生活指導の負担の減少」については相対的に低い割合となっている。個別指標でみると、「地域の人が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている（教 29）」の割合が低く、学校のバラつきも大きい。

地域学校協働活動参加者への効果では、小分類単位では「学校・地域への愛着の高まり」が高い肯定的回答割合を示す一方で、「貢献・生きがいの実感」で相対的に低い割合となった。個別指標でみると、「地域の子どもの成長に貢献している実感がある（地 27）」の割合が低く、学校のバラつきも大きい。

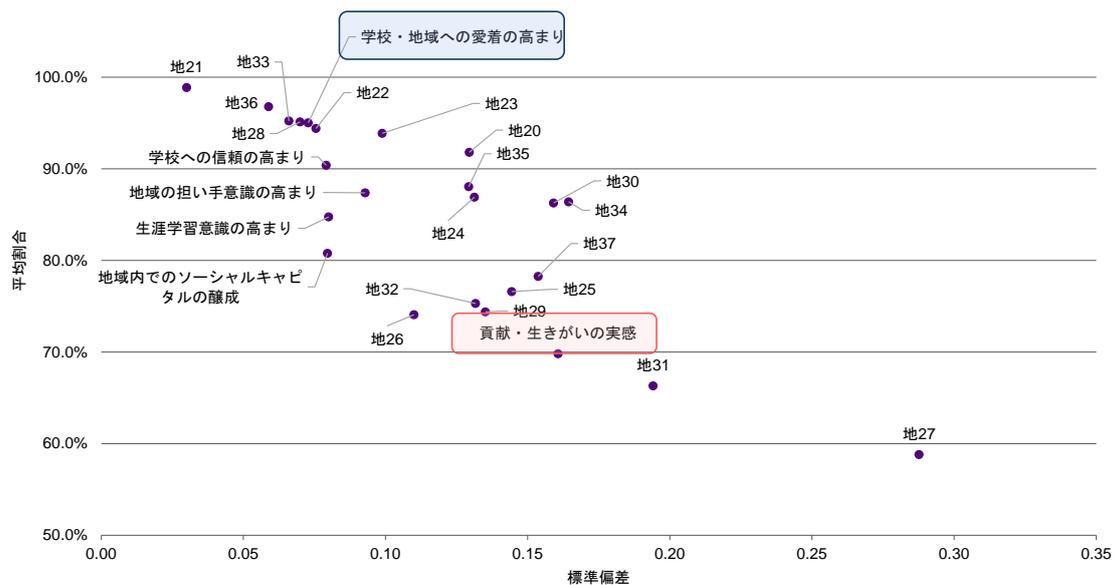
保護者への効果では、小分類単位では「学校・地域への愛着の高まり」が高い肯定的回答割

合を示す一方で、「貢献・生きがいの実感」で相対的に低い割合となっており、標準偏差も大きい。個別指標でみると、「地域の良さを次世代に受け継ぎたい（保 36）」「どのような年齢になっても学び、学び直しをしたい（保 28）」などの割合が低く、学校のバラつきも大きい。結果について、教育委員会からは図表 VII-12 のような意見が出された。

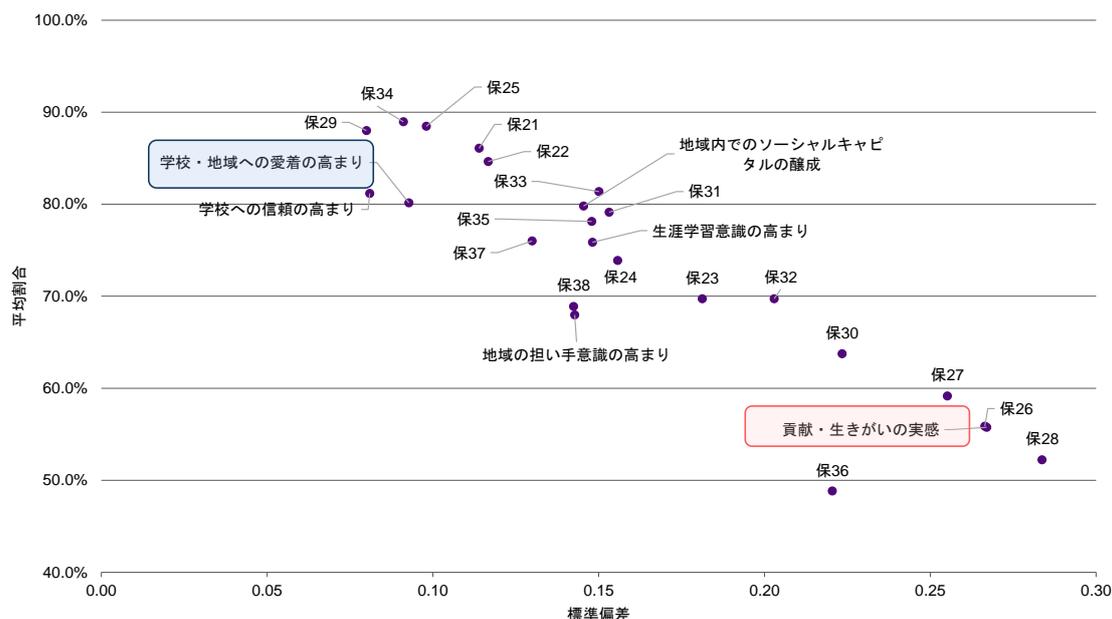
図表 VII-9 教職員への効果



図表 VII-10 地域学校協働活動参加者への効果



図表 VII-11 保護者への効果



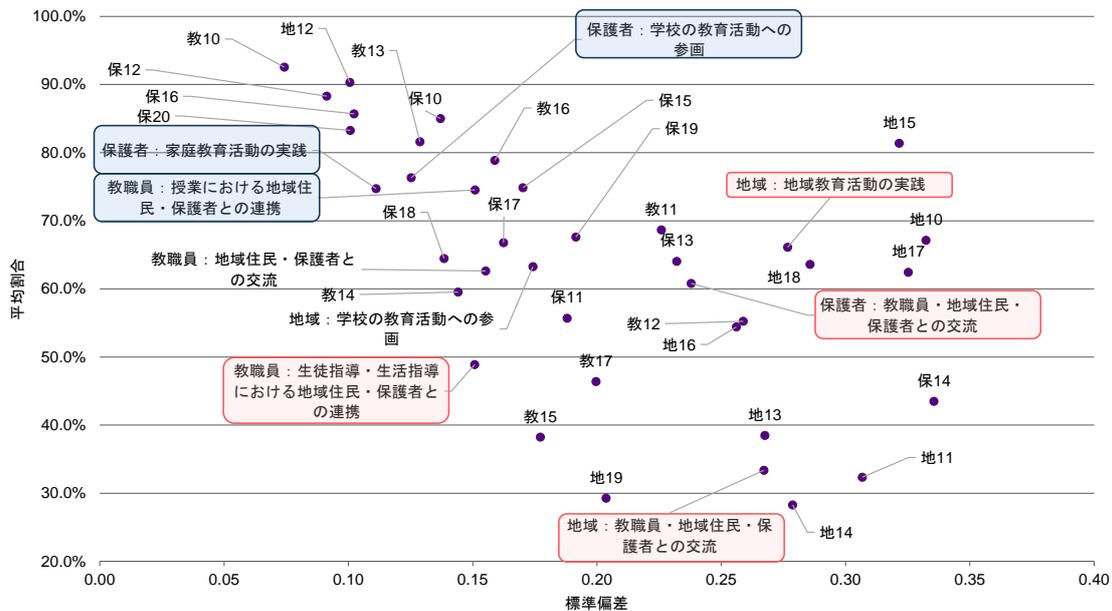
図表 VII-12 大人への効果に関する意見

- ・地域学校協働活動参加者や保護者の「貢献・生きがいの実感」が低いことに課題を感じた。また、それぞれにある「地域の子どもの成長に貢献している実感がある」という指標は重要なので、相対的に肯定的回答割合が低く学校のバラつきも大きいことは気になる。
- ・保護者の「貢献・生きがいの実感」や地域への貢献意識に関する指標が低い中で、子どもの意識が高まるとは思えないので、ここを改善していかなければならないのではと感じた。
- ・なお、他地域（R2 文科省実践検証校の平均）と比較すると必ずしも肯定的回答割合の絶対値は低くないのかもしれないが、自地域としてはもう少し高めたいという認識でいる。
- ・保護者の「貢献・生きがいの実感」はどのようにしたら上がるのか分からない。学校行事や懇談会に積極的に参加していても、それが子どもたち（地域）に貢献しているかと言われると分からない。
- ・共通の目標意識や自分の役割意識がもっと浸透していくと、効果実感は上がっていくのではないかと。
- ・学校は、地域の人や保護者が協力してくれたことに対して、子どもたちの声やその成果についてフィードバックしていくことが必要かもしれない。

vii. C 領域：関係者の活動

図表 VII-13 は、関係者の活動に関する指標をグラフ化したものである。これをみると、小分類単位では保護者の「学校の教育活動への参画」「家庭教育活動の実践」、教職員の「授業における地域住民・保護者との連携」の肯定的回答割合が高い一方で、教職員の「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携」、地域学校協働活動参加者の「地域教育活動の実践」「教職員・地域住民・保護者との交流」、保護者の「教職員・地域住民・保護者との交流」については相対的に低い割合で、学校のバラつきも大きくなっている。結果について、教育委員会からは図表 VII-14 のような意見が出された。

図表 VII-13 教職員・地域学校協働活動参加者・保護者の「活動」



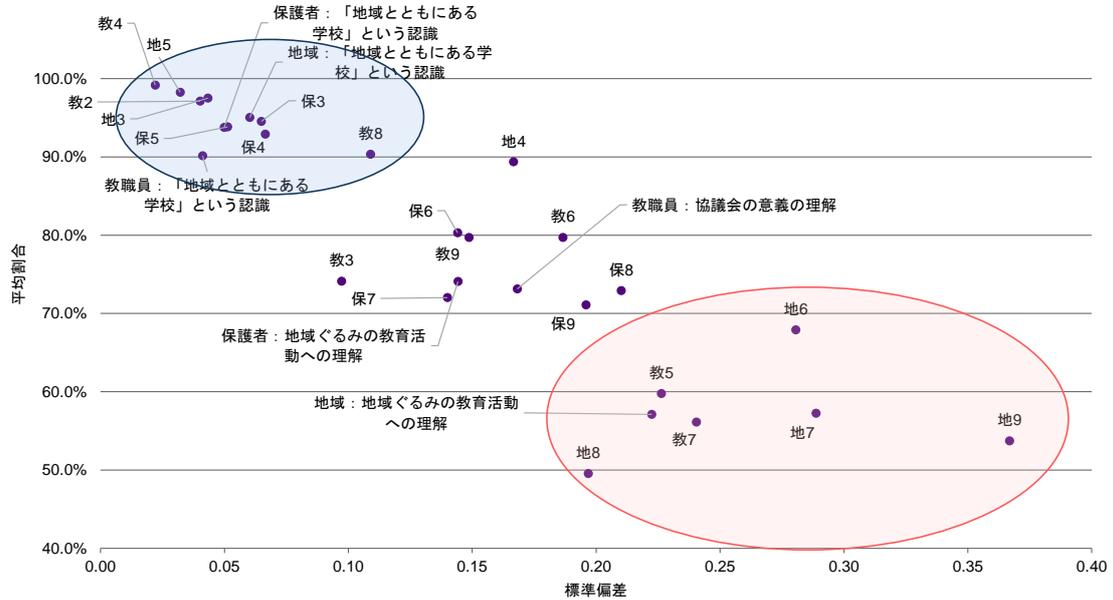
図表 VII-14 関係者の活動に関する意見

- ・面白い大人が持続可能な形で入るという点では、どの学校もやや弱いように感じたので、今後の検討課題にしたい。
- ・それぞれの関係者において、学校の教育活動への参画、地域を意識した教育活動という点からはある程度実践されているようだが、その質・量の基盤となる日ごろの交流に関する項目（教職員・地域住民・保護者との交流：地 13-14、保 13-15）の肯定的回答割合が低い。
- ・学校によっては「コラボルーム」等の名称で、地域の人に開放している教室があったりするので、そういった好事例を参照しつつ、どのような取組を強化していけるか考えたい。

viii. B 領域：関係者の意識

図表 VII-15 は、関係者の意識に関する指標をグラフ化したものである。これをみると、小分類単位では3者の「『地域とともにある学校』という認識」で非常に高い肯定的回答割合を示す一方で、地域学校協働活動参加者の「地域ぐるみの教育活動への理解」については、相対的に低い割合となっており、標準偏差もやや大きい。個別指標でみると、「活動（学校支援活動・地域学校協働活動）の参加者同士で、活動目的や内容を話し合う機会がある（地8）」で割合が低く、「学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている（地7）」「自分の参加する活動以外に、どのような活動があるか知っている（地9）」などで学校のバラつきが大きくなっている。結果について、教育委員会からは図表 VII-16 のような意見が出された。

図表 VII-15 教職員・地域学校協働活動参加者・保護者の「意識」



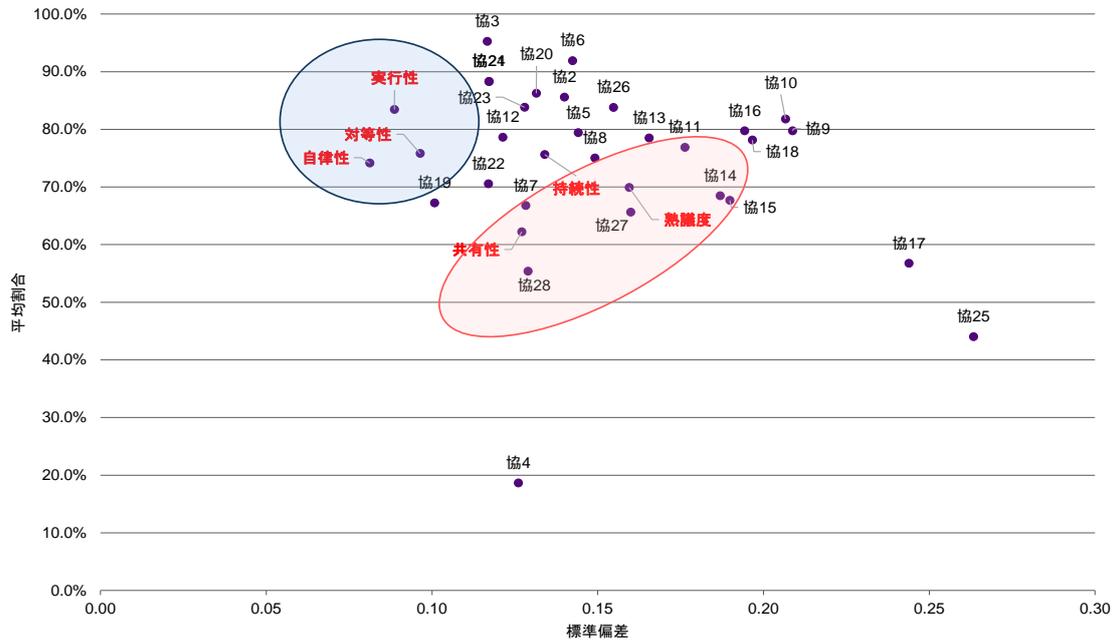
図表 VII-16 関係者の意識に関する意見

- ・3主体とも地域との協働の必要性は理解しているが、具体的な教育活動を協働で進めていくための情報を持っていないのかもしれない。(日常的な交流機会が少ないことと相互に影響している印象)
- ・総じて、学校目標は意識しているが、地域で育てたい子ども像の共有はできていない傾向である。

i. A領域：協議会の運営

図表 VII-17 は、学校運営協議会の運営状態に関する指標をグラフ化したものである。これを見ると、「自律性」「対等性」「実行性」では相対的に高い肯定的回答割合を示し、「持続性」「熟議度」「共有性」で相対的に低い割合となっている。個別指標でみると、「教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある(協4)」で割合が低いほか、「当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある(協17)」「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている(協25)」において学校のバラつきが大きい。結果について、教育委員会からは図表 VII-18 のような意見が出された。

図表 VII-17 学校運営協議会の運営状態



図表 VII-18 学校運営協議会の運営状態に関する意見

- 本年度は地域の構想に関する情報発信にある程度力を入れたため、少なくとも昨年度よりも目標が浸透している印象。協議会委員の中では、地域の構想の目標自体には共感しているが、それを具体的にどのように進めれば良いのか、何から始めたらよいのかといった混乱を感じている状況に見える。
- 協議会自体の自律性や実行性は肯定的回答割合が高い一方で、共有性（問題の開示、対外的な情報発信）と熟議度の深まり（企画段階からの議論や変更）はやや低い割合となっており、これらに相互の影響がありそうか。また、具体的な教育活動に対する3者の理解、日常的な交流機会の少なさと相関がありそうである。